

ニ基キ實地ノ練習ヲ爲サシメ兼テ諸材料ノ識別鑑定法ヲ授ク又試験機械ニ依テ諸材料ノ強弱ヲ初メ其他瓦斯石油等ノ良否ヲ檢定スルノ法ヲ實修セシメ併テ汽機、汽罐ノ取扱法ヲ練習セシム

電氣科教旨、專門學科、授業要項

電氣科ハ電氣機械分科電氣化學分科ノ二科ニ分チ電氣機械分科ニ於テハ電力ノ傳送、分配、電氣鐵道、電燈

電氣科電氣機械分科專門學科課程

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
電氣磁氣	第三學期 三		
工作法	二		
應用力學	力學 圖法力學	材料 機械其他	第三學期 三
電氣工學	電池、發電機、電動機 電燈、電力其 他電氣應用 交流電論 發電機、電動機、變壓器設計	第一學期 一 第二學期 二 第三學期 三	電信、電話、電燈、電力傳送、電氣鐵道 發電機、電動機、變壓器設計

等ニ關スル學科目ヲ授クルニ在ルモ其業十中ノ八九ハ機械工業ニ屬スルニ依リ機械科ノ各學科ハ勿論機械科工場實修ヲモ苟モス可ラス電氣化學分科ニ於テハ電鑄、電鍍、電氣冶金其他電氣化學工業ニ關スル學術ヲ授クルヲ以テ化學ノ知識ヲ要スルコト固ヨリ論ナク且冶金術ニ電氣ノ用途益々開發スルニ依リ普通冶金ヲモ授ク又兩分科ヲ通シテ物理及數學ハ共ニ必須ナリトス本科ニ課スル專門學科及授業要項左ノ如シ

電氣科電氣化學分科專門學科課程

備考 應用力學ニ相當シタル時數中便宜若干時ヲ割キ練習ニ充ツルモノトス

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
發動機	木工鑄造 第一學期 八 木工鑄造、鍛工、仕上 第二學期 四 電氣實修 第三學期 七	汽機、汽罐、水車其他 第一學期 三 汽機、汽罐、水車其他 第二學期 三 汽機、汽罐、水車其他 第三學期 三	
工場實修	電氣實修 第三學期 四	電氣實修、製圖、汽機、電氣實修、汽罐、發電機、蓄電池 第一學期 八 製圖、電氣實修、汽機、電氣實修、汽罐、發電機、蓄電池 第二學期 一 製圖、電氣實修、汽機、電氣實修、汽罐、發電機、蓄電池 第三學期 一	製圖、電氣實修 第一學期 二 製圖、電氣實修 第二學期 二 製圖、電氣實修 第三學期 二
電氣磁氣	第三學期 三		
電氣工學	電池、發電機、電動機 第二學期 二 電燈、電力其他電氣應用 第三學期 二	發電所設計 第一學期 二 發電機、變壓器、蓄電池等ノ取扱方法 第二學期 二 電線布設法、電氣分配法 第三學期 二	
冶金學			電氣アルカリ、電氣 第二學期 二
電氣化學	電鑄、電鍍、電氣アルカリ等 第一學期 一 第二學期 二 第三學期 三	電氣アルカリ、電氣 第一學期 一 電氣アルカリ、電氣 第二學期 二 電氣アルカリ、電氣 第三學期 三	
工場實修	電氣 第一學期 一六 機械 第一學期 一六	第三學期 一三	第一學期 三 第二學期 三 第三學期 三

授業要項

電氣磁氣

電氣磁氣ハ靜電氣ニ於テ電氣ノ感應傳導比感容量等ヨリ電位論ヲ授ケ磁氣ニ於テ磁力ノ定則ヨリ磁田及力線ニ及ヒ磁氣「モーメント」ノ測定法等ヲ授ケ動電氣ニ於テ電池ノ化學的作用ヲ講シ「フォーム、マウル、ハラデー」ノ定則及應用ニ及ヒ電氣ト磁氣トノ關係ヲ授ケ

工作法

應用力學

工作法、應用力學ハ機械科生徒ト同時ニ之ヲ授ケ

電氣工學

第二學年ニ於テハ電池、發電機、電動機ノ構造及動作ノ大要并電燈、電力其他電氣應用ノ一斑ヲ授ケ尙同學年ヨリ第三學年ニ亙リ交番電流理論、發電機電動機及變壓器ノ設計、電信、電話、電燈、電力傳送及電氣鐵道ノ六部ニ分テ講授ス

交番電流理論ニ於テハ交番電流ノ理論ヲ授ケ

發電機電動機及變壓器ノ設計ニ於テハ初メ其原則ヲ講シ次ニ原則ヲ直流發電機、直流電動機、交流發電機、交流發動機等ノ設計ニ應用スル方法ヲ説明シ最後ニ變壓器ノ設計ヲ授ケ

電信ニ於テハ電信回線ヲ説明シ次ニ電信機械ノ構造、電線建築及海底電信線ノ布設並之カ試驗法及特種電信機ノ構造動作ヲ授ケ電話ニ於テハ電話機械、電話交換機ノ構造ヲ説明シ次ニ電話線建設及電話交換法ヲ授ケ電燈ニ於テハ沿革ヨリ電氣單位及測定各種ノ電燈法式、發電所ノ設計配電法ヲ講シ白熱燈及弧狀電燈ノ理論及應用ヲ授ケ

電力傳送ニ於テハ初メ動力電送ノ原理ヲ説キ終ニ其應用ヲ授ケ

電氣鐵道ニ於テハ軌道建設法、發電所設計法及電氣鐵道ノ諸方式ヲ講シ次ニ電車及附屬品ノ構造ヲ説明ス

發動機

機械科ニ課スル所ノ發動機ヲ取捨折衷シテ授ケ

工場實修

機械實修

機械科工場實修中木工、鑄造、鍛工、仕上實修ヲ取捨折衷シテ授ケ

電氣實修

電氣實修ニ於テハ電氣磁氣及電氣工學ニ於テ講授セシ事項ニ就キ實修セシム

電氣化學分科

電氣磁氣

電氣機械分科ニ課スル電氣磁氣ニ同シ

電氣工學

第二學年ニ於テ電池發電機電動機ノ構造及動作ノ大要并電燈電力其他電氣應用ノ一斑ヲ授ケ又第三學年ニ至リ發電所設計、發電機、變壓器、蓄電池等ノ取扱法、

電線布設法并電力分配法ノ大意ヲ講授ス

冶金學

冶金學ニ於テハ銅、鉛、銀、金、亞鉛、錫等重要ナル礦物ノ性質等ヲ講シ冶金ノ原理及方法等ヲ授ケ冶金ニ要スル器械及爐ノ構造等ヲ講授ス

電氣化學

電氣化學ハ第二年ニ於テ電氣分解並電力分配ニ關スル理論ヲ授ケ電鍍電氣冶金等ヲ行フニ必要ナル原理ヲ會得セシメ次ニ電池、電鍍法、電氣象眼、電鑄法等ヲ講シ又第二年三學期ヨリ第三年ニ涉リ「アルミニウム」、銅、金、銀、「マグネシウム」、「ソヂウム」、亞鉛、錫等ノ電氣冶金、炭化石灰並「カーボンダム」ノ製造、「アルカリ」、鹽類、鹽酸加里等ノ電解製造其他ノ藥品、顏料、鞣革等化學工業ニ於テ電氣ノ應用ニ關スル理論及方法等ヲ授ケ

工場實修

電氣機械實修

電氣機械分科工場實修中電氣實修ヲ取捨折衷シテ授ク

電氣化學實修

電氣化學實修ニ於テハ電氣化學ニ於テ講授セシ事項ニ就キ實修セシム

工業圖案科教旨、專門學科、授業要項

工業圖案科ノ期スル所ハ科學ノ知識ヲ有スル圖案家ヲ養成スルニ在リ蓋シ當今ノ圖案家ニ必要ナルモノハ各種工藝品ノ製造ニ直接應用セラルヘキ科學及其製造法ノ大體ニ通シ且製品ノ用途ニ應シ需要者ノ嗜好ニ投スヘキ良好ノ意匠ヲ施スニ在リ例ヘハ我國人ニハ歷史上ノ聯想ヨリ優秀ノ意匠ニシテ且用途ニ適セリトスルモノモ海外輸出ヲ目的トスル物品ニ在テハ外人ニハ我歴史ノ觀念ナキノミナラス其用途モ自ラ異ナルヘキヲ以テ特ニ其嗜好ト用途ニ就テ意匠ヲ凝ササルヘカラサル

ナリ而シテ又製品ニハ科學ノ應用必要ナルヲ以テ特殊ノ知識ヲ有シ且親シク之ヲ製造スルノ技術ニモ習熟シ始メテ適良ナル圖案家ト稱スルヲ得ヘシ本校ノ望ム所實ニ爰ニ在ルヲ以テ圖案製作ノ知識資料トナルヘキモノヲ教授スルト同時ニ始メ二學年間ニ於テ圖案實修ノ外木工、金工、染織、漆工、窯業、製版等ノ實修ヲナサシメ以テ各製造ニ關スル知識ヲ與ヘ圖案應用ノ適否ヲ練習會得セシメ更ニ最後ノ一年ニ於テハ以上各業ノ一ヲ撰ヒ專修練達セシム是レ生徒各自カ將來主力ヲ用フヘキ工業ノ種類ニ精通センコトヲ欲スト雖一業ニ偏セス各種工藝品ノ圖案製作ヲモ爲シ得ルモノヲ養成センコトヲ欲スレハナリ本科ニ於テハ重キヲ實技ニ置クコト上述ノ如シト雖之ヲ從來ノ經驗ニ徵スルニ三學年ノ課程ノミニテハ其修練足ラサルモノアルヲ以テ今回ノ規則改正ニ於テ此等ノモノニ在テハ修業年限ヲ延長シ尙其技術ヲ研修セシムルコトトセリ

本科ニ課スル專門學科、授業要項左ノ如シ

工業圖案科專門學科課程

學科	科目	第一學年	第二學年	第三學年
圖案法	有職故實	二	一	一
建築裝飾	工裝史	一	一	一
博物	動物解剖	一	一	一
自在畫		第一學期 二〇六	第一學期 一四	第一學期 一四
圖案實修		第一學期 七七	第一學期 七四	第一學期 七四
圖案應用	木工、金工、染織	第一學期 七七	第一學期 七七	第一學期 七七
		第二學期 七七	第二學期 七七	第二學期 七七
		第三學期 七七	第三學期 七七	第三學期 七七
				特修製作 八

備考 博物ハ第一年生及第二年生ヲ合シテ隔年ニ之ヲ課ス之ヲ課セサル學年ニ於テハ其時間ヲ自在畫ニ充ツ

授業要項

圖案法

圖案法ハ形狀裝飾及色彩ノ三部ニ分チ形狀ノ部ニ於テ器物類ニ於クル用途ト形狀トノ關係及器體各部ノ目的及形式其他一般製品ノ形狀ニ關スル意匠上ノ原則ヲ授

有職故實

ク次ニ裝飾ノ部ニ於テ模様ノ資料、組織其他裝飾ニ關スル原則ヲ授ク色彩ノ部ニ於テハ色ノ性質配色ノ原則練習ノ方法等ヲ授ク

人事ニ關スル器財調度ノ形狀裝飾及色彩ニ就キ有職故
實ノ沿革及用途ノ狀態ヲ知ラシメ以テ新意匠圖案ノ資
ニ供セシム

建築裝飾

建築裝飾ニ於テハ上古ヨリ近世ニ至ルマテノ東西諸邦
國ノ建築ニ屬スル各時代裝飾樣式ノ歴史及沿革並ニ家
具什器等ノ裝飾ヲ授ク

工藝史

工藝史ニ於テハ上代ヨリ近世及現今ニ至ル工藝即染
織、漆器、陶磁器、彫刻、鑄金、印刷、圖書、建築、
機械、造船等ノ起原變遷等ヲ講說シ且器物鑑識ノ大意
ヲ授ク

博物

本科ニ課スル博物ハ普通ノ博物學ニアラスシテ圖案資
料ノ研究ニ資センカ爲ニ動植物各部ノ組織ニ關スル工
藝用解剖ヲ授ク終ニ人體ノ骨格筋肉ノ組織ヲ知ラシメ

靜止動作ノ變應ヲ講授ス

自在畫

自在畫ニ於テハ見取、臨畫、新案ノ三部ニ分チ見取ハ
初メ石膏型ニ依リ形狀及明暗ヲ寫サシメ漸次各種標本
ニ依リ動物、植物、人體等ヲ見取リ漸次自然物ニ及ヒ
臨畫ニ於テハ新古ノ諸畫ニ依リ草木、禽獸、人物、山
水ノ類ヲ描寫セシメ以上ノ見取及臨畫ニ基キ此等ノ材
料ニ依リ更ニ各自ノ新案ヲ爲サシム

圖案實修

圖案實修ニ於テハ各種工藝品ノ意匠並ニ圖案ヲ實修セ
シム即チ内外新古ノ圖案樣式ヲ示シ本科特設ノ學科ニ
依リ得タル知識ヲ應用シ形狀ノ組織、模様ノ配置、色
彩ノ配合等各種工藝品ニ直接應用セラルヘキ圖案ヲ製
作實修セシム又特ニ本校所設ノ工場ニ於テ各自ノ圖案
應用ニ要スル圖案ヲ調製セシム

圖案應用

窯業

窯業ニ於テハ型象ヲ造リ又製品ノ上ニ染付及上繪附ヲ
畫カシム

製版

製版ニ於テハ各種製版即チ石版、銅版及寫真版等ノ實
驗ヲ爲シ自ラ印刷セシム

建築科教旨、專門學科、授業要項

建築科ハ建築ニ關スル學理及技術ヲ授クルニ在リ故ニ
實修ニ於テハ和洋建築ノ製圖及建築ニ關スル諸職ヲ實
地ニ就キ研究練習セシメ學科目ハ斯業ニ通シテ必要ナ
ル科學ヲ課セリ蓋シ建築術ノ如キハ深奥ナル學理ト正
確ナル數理トニ依ラサル可ラサルヲ以テ之カ應用ニ關
スル學科ニハ殊ニ重キヲ置ケリ又建築ノ構造恰好ヲ確
定シ且意匠設計ノ巧妙ヲ表ハスハ製圖ノ技能ト意匠沿
革ノ知識トヲ要スルヲ以テ是等學科目ニハ比較的多ク

木工

木工ニ於テハ臺ノ盆類及棚、建具等ノ裝飾ヲ實修セシ
ム

金工

金工ニ於テハ打物細工、鑲附細工、蠟型鑄物等ヲ製造
セシム

染織

色染ニ於テハ浸染法及捺染法ニ依リテ圖案ヲ應用セシ
メ機械ニ於テハ圖案ヲ意匠紙ニ描寫シ隨時織成セシム

漆工

漆工ニ於テハ各種ノ髹漆法及蒔繪法ニ依リテ日常ノ什
器ヲ製作セシム

ノ授業時間ヲ充ツ而シテ規矩法即チ曲尺造ハ古來我邦造家工匠ノ秘訣トセシ所ニシテ日本家屋建築上切要缺ク可ラサルモノナレトモ之ヲ學フノ法甚ク難ク職ニ斯業ニ從事スルモノノ遺憾トセシ所ナレハ之ヲ西洋規矩

法ト對照シ圖法ト實地トニ依リテ授ク以テ其使用法ニ精通センコトヲ期セリ
本科ニ課スル専門學科及授業要項左ノ如シ

建築科専門學科課程

學科	第一學年	第二學年	第三學年
材料及構造強弱	第一學期 二	二	二
建築用材料	第二學期 二	二	二
建築沿革	二	二	二
家屋構造	二	二	二
衛生工學	二	二	二
製圖及意匠	第一學期 一〇 第二學期 一一	第一學期 二二 第二學期 二四 第三學期 一五	第一學期 二〇 第二學期 二二 第三學期 一三
工場實修	二	二	一八

備考 工業教員養成所建築科ニ在テハ第四學年第一學期ニ於テ每週一時間工場用具及製作法ヲ課ス

授業要項

材料及構造強弱

材料及構造強弱ニ於テハ構造強弱ニ關スル部分ヲ授ク

即チ建築構造ノ強弱ヲ學理的ニ攻究スルモノニシテ反動、彎曲、力率、物量力率、梁、杭、建材、受壓材、構成材、胸壁、迫持、烟突等ノ構造ニ關シ其強弱ヲ講

授ス

建築用材料

建築用材料ニ於テハ建築ニ要スル諸材料ノ性質、形狀、使用ノ方法、良否ノ鑑別法、製法ノ大略、時價等ヲ授ク

衛生工學

衛生工學ニ於テハ建築上學理ヲ應用シテ衛生ヲ助クル諸方法ヲ授クルニ在リテ採光、採温、嗅氣、排水ノ諸方法ヨリ避雷柱ノ構造、注意、火災豫防及逃避策等ヨリ家屋ノ配置法等ヲ授ク

建築沿革

建築沿革ハ主トシテ西洋建築ノ沿革并裝飾等ノ由來ヲ講スルモノニシテ太古ヨリ「クラシック、ビザンチン」、耶蘇古代、羅馬「チスク」、峨峙、「レチサンス」ヨリ現今ニ至ル沿革ヲ授ク

製圖及意匠

製圖及意匠ハ家屋構造ニ於ケルカ如ク之ヲ分テ洋風及和風ノ二部トス洋風ニ於テハ專ラ洋風ニ關スル家屋ノ精細圖、平面圖、切斷圖、建繪圖等ヲ學ハシメ和風ノ部ニ於テハ凡テ和風ニ關スル軒、椽、矩計、床伏セ、木屋組、木口割等ヨリ和風一切ノ圖ヲ練習セシム

家屋構造

家屋構造ハ洋風及和風ノ二部ニ分チ洋風構造ニ於テハ煉瓦、石工、大工、建具等洋風一般ノ構造法ノ外ニ耐震、耐火等特種ノ構造法等ヲ授ク和風ノ部ニ於テハ繩張、水盛り、地形、石据等ヨリ和風家屋一般ノ仕様書及諸積リ方法等ヲ授ク

實修

實修ハ初メ家屋構造用工具大體ノ特殊ノ働キヲ知ラシムルト同時ニ家屋ノ各部ノ仕口及繼手ヲ作り小部分或ハ大部分ノ雛形ヲ製作シ以テ講義及製圖ノ理解力ヲ助ク且左官、塗師、屋根、石工、練瓦等建築ニ關スル諸

職ノ實地ニ就キ其施工ノ方法材料ノ性質等ヲ研究セシメ終リニ土地ノ高低ヲ測リ坪數ヲ見出ス等ノ方法ヲ練習セシム

第三章 入學、在學及卒業

入學ノ期 入學ノ期ハ每學年ノ始トシ各學科第一年級ニ入學ヲ許ス

修業年限 各學科ノ修業年限ハ三箇年トス

工業圖案科生徒ハ圖案ニ關スル技術ノ成績ニ依リ修業年限ヲ延長スルコトアルヘシ

入學試験期日 入學試験期日ハ前掲學年曆ニ就キ見ルヲ要ス而シテ試験ハ在地方ノ者ハ本人ノ卒業セル學校ニ依屬シ之ヲ行ヒ在東京ノ者ハ本校ニ於テ之ヲ行フ入學者ノ資格 入學者ハ本校ニ於テ適當ト認メタル中學校、中學程度ノ工業學校卒業生若クハ中學校卒業生ト同等ト檢定セラレタル者左ノ資格ヲ具ヘ入學試験ニ

合格スルヲ要ス

品行善良、身體強健、將來工業ニ從事セントスル志望鞏固ナル者

入學試験 ハ左ノ學科目ニ就キ中學校卒業ノ程度ニ依リ之ヲ施行ス

一英語 一數學 一物理及化學 一圖書自在器

工業學校卒業生ニハ前項學科目ノ外別ニ國語ヲ試験ス又工業圖案科入學志望者ニ在テハ前項學科目中數學及物理ヲ省キ簡易ノ圖案ヲ立テシメ圖書ノ成績中ニ勘合ス

專修學科ノ選擇 入學志望者ハ第二章學科及教旨ニ就キ專修スヘキ學科ノ一ヲ撰フヲ要ス入學後甲科ヨリ乙科ニ轉學スルヲ許サス

學術實地研究旅行 毎年一回休業期間ニ於テ上級生徒ニ旅費ヲ補給シ工業地方ニ出張ヲ命シ見學報告セシムルコトアルヘシ

專攻及現業練習 卒業生ニシテ品行善良學業優等ナル者ハ志願ニ依リ專攻生トシテ本校ニ於テ尙其學業ヲ研究セシムルコトアルヘシ但專攻生ハ授業料ヲ納ムルヲ要セス

生徒卒業ノ後ハ現業練習生トシテ尙一箇年以上本校ノ監督ヲ受ケ製造所又ハ實業者ニ就キ現業ヲ練習セシムルコトアルヘシ

撰科生 工業ニ従事スル者又ハ工業學校卒業生ニシテ本校各科ノ科目中ニ就キ特修セント欲シ入學ヲ願出ルトキハ學期ノ始ニ於テ都合ニ依リ撰科生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

外國人ニシテ明治三十四年文部省令第十五號文部省直轄學校外國人特別入學規程ニ依リ入學ヲ願出ルモノアルトキハ都合ニ依リ撰科生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ但外國人ハ後項ノ資格實業ニ關スル經歷及修業年限ニ依ラサルコトヲ得

撰科生トシテ入學スル者ハ左ノ資格ヲ具ヘ且本校ニ於テ適當ト認メタル者ニ限ル

品行善良、身體強健、年齡滿二十年以上ニシテ三箇年以上引續當該工業ニ従事シ居ル者又ハ工業學校卒業生

撰科生ハ修業年限二箇年以内授業料一箇月金參圓ニシテ實修ニ要スル費用ハ自辨トス

聽講生 本校生徒ノ學籍ニ在ラサル者ニシテ各科專門學科目ノ講義ヲ傍聽センコトヲ願出ルトキハ都合ニ依リ適當ノ素養アリト認ムル者ニ限リ學期ノ始ニ於テ聽講生トシテ之ヲ許可スルコトアルヘシ

聽講生ハ當分ノ間染織科、窯業科ニ限リ之ヲ實施ス聽講料ハ一專門學科目ニ就キ一學期金五圓ト定ム

特待生 學年中學業拔群ニシテ特ニ工場實修ヲ勵ミ平素品行善良ノ者ハ次ノ一學年間特待生ニ選定ス

賞品賞牌 平素品行善良ニシテ學年中學業ヲ勵精シ其

成績佳良ナル者又ハ遅刻、早退、缺席ナク誠實ニ學業ヲ修メ規律ヲ遵守シタル者ノ中ニ就キ學年ノ終ニ於テ賞品若ハ賞牌ヲ付與ス

卒業證書 最終學年ノ成績卒業ノ格ニ合フ者ニハ卒業證書ヲ與ヘ品行善良學業優等ノ者ニハ特ニ優等卒業證書ヲ與フ

專攻證明書及現業練習證書 專攻生研究ヲ了リタルトキハ其成績ヲ考查シ證明書ヲ與フ

現業練習ヲ了リタル者ニハ其製造所又ハ實業者ノ證明ニ基キ其成績ヲ考查シ實業ニ練熟シ品行善良ナル者ニハ現業練習證書ヲ與フ

生徒募集人員 毎年募集スヘキ生徒人員ハ募集ニ先チ官報及諸新聞紙ニ廣告スヘシ但詳細ヲ知ラント欲スル者ハ其際本校ニ照會スヘシ

寄宿舎ノ設ケナシ 本校ニハ寄宿舎ノ設ケナキヲ以テ生徒ハ總テ通學スルモノトス故ニ地方ヨリ來學スル者

ニ在テハ成ヘク親戚知人ノ家ニ寄寓シ家庭ノ生活ヲ持續シ兼テ品行上ニ資スルコトアルヲ要ス其寄ルヘキノ家ナキ者ハ品行及衛生上適當ノ下宿ヲ撰定シ以テ素行修マラサル輩ト伍スルヲ避ケ遊惰ニ陥リ若ハ疾病ニ罹ルヲ未發ニ防クハ學生ノ成業上一大要件ナリトス

第四章 學資及學資給貸

學資概算 本校生徒在學中實修工場ニ於テ實驗上要スル諸般ノ器具機械類並金屬木材藥品等ノ材料ハ貸付若ハ使用セシムルヲ以テ生徒ノ一箇年間自辨スヘキ必用學資ノ概算ハ凡ソ左ノ如シ

授業料	二〇、〇〇〇
校友會費	一、五〇〇
書籍諸帳簿給具筆 紙墨學用品代等	二六、〇〇〇
下宿料	九六、〇〇〇
手袋シヤツ、股引、 脚絆靴下等	六、五〇〇

諸雜費

合計	一七〇、〇〇〇
一箇月平均額	一四、一六七

前表學資ノ外入學初年ニ在テハ左ノ臨時費ヲ要ス

校友會入會金	一、〇〇〇
製圖道具類	七、五〇〇
制服、制帽	八、五〇〇
外 套	八、〇〇〇
工 場 服	二、〇〇〇
合 計	二七、〇〇〇

一 染織科機械分科生徒ハ前表學資ノ外分解用織物購入費トシテ一學年金額圓ヲ要ス

一 本表所掲金額ハ物價ノ高低ニ依リ増減アルヘシ

學資ノ節約 近來物價騰貴ノ結果學資亦隨テ増加シ學資支給者ノ負擔漸次輕カラサルニ至ルヲ以テ學資ノ節約ヲ務メ贅費ヲ節省スルハ學生ノ美德ニ屬スト雖下宿

料ノ如キハ相應スヘキ程度ニ於テ支出スルヲ厭フ可ラ

ス下宿料ノ主ナルモノハ食費タルヲ以テ若シ之ヲ節セシカ粗食ニ陥リ身體ノ營養ヲ缺損シ遂ニ業ヲ卒フル能ハサルニ至ラン故ニ他ノ費用ハ成ヘク之ヲ節シ以テ其費用ニ充ツルハ極メテ必要ノコトナラン是レ平素注意スヘキコトナリトス

參考書標本費 本校ノ授業ニ於テ教科書ヲ要スルハ英語ノミニシテ他ノ學科ハ口授ニ係ルヲ以テ一定ノ教科書ナシト雖或ル學科ニ於テハ參考書ヲ備フルヲ便トスルモノアルモ學資ノ増サ、ランコトヲ欲シ成ヘク多クノ參考書ヲ備ヘシメサランコトヲ期ス然レトモ卒業後知見ヲ擴ムルハ主トシテ之ヲ讀書ノ上ニ求メサルヲ得ス故ニ餘裕アル者ハ二三ノ參考書ヲ備フルハ望ム所ナリ其餘裕ナキモノハ本校ニ於テ漸次有用ノ參考書等ヲ備ヘテ之ヲ貸付シ生徒ヲシテ在校中讀書ノ習慣ニ馴致セシメ他日新ノ知識ヲ得ルノ便ヲ計ラントス又本校

ノ如キ實修ヲ主トスル學校ニ於テハ各自實修ニ係ル製
品ハ卒業後參考ノ資料トシテ缺ク可ラサルモノナラン
此等費用ハ學資概算中ニ多少積算シアルモ固ヨリ少額
ニシテ充分ナラサルヲ以テ他ノ費用ヲ節シ必要ナル參
考書及標本購入ノ資ニ供スルハ極メテ緊要ノコトナリ
トス

學資給貸 本校ハ世間工業ノ必要ニ應センカ爲メ設備
ノ許ス限リ成ルヘク多數ノ生徒ヲ入學セシメンコトヲ
欲ス而シテ多數人員中ニハ學資豐ナラサル者少カラヌ
此等ノ輩ハ多少世ノ辛酸ヲ嘗メ耐忍力ニ富ミ恰好ノ資
格ヲ有スル者タルモ學費缺乏ノ爲遂ニ半途退學ノ止ム
可ラサル悲境ニ沈淪スル者アリ今ヤ世ノ篤志家ニシテ
一ハ工業ノ發達ヲ扶植センカ爲技術者ヲ養成セント欲
シ一ハ此學生ノ篤志ヲ德トシ獎學ノ主旨ヲ以テ學資金
ヲ寄附スルモノアルヲ以テ本校ハ曩ニ學資給貸規程ヲ
制定セリ其要領ハ一學年凡百圓以内ノ學資ヲ給貸スル

ニアリ然レトモ寄付者ノ意志已ニ獎學ニ在レハ本校ハ
學業優等品行善良ニシテ且獨立ノ精神ニ富ムモノニ就
キ給貸センコトヲ期セリ而シテ是等給貸費生ノ人選ハ
往々委託セラルルモ本校ハ一年生ニ在テハ其學力及性
行ヲ熟知シ難キヲ以テ概テ二年生以上ニ於テ撰拔セン
トス故ニ學資支辨ノ途ナク又ハ豐カナラサル輩ニシテ
入學後ハ直ニ給貸ヲ受クルコトヲ得ルモノト思惟スル
トキハ目算大ニ齟齬スヘキニ依リ入學者ハ豫メ此旨ヲ
諒知スヘシ尙本規程ノ詳細ヲ知ラント欲スルモノハ印
刷物ノ配付ヲ受クヘシ

前掲ノ主旨ニ依リ諸工業會社ハ本校ヲ介シ又ハ直接ニ
生徒ト約シ學資ヲ支出スルモノ少シトセサルモ今此等
ヲ省キ本校學資給貸規程ニ依リ生徒卒業後單ニ獎學資
金中ニ返金ヲ要スルノ外別ニ條件ヲ付セスシテ獎學
ノ爲メ貸費又ハ賞品資金トシテ寄付スルモノ左ノ如
シ

寄付ノ目的	金額	寄付者
手島獎學賞品資金	軍事公債額面三〇〇圓 勸業債券額面三〇〇圓	有志者
大橋獎學貸費資金	三〇〇	大橋佐平
谷崎獎學貸費資金	三〇〇	谷崎安太郎
手島獎學貸費資金	五〇〇	手島精一
住友獎學貸費資金	三、〇〇〇	住友吉右衛門
日本石油株式會社 株式會社獎學貸費資金	三〇〇	日本石油株式會社
東京瓦斯株式會社 株式會社獎學貸費資金	一、〇〇〇	東京瓦斯株式會社
岩岡獎學賞品資金	五〇	岩岡保作
岩崎獎學貸費資金	五、〇〇〇	男爵岩崎久彌
安田獎學貸費資金	一、〇〇〇	安田善次郎
三井獎學貸費資金	五、〇〇〇	男爵三井三郎右衛門

海軍造兵生徒 海軍省ニ於テ造兵技手養成ノ目的ヲ以
テ本校機械科、電氣科、電氣機械分科、應用化學科生
徒ヲ撰拔造兵生徒ヲ命シ月額拾圓ノ手當金ヲ給シ又一

學年毎ニ被服費トシテ三拾圓ヲ給セラル

第五章 附屬職工徒弟學校

沿革及目的 本校ハ明治二十三年一月高等商業學校附
屬商工徒弟講習所職工科ヲ職工徒弟講習所ト改メ東京
工業學校ニ附屬セラル、ニ創リ尋テ職工徒弟學校ト改
稱ス其目的ハ木工金工ノ實技上必要ナル學科ヲ授ケ善
良ナル職工タルヘキモノヲ養成スルニ在リ

教科及科目 教科ハ木工金工ノ二科ニシテ木工科ヲ大
工、指物、建築製圖ノ三分科ニ分チ金工科ヲ鑄造、木
型、鍛冶、仕上、板金工附鉛工、機械製圖ノ六分科ニ
分ツ學科ハ修身、算術、理科、材料、工具及製作法、
圖書、體操トシ又時宜ニ依リ兩科ニ通シテ國語ヲ課ス
實修ハ第一學年ニ於テハ木工科金工科トモ其豫備實修
ヲ課シ第二學年ヨリ生徒ノ志望ニ應シテ各一分科ヲ專
修セシム

修業年限及每週授業時數 修業年限ハ木工金工共ニ三箇年ニシテ每週授業時數ハ左ノ如シ但夏期休業ノ前後凡三週間ハ三十時マテニ減スルコトアルヘシ

第一學年 三十六時乃至四十二時
 第二學年 三十七時乃至四十三時
 第三學年 三十八時乃至四十四時

國語ノ授業時數ハ前項授業時數ノ外トス

授業料 ハ第一年生ニ限り毎月(八月ヲ除ク)金貳拾五錢ヲ徵收シ第二年及第三年ノ生徒ハ之ヲ徵收セス

生徒入學ノ資格 ハ品行端正身體強健年齡滿十二年以上十六年以下ニシテ修業年限四箇年ノ尋常小學校卒業ノ者若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノトス但品行端正學術優等ニシテ一箇年以上木工若クハ金工ノ現業ニ従事シタル者ハ前文年齡ノ限ニアラス

卒業證書 最終學年ノ終ニ於テ試験ノ成績合格ノ者ニハ卒業證書ヲ授與ス

職工認定證書 生徒卒業後成規ノ現業練習ヲ了ヘタル者ニハ職工認定證書ヲ授與ス

生徒數 生徒ハ百三十七名ニシテ内木工科三十七名金工科百名ナリトス

其他ノ詳細ハ別ニ印行スル所ノ同校一覽ニ就テ見ルヘシ

附設工業教員養成所

第一章 目的及入學者資格

目的 本所ハ工業學校徒弟學校及工業補習學校ノ校長及教員タルヘキ者ヲ養成シ兼テ工業教育ノ方法ヲ研究スルヲ以テ目的トス

入學者ノ資格 本所生徒一般ニ特ニ必要ナル資格ハ德義ノ高尚ナルト身體ノ強健ナルトニ在リ今ヤ我國ノ工業ハ小規模ヨリ大規模ニ變遷スルノ道途ニアルヲ以テ從來行ハル、職工養成法タル年季徒弟ハ漸ク衰ヘ工場

ノ幼工之ニ代ルノ時代トナレルヲ以テ職工タラント欲スルモノ低度工業學校ニ入學スル者多キハ自然ノ情勢ナリトス而シテ職工ノ數増加スルト共ニ其風紀ノ如キ世ノ指彈ヲ受クル者多キニ至ルハ免レサルノ數ナルヲ以テ實踐躬行好模範ヲ播クハ實ニ是等學校教員ノ責務ナルニ依リ德義ノ高尚ナルハ職務ニ缺ク可ラサル要件ナリトス又職工ニハ專心業ニ服スルノ良習慣ヲ涵養スルハ特ニ必要ノコトナレトモ若シ教員ノ身體ニシテ虛弱ナラシカ率先事ニ從フ能ハサルヲ以テ終ニ此習慣ニ馴致スル能ハサルナリ故ニ身體ノ強健ハ職務ニ對スル必要ナル資格ノ一トシテ算スヘキナリ此他人入學前ニ於テ專修スヘキ教科ヲ選擇スル上ニ於テ自己ノ特長ト其學科ノ性質ニ就キ熟考スルヲ要ス例ヘハ機械、建築科ノ如キハ物理、數學ノ素養ノ豐富ナルヲ要シ工業圖案科ノ如キハ美術的思想ヲ具ヘ且圖畫ニ堪能ナルヲ要スルカ如キ是レナリ

第二章 學科及教員

學科 本所ニ本科及速成科ヲ置キ本科ヲ分テ機械科(從來ノ工科)建築科(木工科)染織科、窯業科、應用化學科、工業圖案科ノ六科トシ速成科ヲ分テ金工科、木工科、色染科、機械科、陶器科、漆工科ノ六科トス

教員 本所本科ハ學科及實修ノ教員タルヘキ者速成科ハ實修ノ教員タルヘキ者ヲ養成スルニ在レハ各學科專門ノ學科目及實修ノ重要ナルコトハ言フ俟タサレトモ科學及圖畫ハ各學科ニ通シテ均シク必要ナルヲ以テ之ニ重キヲ置クコト猶本校ニ於ケルカ如シ而シテ今回ノ規則改正ニ於テハ本科金工科ヲ機械科ト本科木工科ヲ建築科ト改稱シタルモ其實質ハ敢テ變更スル所ナシ又各本科第一學年乃至第三學年ノ學科及工場實修ハ本校各科ト全然同一ニ之ヲ課セリ而シテ修業年限二學期間ヲ延長シタルハ元來工業教育ニ於テハ將來工業ニ從事

スルト工業教員タルトヲ問ハス實技練習ノ必要ナルハ
 論ナシト雖在學中後者ハ前者ニ比シ特ニ必要トスルハ
 前者ハ卒業後實業ニ從事スルカ故ニ業務其者カ即技術
 ナ研磨スル所以ナルモ後者ハ則チ然ラス一旦卒業ノ上
 ハ直ニ教職ニ從事スヘキモノナルヲ以テ技術練習ノ道
 乏シキニ由レリ然ルニ從來本所本科ノ修業年限ハ本校
 ト同一ナルニ拘ラス本校學科課程外ニ教育學、授業法
 ナ授ク且實地授業ヲ練習セシム而シテ此等教授時間ハ
 工場實修時間ヲ割キ之ニ充ツルノ外ナキヲ以テ其時數
 ニ減少ヲ來スノ結果ハ本校生徒ヨリ多クノ修練ヲ要ス
 ル者却テ其修練ニ缺クル所アルハ遺憾トスル所ナリキ
 加之近時工業教育ノ進步ニ伴ヒ益々學術堪能ノ教員ヲ
 要スルヲ以テ今修業年限二學期間ヲ増シ此期間ニ於テ
 前記學科目ヲ課シ實地授業ヲ練習セシメ又新ニ教育法
 全ヲ課シテ實業教育行政ノ一斑ニ通セシメ且豫メ卒業
 後就職スヘキ實業學校授業上必須ナル事項ヲ講究セシ

メ以テ適良ノ工業教員ヲ養成センコトヲ期セリ其他色
 染、機織、陶器速成科ハ各本科ノ課程ヲ斟酌折衷シテ
 之ヲ課スレハ別ニ記スルノ要ナシト雖金工、木工、漆
 工速成科ハ稍々其趣ヲ異ニスル所アレハ此等ノ學科ニ
 就テハ左ニ要項ヲ掲クヘシ
 金工速成科 ニ於テハ從來鍛工、鑄工、仕上工、板金
 工ニ關スル實技ヲ通修セシメシモ斯クテハ到底堪能ノ
 實修教員タルヘキ者ヲ養成スルコト能ハサルヲ以テ之
 ナ鍛工、鑄工、仕上工、板金工ノ四科ニ分チ各其一科
 ヲ專修セシムルコトトセリ
 木工速成科ニ於テモ從來木工業一般ノ技術ヲ課シタリ
 ト雖之ヲ大工、指物ノ二科ニ分チ各其一科ヲ專修セシ
 メ以テ地方工業學校ノ實修教員トシテ遺憾ナカラシメ
 ンコトヲ期セリ
 漆工速成科 ハ美術的漆器ヲ製造スルノ教員ヲ養成ス
 ルニ在ラスシテ寧ロ漆工ニ應用セラルヘキ科學ノ原理

ニ基キ且機械的ノ作用ヲ適用シテ技術ニ習熟シタルモ
 ノノ速成ヲ期スルニ在リ今ヤ漆器ノ學理ニ關シテハ未
 知ニ屬スルモノ少カラサルヲ以テ之カ研究ニ從事セシ
 ムルト同時ニ務メテ勞力ヲ省キ堅牢ナル什器ノ製造法
 ヲ教授シ得ルニ足ルモノヲラシメントス故ニ學科ニ於
 テハ榛、下地、塗髹等ノ方法ヲ授ク實地ニ於テハ各種
 ノ漆器製造法及蒔繪等ノ術ヲ授ク而シテ漆工製品ハ其
 品質ノ如何ニ拘ラス成ルヘク優美ノ意匠ヲ要スルニ因
 リ意匠圖案ノ必要ハ勿論ナルヲ以テ圖案ヲ合併セ修メ
 シム
 今本所本科生ニ特ニ課スル學科目及授業要項並速成科
 學科課程及授業要項ヲ舉クレハ左ノ如シ
 本科ニ課スル學科目及授業要項
 應用化學科第一年
 自在畫
 染織科ニ課スル自在畫ニ同シ

應化用學科第三年
 髹漆實修
 髹漆實修ニ於テハ蠟色、塗立、變リ塗等ノ髹法、澁地、
 膠地、漆地等ノ下地塗及平、高、研出等ノ蒔繪ヲ練習
 セシム
 本科第四學年二學期間ニ課スル學科目及授業要項
 教育學
 教育學ニ於テハ普通教育職業教育ノ本旨並其關係及工
 業學校徒弟學校工業補習學校ノ性質目的並其教育ト教
 授トノ要項ヲ授ク兼テ心意ノ發達ト工業教育上ノ應用
 並工業的訓練方法ヲ説キ工業教育者ノ注意スヘキ要件
 等ヲ講授ス
 教授法
 教授法ニ於テハ主トシテ工業學校徒弟學校工業補習學
 校ノ各學科ヲ教授スル方法ヲ授ク各學科ノ設備及此等
 學校ノ管理法ヲモ授ク

教育法令

教育法令ニ於テハ實業教育及普通教育ニ關スル法令ノ大要ヲ知ラシメ合セテ本邦及諸外國ニ於ケル實業學校ノ施設方法ヲ講授ス

建築科第四學年

工場用具及製作法

工場用具及製作法ニ於テハ最初工作豫備トシテ穿孔、

截斷、削刻、錐畫ノ諸方法ヲ講シ之ニ要スル工具ノ性質使用法ヲ講シ且之ヲ實地練習セシメ製作法トシテハ指物、木刻、挽物、木型、及大工建具等ヲ授ク

速成科學科課程及授業要項

木工速成科學科課程

學科	科目	金工速成科第一學年	木工速成科第一學年
修身	術身	第一學期 第二學期 第三學期 第四學期	第一學期 第二學期 第三學期 第四學期
算術	術	第一學期 第二學期 第三學期 第四學期	第一學期 第二學期 第三學期 第四學期
理科	科	第一學期 第二學期 第三學期 第四學期	第一學期 第二學期 第三學期 第四學期
機械大意	大意	第二、三學期	
家屋構造大意	大意		
家具製作法	法	(指物)	第一、二學期
構造用材料	料	(大工) (指物)	第一、二、三學期

學科	科目	金工速成科第一學年	木工速成科第一學年
製圖	圖	第一學期 第二、三學期	第一、二、三學期
工場實習	修	第一學期 第二學期 第三學期	第一學期 第二學期 第三學期 第四學期
兵式體操	操	二	二
每週時間合計	計	三九	三九

備考 一專修學科日ノ性質ニ依リ一學年ノ課程修了後尙一學期以上一學年以内在學セシム

一金工速成科ニ於テハ鍛工、鑄工、仕上、板金工ノ中ニ就キ其一ヲ專修セシム

一金工速成科工場用具及製作法ハ工場實習時間ニ於テ便宜之ヲ課ス

一木工速成科ニ於テハ大工、指物ノ中ニ就キ其一ヲ專修セシム

一木工速成科課程表中(大工)指物)ノ符號ヲ付スルハ特ニ該專修生ニ課スル時數ヲ示ス

色染速成科、機織速成科、漆工速成科、學科課程

學科	科目	色染速成科第一學年	機織速成科第一學年	陶器速成科第一學年	漆工速成科第一學年
修身	術身	第一學期 第二學期 第三學期 第四學期	第一學期 第二學期 第三學期 第四學期	第一學期 第二學期 第三學期 第四學期	第一學期 第二學期 第三學期 第四學期
算術	術	第一學期 第二學期 第三學期 第四學期	第一學期 第二學期 第三學期 第四學期	第一學期 第二學期 第三學期 第四學期	第一學期 第二學期 第三學期 第四學期
理科	科	第一學期 第二學期 第三學期 第四學期	第一學期 第二學期 第三學期 第四學期	第一學期 第二學期 第三學期 第四學期	第一學期 第二學期 第三學期 第四學期
染色大意	意	三			

機織大意				三		
陶器製造大意						
漆器製造大意						
圖	自在書	第一、二學期	四三	第一學期	五六	第一學期
	用器畫	第三學期	四三	第二、三學期	四五六	第二、三學期
工場實習	第一學期	一八	第一學期	一五	第一學期	一五
	第二學期	二〇	第二學期	二一	第二學期	二一
	第三學期	一一	第三學期	一〇	第三學期	一〇
兵式體操						
每週時間合計		三九	三九	三九	三九	三九

備考 一專修學科目ノ性質ニ依リ一學年ノ課程修了後尙一學期以上一學年以内在學セシム
 一色染速成科ニ於テハ圖畫中ノ自在畫ヲ隨意科トス

速成科各科ニ共通スル學科

修身
 本科ニ課スル倫理ニ全シ
 算術
 算術ニ於テハ四則、分數、小數、比例ヨリ開平、開立、求積マテ専ラ實地應用ヲ主トシテ講授ス
 理科

速成科ニ課スル理科ハ物理、化學ノ大意ヲ授クルニ在リテ物理學ニ於テハ重力ノコトヨリ一般力ノコトニ説キ及シ實修上普通使用スル器具ノ働キ方ヲ引證シテ機械ニ關スル原理ヲ簡明ニ知得セシメ次ニ水力及氣壓ノ應用及電氣學ノ大意ヲ授ケ化學ニ於テハ總論トシテ化學的變化及物理學的變化ヨリ化合及分解ノ理ヲ簡約ニ講説シ各論トシテ工業上必要ナル原素並化合物ノ性質、効用等ヲ専ラ應用ヲ主トシテ講授ス

圖 畫

金工速成科ニ課スル圖畫ハ機械科ニ課スル圖畫ヲ木工速成科ニ課スル圖畫ハ建築科ニ課スル圖畫ヲ其他ノ速成科ニ課スル圖畫ハ各其本科ニ課スル圖畫ヲ斟酌折衷シテ授ク

建築科ニ課スル建築用材料ヲ取捨折衷シテ授ク

製 圖

金工速成科ニ課スル製圖ハ機械科ニ課スル機械製圖ヲ斟酌折衷シテ授ク
 木工速成科ニ課スル製圖ハ建築科ニ課スル製圖及意匠ヲ斟酌折衷シテ授ク

實 修

金 工

金工實修ハ之ヲ分テ鍛工、鑄工、仕上工、板金工ノ四科トナシ其一科ヲ撰ヒテ專修セシム而シテ豫備實修トシテ鍛工專修ノ者ニ仕上ヲ鑄工專修ノ者ニ木型ヲ仕上工專修ノ者ニ鍛工ヲ課ス其期間ハ二箇月以内トス
 各科專修科目中鑄工ニ在テハ鐵鑄造ノ外青銅、真鍮鑄造ヲ課シ板金工ニ在テハ機械力ニ藉リテ工作スル板金工及著色鍍金ノ一部ヲ課シ其他ノ專修科目ニ在テハ機械科ノ實修ヲ斟酌折衷シテ之ヲ課スルモノトス

金工、木工速成科

機械大意

染織科等ニ課スル應用機械學ヲ取捨折衷シテ授ク

家屋構造大意

建築科ニ課スル家屋構造ヲ取捨折衷シテ授ク

家具製作法

家具製作法ニ於テハ專ラ和洋家具ノ各部仕口及構造法ヲ説キ合セテ漆及假漆等ノ塗方並ニ木材色付ノ方法等ヲ授ク

構造用材料

木工

木工實修ハ之ヲ分テ大工、指物ノ二科トナシ其一科ヲ撰ヒテ專修セシム大工科ニ在テハ一般大工職ニ必要ナル技術ノ練習及和洋家屋各部ノ構造ヲ知悉セシメンカ爲製圖及雛形製作等ヲ課シ指物科ニ在テハ和洋家具、挽物、彫刻等ニ必要ナル製圖及製作ノ練習ヲ爲サシム

色染、機織、陶器、漆工速成科

色染大意、機織大意

色染及機織大意授業ノ要領ハ概テ本科ニ準スト雖生徒學力ノ程度同シカラス從テ其期スル所專ヲ應用ヲ主トスルニ依リ之ヲ授クルニ方リ勉メテ高尚ナル理論ニ馳スルヲ避ケ且一々適切ナル實例ヲ示シ應用ニ便ナラシム又其順序ハ成ヘク實修ト相並行セシムルコトヲ期ス

陶器製造大意

陶器製造大意ニ於テハ陶器製造ニ應用スヘキ簡易化學

ノ一斑、原料ノ種類、性質、素地、釉藥ノ配合、製造

用諸機械、顔料ノ調製、燃燒ノ理、窯ノ構造、耐火材料及窯用諸器具ノ製造等ヲ授ケ凡テ實地ト學理ノ應用ヲ平易ニ説クヲ旨トス

漆器製造大意

漆器製造大意ニ於テハ漆ト榛トノ二目ニ分テ講授シ漆ノ部ニ於テハ漆工ノ沿革ヲ首メトシ漆液ノ性質及成分ヲ説キ榛、下地、塗髹、蒔繪等ノ種類及方法ヲ知ラシム榛ノ部ニ於テハ木材ノ特性、乾燥法、紙質ノ榛、膳、椀、盆、棚ノ様式ノ四目ニ分類シテ口授シ以テ專ラ榛ト漆トノ關係得失ヲ會得セシム

實修

色染、機織

色染并ニ機織實修ハ各本科ノ實修ヲ取捨折衷シテ授ク

陶器

陶器實修ニ於テハ陶磁器原料ノ試験、精製、成形、陶

磁器及顔料製造等凡テ講義ニ基キ學理ノ應用ヲ習得セシム

漆工

應用化學科工場實修ニ於テ課スル所ノ髹漆實修ニ同シ

第二章 入學、學資及義務

入學ノ期 入學ノ期ハ每學年ノ初トシ各學科第一年級ニ入學ヲ許ス

修業年限 各學科ノ修業年限本科ハ三箇年二學期間ニシテ速成科ハ二箇年以内トス

入學試驗期日 入學試驗期日ハ前掲學年曆ニ就キ見ルヲ要ス而シテ試驗ハ地方廳ノ薦舉ニ係リ地方ニ在ル者ハ地方廳ニ依囑シテ之ヲ行ヒ在東京ノ者ハ本校ニ於テ之ヲ行フ

入學者資格 本科及速成科生徒ハ左ノ資格ヲ具ヘ地方長官ニ於テ品行善良且工業教員タルノ志望鞏固ナルコ

トヲ認メテ推薦シタル者ニ就キ試験ヲ行ヒ入學ヲ許可ス但速成科生徒ハ實技ノ試験施行前ニ在テハ假ニ入學ヲ許可スルモノトス

本科生徒タルノ資格

一年齡滿十七年以上滿二十五年以下身體強健ノ者

二師範學校、中學校若クハ之ト同等以上ノ工業學校ノ

卒業生

速成科生徒タルノ資格

一年齡滿二十年以上三十年以下、身體強健、徵兵現役

若クハ勤務演習ノ爲召集セラルルコトナキ者

二志望學科ノ工業ニ三箇年以上從事シタル者

三徒弟學校卒業生高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒リタ

ル者若ハ之ト同等以上ノ學力アリト認ムル者

入學試驗課目 本科及速成科ノ入學試驗ハ左ノ學科目

ニ就キ各地方ニ於テ之ヲ行フ但工業圖案科入學志望者

ニ在テハ左ノ學科目ノ外簡易ナル圖案ヲ立テシメ圖書

成績中ニ勘合ス

本科

- 一 國語
- 一 英語
- 一 數學
- 一 物理及化學
- 一 圖畫 自在畫 用器畫

前項學科中師範學校、中學校卒業生ニハ國語ヲ省ク又工業圖案科入學志望者ニ在テハ數學及物理ヲ省ク速成科

- 一 讀書、作文
- 一 算術
- 一 圖畫
- 一 志望學科ノ實技

前項學科中實技ノ試験ハ本校ニ於テ之ヲ行ヒ成績佳良ナラサル者ハ假入學ヲ取消スコトアルヘシ學資ノ補給 入學ヲ許サレタル生徒ニハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依リ學資ヲ補給ス

機械材料ノ貸與 生徒在學中實修工場ニ於テ實驗上要スル諸般ノ器具機械類並金屬木材藥品等ノ材料ハ貸付若クハ使用セシム

學資概算 生徒在學中學資ノ概算ハ本校生徒學資概算額ヨリ授業料及補給ノ學資ヲ控除シタルモノト見テ大差ナカルヘシ

研究生 生徒卒業ノ後既修ノ學術ニ就キ其一部ヲ專攻セシムルコトヲ適當ト認ムルトキハ研究生トシテ一箇年以内在學セシメ其間別ニ定ムル所ノ規程ニ依リ學資ヲ補給ス

義務年限 本所ノ生徒ハ第二章ニ明記セル目的ヲ以テ教育スルモノナレハ卒業後ハ實業學校教員養成規程ニ依リ在學中學資ノ補給ヲ受ケタル年限ニ一箇年ヲ加ヘタル期間文部大臣ノ指定ニ依リ實業學校ニ奉職スヘキ義務アルモノトス

第四章 附屬工業補習學校

創立及目的 本校ハ明治三十二年三月文部省令第十三號實業學校教員養成規程ニ依リ工業教員養成所附屬ト

シテ創設セラレ同年五月二十三日ヨリ開校ス本校ノ目的トスル所ハ職工ニ必須ナル知識技能ヲ補習セシメ兼テ工業補習學校ノ組織及其教育法ノ研究ニ資スル所トス

教科目 ハ之ヲ分テ普通科目及工業科目トス
教科目及授業ノ要項左ノ如シ

- 普通科目 授 業 要 項
- 修身 人道實踐ノ方法、工業者ノ心得
- 國語 漢字交リ文、工業作文
- 算術 諸等數、分數、比例、割合、器、根、求積
- 修身ハ國語ニ附帶シテ教授ス
- 工業科目 授 業 要 項

- 物 理 力學、物性、音響、熱、光、電氣、磁氣
- 化 學 空氣、水、燃燒、酸、鹽基、鹽、重要ナル炭素化合物
- 實用幾何 直線、圓、面、積、比例、立體大意

自在畫 鉛筆畫

用器畫 幾何畫法、投影畫法

木工材料 木工主用材料

木工工具及製作法 木工工具及製作法、木工機械及製作法

家屋構造 家屋構造大意

規矩法 直線ノ矩、尺遣

建築製圖 普通住家、木造洋館等

金工材料 金工主用材料

金工工具及製作法、工場用諸機械及製作法 金工工具及製作法、工場用諸機械

機械力學 機械ノ構造、運動、力ノ傳達

發動機 蒸汽機關、瓦斯機關、石油機關及水車等ノ作用及取扱方

機械製圖 工場用諸機械ノ見取圖及設計圖

色 染 法 纖維及其精練、漂白、媒染劑、染料ノ種類、浸染法、捺染法

機 織 糊、捻絲、準備、意匠、織方、機具、計算

製造化學 石鹼其他必要ニ應シ種類ヲ定ム

右製造化學ヲ修メントスルモノハ化學ノ素養アル
モノナルヲ要ス

工業圖案 圖案法及圖案實習

前項各教科目ハ總テ隨意科目トシ生徒ノ志望ニ依リ
一教科目若ハ數教科目又ハ其一部ヲ專修セシムルコ
トヲ得但普通科目ノミヲ專修スルコトヲ得ス

前項教科目ノ中ニ就キ學校長ニ於テ緩急ヲ計リ五科
目以上ヲ撰ヒ每學年ノ始ニ於テ之ヲ定ム但前項撰定
ノ教科目ト雖入學志望者少數ナル場合ニハ授業ヲ開
始セサルコトアルヘシ

修業期間 各教科目ノ修業期間ハ四週間以上一學年以
内ニ於テ之ヲ定ム

教授時數 每週教授時數ハ十八時間以内トシ之ヲ夜間
若ハ土曜日ノ午後ニ配當ス

一教科目ノ每週教授時數ハ一時間以上三時間以内トス

但自在畫、用器畫、製圖及工業圖案ノ時間ハ此限ニア
ラス

生徒定員 生徒ノ定員ハ一教科目毎ニ五十名以内トス
學年 學年ハ八月一日ニ始リ翌年七月三十一日ニ終ル
入學ノ期 ハ各教科目修業期間ノ始トス但缺員アルト
キハ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

入學者ノ資格 ハ年齡十歲以上ノ男子ニシテ尋常小學
校卒業以上ノ學力アルモノタルヘシ但年齡十五歲以上
ノ者ハ本文ノ學力ニ依ラス入學セシムルコトアルヘシ
修業證書 各教科目修了ノ者ニハ其履修セル科目ノ成
績ト出席ノ度數トヲ考査シ修業證書ヲ授與ス

講習會 本校ニ於テ工業者ノ爲ニ臨時工業講習會ヲ開
クコトアルヘシ但講習會ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム
講話會 本校ニ於テ隨時工業講話會ヲ開キ職工其他篤
志者ノ傍聽ヲ許ス

授業料及講習料 ハ教科目ノ種類ニ依リ之ヲ徵收スル

コトアルヘシ

生徒數 ハ各教科ヲ合セテ百七十名トス

校友會

校友會ハ生徒卒業生並職員ヲ以テ組織シ其目的ハ會員
相互ノ親睦ヲ旨トシ兼テ身體ノ健康ヲ保全スルニ在リ
テ會員ハ會費トシテ金五拾錢ツ、毎年一、四、九ノ三月
ニ於クル每學期ノ始ニ本會會計掛ニ納付スルモノトス
但新入學生徒ハ入會ノ際器具修繕費トシテ別ニ金壹圓
ヲ納付スヘシ

生徒現數表
本校

明治三十五年十二月一日調

科別	專攻生	第三年	第二年	第一年	計
染織科色染分科	1	4	7	9	20
全撰科	1	1	1	2	5
染織科機械分科	1	6	8	21	36
全撰科	1	1	2	4	8
窯業科	1	4	4	9	17
全撰科	1	1	1	3	6
應用化學科	1	16	18	25	60
全撰科	1	1	2	5	9
機械科	1	51	56	85	193
全撰科	1	1	2	5	9
電氣科電氣機械分科	1	18	16	30	64
全撰科	1	1	2	5	9
電氣科電氣化學分科	1	3	3	11	17
全撰科	1	1	1	3	6
工業圖案科	1	2	7	10	19
全撰科	1	1	1	3	6
計	2	105	127	217	451

附設工業教員養成所

本科		速成科			
科別	研究生	第三年	第二年	第一年	計
科	1	1	1	1	4
機械科	1	7	7	13	28
建築科	1	6	6	9	22
染織科色染分科	1	2	2	3	8
染織科機械分科	1	1	1	2	5
窯業科	1	3	3	5	12
應用化學科	1	3	3	5	12
工業圖案科	1	1	2	3	7
計	1	20	23	41	84
科	1	1	1	1	4
金工科	1	1	1	1	4
木工科	1	1	1	1	4
機械科	1	1	1	1	4
計	1	1	1	1	4

生徒現數表

生徒氏名

氏名ノ上「特」ノ字ヲ付スルハ本學年ノ特待生「賞」
ノ字ヲ付スルハ手島獎學品受領者「牌」ノ字ヲ付ス
ルハ手島獎牌受領者ヲ示ス「賞」及「牌」ノ上ニ「二」
「區」トアルハ二回受領セシモノナリ

本校

染織科

色染分科

牌飯田新三郎 埼玉平	大澤勇三郎 栃木平
杉山新 廣島士	杉本憲作 栃木平
牌和泉清吉 新潟平	川田益雄 高知平
金子常二 新潟平	筧三七 福岡平
柳川常治 神奈川平	廣瀬雄治 奈良平
牌樋口傳左衛門 静岡平	
稻澤作之助 富山平	小田喜一郎 新潟平
玉田政一 山形士	黒田靖太郎 愛媛平

山野邊義勇 茨城士	松澤善雄 長野平
遠藤權三郎 山形平	阪崎晋三 愛知士
下精一 新潟士	

第一年

撰科

機織分科

専攻生(二名)

前原準一郎 群馬平	菅田亮治 富山平
井上英治 山形平	二田大住 吾八 兵庫平
吉原利泰 兵庫士	牌日下部康一 岐阜平
山口長之進 鹿兒島士	二田牌佐々成吉 愛知平
丹羽盛隆 愛知平	大森喜十郎 三重士
金城加那 沖繩平	牌小林克喜 山梨平
赤松元太郎 東京平	安孫子眞雄 山形平
三浦莞爾 茨城士	下田傳三 東京平
飯塚八彦 群馬平	林兵之助 富山平
大湊熊太郎 山形士	渡邊安雄 福島平

撰科

加藤雄造 福島平	田中岩造 山形平
武富喬 東京士	中原隆 山口士
中西綱吉 岐阜士	宇野範一 静岡平
井島重保 三重平	野島和吉 東京平
桑原衛門 山口士	小島梶郎 埼玉平
小柳新吉 新潟平	手登根順義 沖繩士
北村雅人 福島士	芝原道信 福井平
白井秋彦 和歌山士	關谷彌四朗 山口平
住吉造 岐阜平	
バルブ、ラル、ゴビラ 印度國	エー、ケー、モーツンダ 印度國
板橋長三郎 埼玉平	鹽見長儀 京都士

窯業科

橋本佑造 埼玉平	加藤靜 東京士
福地秀雄 長崎平	平原篤之助 鹿兒島士

生徒氏名

應用化學科

大谷謙一 佐賀平	横山武 福島士
笹井熊之助 新潟士	須田智 東京平
小野一郎 東京平	土屋三郎 静岡平
村井昇一郎 島根士	國井英二 宮城平
藤岡幸二 石川士	手島楠猪 高知士
綾部繁 東京士	齋藤一 埼玉平
須藤五郎吉 東京平	
シエーフ、モハソ 印度國	ピチヤール、マン、ハ 印度國
張晉震 韓 國	
水崎鐵次郎 和歌山平	
牌岩井興助 千葉平	牌賞 菅米地義三 北海道士

梨木圭藏	東京平	箕山本周次郎	奈良平
山元盛武	北海道士	牌松井宇平	山口平
秋田悦太	岡山平	秋山信謙	東京士
足立節之助	兵庫平	牌二回佐藤金一	福島平
佐々木正三	千葉士	牌稅田谷五郎	福岡平
牌木下淺吉	佐賀平	牌二回君島潔	福島士
牌平井半	東京士	牌二回特百瀬	長野平
第二年(十八名)			
石坂四郎	東京士	馬場章輔	埼玉平
大庭八三郎	静岡平	牌大竹一貫	山梨士
小川丑彦	大分平	尾崎宅馬	高知平
川添義雄	東京士	長野文雄	福島士
曾我一郎	東京平	山本熊太郎	和歌山平
特回宮豐造	神奈川平	牌藤田金之	東京平
小林來三	山口平	牌小林正義	東京士
佐野勝次郎	東京平	菊地新平	福島平
三谷美種	福井士	森英一	神奈川平
第二年(二十五名)			
磯谷巖	新潟平	丹羽春彦	愛知士
土肥秀丸	埼玉士	大橋敏男	東京士
大日方金太郎	東京士	數森淺造	兵庫平

兼澤勝之輔	東京士	橫井堅吉	兵庫士
吉岡昇	東京平	田總哲四郎	長野士
村上朋來	山口士	久米壯吉	東京士
久保田富三	兵庫士	山本武治	愛知平
山田權三郎	徳島平	前田實	高知士
福島松男	愛知士	近藤一男	愛知士
赤木周一	岡山士	木村英夫	和歌山士
湯池藤一	鹿児島士	清水武紀	福岡士
森山義生	島根士	關戸七郎	石川平
菅澤美發	東京士	撰科	
第二年(二名)			
王守善	清國	周培炳	清國
第一年(五名)			
櫻世綸	清國	周培炳	清國
王季點	清國	ルドラ、ノル、 ルシ、ンハ、	印度國
ア、イ、デー、 ワ、アルシチ	印度國	松村安次郎	新潟平
第三年(五十一名)			

機械科

牌二回飯田正次	東京士	伊原誠一郎	京都平
牌二回伊瀬知禎介	鹿児島士	池田泉	東京士
原太郎	福井士	牌早房長徳	静岡平
徳武鶴太郎	東京士	大脇政國	愛知士
大井藤吉	埼玉士	小原得治	新潟士
笠間晴雄	廣島士	特加藤重治	兵庫平
豐原盛作	新潟平	牌吉田虎雄	愛知士
牌二回高橋元次郎	東京平	田中哲四郎	兵庫平
竹末信雄	福岡士	染原藏	福岡平
津田五一	千葉士	長井又次郎	福井士
永井常清	東京士	名古屋忠治	山形士
村岡重三郎	香川士	内山音次郎	三重平
梅村右馬太郎	岩手平	久保正吉	東京士
牌山口八次	鹿児島士	松原圭次郎	千葉平
松尾照一	福岡平	牌牧原直	東京平
毛涯真三	長野平	深川保淑	富山平
福田徳太郎	茨城平	福光二郎	福岡平
小林誠熙翁	新潟平	兒玉其太郎	廣島平
兒玉實	鹿児島士	有賀重次	福島平
牌有福和一	山口士	淺沼直太郎	岩手平
牌二回佐藤義正	鳥取士	崎村米造	福岡平
三俣留次郎 群馬平			
光澤義男 長野士			
宮田晴三 神奈川平			
森竹素彦 東京士			
牌杉上恒五郎 香川平			
一ノ瀬一 長野平			
池永有光 和歌山平			
西村長穂 山形平			
大喜多恒一 香川平			
小野榮喜 熊本士			
尾崎政章 北海道士			
勝木永次郎 香川士			
鎌田金吉 北海道士			
加賀山七兵衛 福井士			
牌高木彌直 熊本士			
田中三郎治 千葉士			
辻定吉 三重平			
中垣直人 福岡平			
野村丑松 高知平			
山田松太郎 愛知士			
三澤敏郎 東京士			
宮武義次郎 香川士			
澁谷勝一 佐賀士			
鈴木虎之助 東京平			
特池田辰衛 愛媛平			
服部保永 兵庫士			
大澤徳藏 群馬士			
小野徳生 東京士			
小寺福三 東京平			
鷺尾隆吉 東京平			
金澤保資 長野平			
神谷洗助 福岡平			
高塚三郎 大分平			
田中勝次 東京士			
竹内仁一郎 長野平			
内藤鼎三 奈良士			
内山治助 新潟平			
牌黒部義夫 徳島士			
山中麟造 福岡士			

生徒氏名

安田藤作	埼玉平	前田 謙	長崎士	富永松男	大分平	大竹三七郎	群馬平
牧原義雄	福島士	藤井段介	福岡士	岡田小六	東京士	岡田雄二	東京士
藤岡秀太郎	東京平	古市榮三郎	福島平	若原收藏	岐阜平	貝島健次	福岡平
小林光太郎	廣島平	牌後 藤 寛	愛知士	川上金熊	鹿児島士	川名八藏	神奈川平
特選 藤政直	岩手士	茜部愛一	愛知士	加藤 駿男	愛媛士	加藤宏信	大分士
牌安部田貞延	京都士	安藤未瑛夫	福島士	横山一夫	北海道平	吉見正雄	静岡士
佐藤榮作	新潟平	相良秀朝	鹿児島士	田中三郎治	千葉士	高橋武雄	群馬士
木村鹿六	福岡士	木尼吉熊	鹿児島士	多田久三郎	兵庫平	瀧川岩太郎	愛知平
神野金之丞	愛知士	習田信三	兵庫平	谷山榮介	鹿児島士	副島與三郎	佐賀平
重松市三	佐賀平	平岩義一	京都士	莊 岩生	兵庫士	塚谷雄次郎	石川士
牌比 企 彰	福井士	門間康道	大阪士	鶴和繁公	徳島士	根岸正作	埼玉平
瀬尾亮吉	高知士	須原 坦	静岡平	中村光美	東京士	中山禮吉	新潟平
鈴木政彦	長崎士	鈴木末男	愛知士	中島市太郎	東京平	中島正之	福岡士
伊佐山房吉	埼玉平	市丸榮吉	佐賀平	長屋富吉	廣島士	長島準三	神奈川平
飯尾平哉	岐阜平	五十嵐留彦	兵庫士	武藤 勳	福島士	村田俊彦	熊本士
池上茂太郎	富山平	林 茂 太	山口士	村瀬孝三	東京士	潮 唯祐	島根平
林 政 吉	愛知平	二階堂謙吉	岡山士	植月億萬	岡山平	野木理一	埼玉平
北郷資雄	鹿児島士	逸見尙士	秋田士	野田昌治	鹿児島士	窪田小七郎	富山平
戸室銀次郎	岡山士	豊田泰種	愛媛士	屋代清藏	山形士	大和芳二	徳島平
豊原得郎	東京士	友田 寛	北海道士	大和哲三	徳島平	山田直助	岐阜平
				山本唯一	長崎士	山路 述	徳島平

第一年(八十五名)

電氣科
電氣機械分科
第三年(十八名)

山中好司	静岡平	安本明治郎	長崎士	牌井上徳藏	岩手平	花田粒平	福岡平
増野清香	山口士	松平恭次郎	山形士	牌仁 木 誠	北海道士	星野主馬	群馬平
富士賢平	岐阜平	深堀久右衛門	長崎平	片山一太郎	岡山平	二階横川孫一郎	長野平
深瀬 治	東京平	小林利吉	東京平	高橋泰最	山形士	竹下正俊	福岡平
小林和三	福島平	小松豊作	長野平	牌羽野常次	東京士	漆澤忠雄	青森平
小島福次郎	栃木平	小仲千代吉	秋田平	植月俊雄	岡山士	牌梅野猶太郎	岡山平
小 卷 潔	兵庫士	榎下金松	静岡士	山内喜志男	熊本士	山城亥吉	鹿児島士
阿部正巳	大分平	安藤 覺	岡山士	松田達生	高知平	小宮善一	神奈川平
酒井宗吉	石川平	坂木 潔	三重士	菊池時任	茨城平	特三 好 廣	東京士
佐々木彦太郎	秋田平	佐藤秀也	愛知士	井 戸 徳	福井士	井高三郎	兵庫平
佐藤六郎	新潟平	齋藤 純	北海道士	牌石井左武郎	新潟平	石川頼次	栃木平
岸 井 幾	東京士	三澤宜一	兵庫士	大塚基要	徳島平	特臨 木 清	愛媛士
莊田平象	東京士	鹽原保次郎	長野平	牌落 京 二	岡山平	海津一男	三重平
關 徹 郎	長野士	鈴木 誠	秋田士	吉田 惠一	福岡平	高橋光隆	福島士
鈴木近太郎	徳島士			久野五十志	福井士	小林嘉太郎	廣島平
				浅尾文造	山梨平	牌秋 元 整	兵庫士

第二年(二名)

第一年(一名)

生徒氏名

へム、マ、ドール、
シン、ハ、ハ、
印度國

洪 鎔 清 國

宮川利一 靜岡士
伊藤一郎 東京士
豐村忠四郎 長崎平
小川忠吉 秋田平
大戸武之 廣島平
片山茂 岡山士
吉田重義 佐賀平
高見安次 熊本士
高柳勤 山梨平
矢田勇 島根士
安田泰次 愛媛平
松村謹之助 大阪平
福島三千治 大分平
東風谷淺治 千葉平
天野長重 愛知平
佐野志郎 福島平

市川敏行 兵庫士
電氣化學分科
牌池田誠衛 東京平
木佐貫重彦 鹿兒島士
出石正治 岩手士
栗野徳一 宮城士
兵頭勝 愛媛平
竹下佳助 長崎士
斑目定治 宮城士
五島喜久郎 東京平
木村善七 静岡平
守山脩三 東京士

種野榮 島根士
犬丸靜吉 岡山士
千葉源吉 宮城平
大浦弘 宮城平
尾崎靜也 高知士
吉田直次郎 岩手平
吉田令兒 兵庫平
田中吉通 和歌山士
中澤一郎 宮城士
矢吹貞夫 岡山士
松本文彬 愛媛士
町田欽治 群馬士
小林治郎兵衛 廣島平
寺尾政吉 新潟平
青木保 香川士
三村助市 兵庫平

濱原留次郎 大坂平
高橋志朗 岡山平
牌川口秀基 岩手士
具塚榮之助 三重平
並河恒彦 大分士
松岡辰三 東京士
坂田眞太郎 東京平
平野保治郎 愛知平
湯時敏清 國

撰科
第三年(一名)
ダモードーシング 印度國
第二年(二名)

工業圖案科
第三年(二名)

牌大塚権一 佐賀士
今村信 宮城士
小野精一 東京士
牌京極晴雄 福岡士
鈴木成夫 東京士

池田龍太 香川士
米村健一 福井士
藤田萬三 德島平
齋藤恒吉 山形士
大石開二 香川士
栗原一策 熊本平
小池清澄 新潟士
秋月源太郎 静岡平

飯島新太郎 茨城平
玉城賢雄 沖繩平
那須正 鳥取士
井岡大輔 東京士
三島恒次郎 島根士

今井仙太郎 新潟士
加藤清一 島根士
高橋清一 兵庫平
田中眞雄 德島平
土屋忠次 福島平
古川良八 佐賀平
蘆田健 兵庫平

笠松榮太郎 石川士
檀參郎 福岡士
村山秀雄 石川士
増子保造 福島平
南千代吉 鹿兒島平

大塚豊吉 德島平
吉田隆藏 熊本平
田島齊三 岡山士
土屋三郎 島根士
山崎竹藏 三重平
朝倉與治 長野平

磯村茂作 富山平
竹田義一 愛知平

丸橋富太郎 岡山士
菊池精 岩手平

附設工業教員養成所
機械科

第三年(七名)

金工速成科

第一年(三名)

生徒氏名

建築科

第三年(六名)

二回石 井 仲 福島士 牌尾山貫一 東京士
 牌難波新平 岡山平 牌村松豐吉 静岡平
 深見久七 福岡平 佐藤吉三郎 福島平

第二年(六名)

牌津田信良 福岡士 牌山本岩太 徳島士
 佐藤松次郎 福島平 三田昇之助 静岡平
 三木昌吉 香川平 鹽屋謙二 石川平

第一年(九名)

橋本達二 廣島平 小笠原繁太郎 香川平
 笈三郎 群島士 川口辰 愛知平
 田村源次郎 島根平 曾根田又雄 東京士
 野村孝次郎 鹿兒島士 桑原千三郎 廣島士
 秦節男 山形士

木工速成科

第一年(五名)

布廣藤吉 岡山平 小泉吉平 福井平
 荒川重家 福岡平 庄司富助 山形士

久田喜一 愛知平

染織科

色染分科

第三年(二名)

二回牌老田他鹿鐵 石川士 牌佐竹顯瑞 愛知平

第二年(二名)

花房信太郎 兵庫平 芳永乙吉 石川平

第一年(三名)

山木又六 高知平 吉川良治 福島士
 關佐太次 群馬平

機織分科

第三年(一名)

牌早川熊藏 愛知士

第二年(二名)

松下喜藏 静岡平 牌北川清太郎 石川平

第一年(六名)

大塚廣道 長野士 吉岡直富 石川士
 瀧浦伊八 兵庫平 木暮謙三郎 群馬平
 結城市之助 山形平 尖道政一郎 鳥根平

機織速成科

第一年(三名)

石金小太郎 島根平 萩久保榮次郎 山梨平
 渡邊倉平 山梨平

窯業科

第一年(二名)

積山春男 新潟士 芝田理八 徳島平

應用化學科

第三年(三名)

奥泉鶴藏 埼玉平 二回長野宗四郎 香川平
 内山秋太郎 静岡平

第二年(三名)

中島直一 新潟平 上田政勝 兵庫平

第一年(五名)

二宮龍雄 大分士 岡屋甚一 山口平
 春日忠次郎 長野士 漆谷虎之助 鳥根士
 黒柳仁三郎 静岡平

工業圖案科

研究生(一名)

安田藤造 埼玉士

第三年(一名)

山崎唯一郎 鳥根士

第二年(二名)

原田武雄 滋賀士 榎本安節 東京平

第一年(三名)

高木繁 熊本士 中尾遠太郎 愛知士
 宮澤惟秀 秋田士

卒業生現數

明治三十五年十二月一日調

本校

(表中特別課程トアルハ韓國、印度國)

科別	本科	速成科	機織科特別生	特別課程	計	死亡	現數
染織科	一四〇	四	一	四	一六四	一〇	一五四
窯業科	五四	一	一	一	五五	八	四七
應用化學科	一〇九	二	一	三	一一八	六	一一二
機械科	五六二	八	二	一	五六三	二六	五三七

卒業生現數

七十五

七十四

電氣科	六五	一	一	三	六八	一	六八
工業圖案科	六	一	一	二	八	一	八
計	九三	一四	二二	八	三三	一〇	九六一

附設工業教員養成所

科別	速成科		本科	
	卒業生數	死亡現數	卒業生數	死亡現數
金工科	三〇	一	二九	一
木工科	三〇	一	二九	一
染織科	二二	一	二一	一
窯業科	一五	一	一四	一
應川化學科	一六	一	一五	一
工業圖案科	一六	一	一五	一
計	一二九	六	一二三	六

卒業生氏名

就職場所變更ノ節ハ速ニ届出ラルヘク又就職場所
等ニ誤認ノ廉アラバ其旨通知セラルヘシ
順序ハ從來卒業ノ席ニ依リシモ明治三十三年ノ
卒業生ヨリ「イ」順ニ改ム
氏名ノ上ニ「イ」印ヲ付スルハ死亡ノ者ヲ示ス
明治三十三年以降卒業生氏名ノ上ニ「イ」印ヲ付
スルハ手島獎學品受領者「イ」ノ字ヲ付スルハ
手島獎學品受領者「イ」ノ字ヲ付スルハ
同トアルハ二回受領セシモノナリ
明治三十五年十二月一日調

明治二十一年七月染工科卒業(七名)

中學明善校(福岡縣)	東保三五郎	大分士
横須賀海軍兵器廠	安松榮	新潟士
大阪天満染工場	菅谷元治	東京士
福岡縣立久留米工業學校	相川規一	石川平
吳海軍造船廠	門田小三郎	廣島士
函館税關	林梁	愛知士

同 年七月染工速成科卒業(四名)

自營(和歌山)	廣井鋼之助	和歌山士
自營(靜岡)	石川啓助	靜岡平
庄内染織學校(山形縣)	木田佑武	熊本士
未詳	佐々木阿三郎	愛媛士

明治二十二年七月染工科卒業(十一名)

横濱税關	山内英太郎	東京平
自營(京都六角油小路西へ入)	河合忠次郎	京都平
大阪府第四中學校	杉田清吉	埼玉平
千葉縣立千葉中學校	上松銚太郎	京都士
大阪築港事務所	勢家弘藏	福井士
大阪府第二中學校	吉本丕	石川平

卒業生氏名

本校 染織科卒業生

明治十九年七月化學工藝科(染工)卒業(九名)

熊本縣立工業學校	茂呂信義	神奈川士
大阪築港事務所	平田專太郎	滋賀平
東京高等工業學校	岡本金一郎	廣島士
農商務省工務局	山口務	東京士
京都綿子會社	小林一太郎	兵庫士
愛知縣立工業學校	柴田才一郎	長野士
	×關口録吉	東京士
三井吳服店京都支店	平尾鐵三郎	富山士
日本毛織會社(播磨加古川)	小菅久徳	東京士

明治二十年九月染工科卒業(七名)

合同紡績會社(大阪)	秋山廣太	東京平
京都綿子會社	小林銀三	靜岡士
山田漂工場(京都)	大角成允	滋賀士
	宮田眞治	宮城士
大阪高等工業學校	津川熊吉	廣島平
關東酸會社(王子)	東條二郎	山日士
住友銀行(廣島支店)	久能審三	山日士

明治二十三年七月染工科卒業(八名)

群馬縣立伊勢崎染織學校	伊邊道太郎	神奈川平
西村山郡立染織講習所(羽前)	小泉榮次郎	東京平
自營(東京)	水田五	靜岡平
濱松商業學校	久木武次郎	福岡平
三井吳服店(東京日本橋)	笠原健一	福井士
大阪天満染工場	榊喜雄	石川平
自營(東京本郷根津片町二三)	細井亮四郎	兵庫士
熊本縣立工業學校	渡邊季吉	石川士
千住製絨所	渡部謙吉	岐阜士
宮城縣廳	下山又次郎	群馬士
石川縣立工業學校	吉田佐次郎	大分士
山口縣廳	鈴木廉之助	福井士

同 年同 月染工科撰科卒業(二名)

自營(靜岡縣)	志田彦十郎	東京平
新 鴻 縣 廳	多賀谷伊勢松	群馬平

明治二十四年七月染織工科卒業(四名)

南都留郡染織學校(甲斐)	林精一	新潟士
山武郡染織學校(上總)	新井宗治	群馬士

福岡縣立工業學校 有馬廣泰 福岡士
常磐紐工場(米澤) 吉田敬助 山形士

明治二十四年十一月染織工科撰科卒業(一名)

×山本祐七 秋田平

明治二十五年七月染織工科卒業(六名)

愛知縣立工業學校 島中牛五郎 高知士
京都織物會社 船坂八郎 岐阜平
新潟縣 笠原次郎作 山形士
白 營(横濱高島町) 出口直吉 神奈川平
奈良縣立工業學校 杉山良俊 福岡士
茨城縣 竹下直次郎 鹿兒島平

同年十一月染織工科撰科卒業(一名)

謙信洋行(神戸) 渡邊幸次 徳島平

同年十二月染織工科撰科卒業(一名)

外國留學(京都染織同業組合) 梅川徳次郎 京都平

明治二十六年七月染織工科卒業(五名)

群馬縣立桐生織物學校 金子竹太郎 群馬平
栃木縣立工業學校 野島信貫 高知士
在歐洲(農商務省實業練習生) 武久寅次郎 東京士
在歐洲(農商務省實業練習生) 都澤正章 岩手士

群馬縣立伊勢崎染織學校 新井鏡太郎 群馬士
同年七月染織工科撰科卒業(一名)
白 營(沖繩縣) 平良松助 沖繩平

明治二十七年七月染織工科卒業(十名)

大阪モスリン紡織會社 渡利勉 京都市
外國留學(文部省) 齋藤俊吉 東京士
群馬縣桐生織物會社 ×藤田恒次郎 廣島平
千住製絨所 登坂秀典 山形士
京都市立染織學校 石坂正衛 兵庫士
松本稅務監督局 鹽原鈞 長野士
愛媛縣 神澤譽三郎 山梨平
未 高田吉親 山形士
韓國度支部典屬局(流山) 葛西東二郎 宮城士
更田信彌 滋賀士
同年 七月染織工科撰科卒業(一名)
福岡縣 岡野足吉 群馬平
明治二十八年二月染織工科撰科卒業(二名)
愛媛縣 波藤雅良 愛媛士
白 營(米澤) 登阪仁太郎 山形士
同年七月染織工科卒業(九名)

福島縣 山田三郎 福島士

山口縣 ×松本雄五 群馬平

在歐洲(農商務省實業練習生) 野田忠藏 群馬平

福岡縣立久留米工業學校 森田儀一郎 新潟平

染織試驗所(富山市) 片岡元彌 山形士

福岡縣立工業學校 眞木篤吉 福島士

清國天津勸工場 竹村得太郎 滋賀士

×牧田虎治郎 新潟士

×長野平

明治二十八年七月染織工科撰科卒業(一名)

北海道製麻會社 中井嘉兵衛 山形平

明治二十九年七月染織工科卒業(五名)

在歐洲(農商務省實業練習生) 岡部孝 山梨平
群馬縣立桐生織物學校 岩下龍太郎 群馬平
長野縣 林田雄真 東京士
伊勢崎織物同業組合 石川文藏 東京士
市原郡染織學校(上總) 木間孫太郎 山形平
明治三十年七月染織工科卒業(七名)
群馬縣立桐生織物學校 前原悠一郎 群馬平
京都綿子ル會社 井川清 北海道士

山形縣立工業學校 關本幸次郎 福島平

奈良縣立工業學校 大塚久次郎 茨城平

奈良縣立工業學校 谷口久郎 岐阜平

大阪稅關 齋藤甲萬三 靜岡士

大阪稅關 松田針之助 宮崎士

明治三十一年七月染織工科卒業(八名)

日本紡織會社(攝津西ノ宮) 鎌田次三郎 大阪平

×青木俊造 廣島士

山形縣立工業學校 川邊申松 茨城士

宮城縣 飯塚彌一郎 秋田士

白 營(群馬縣桐生新町) 小島常太郎 群馬平

農商務省特許局 山越八郎 千葉平

モスリン紡織會社(大阪) 林清太郎 廣島士

米澤組織物同業組合 中村元則 山形士

明治三十二年七月染織工科卒業(九名)

東京高等工業學校 中島武太郎 北海道士
東京製絨會社(王子) 相場勉一 栃木平
東京府八王子織染學校 木多哲藏 新潟平
福島縣工業試驗所(信夫郡) 大山清一郎 茨城平
栃木縣立工業學校 山口喜一 福島士

卒業生氏名

東京高等工業學校 大島子之助 枋木平
 尾張一ノ宮織物同業組合 ×杉井文平 富山平
 組糸紡績會社新 森俊之助 福島平
 町工場(群馬縣) 佐竹規方 山形平
 同年同月染織工科特別課程卒業(四名)
 韓國京城南署華洞染織會社 朴正鏡 韓國
 白營(韓) 國 安衡中 韓國
 白營(韓) 國 康永祐 韓國
 白營(韓) 國 崔奎翼 韓國
 明治三十三年四月染織科色染分科撰科修了(一名)
 沖繩縣島尻郡役所 吉木勲治 東京士
 明治三十三年七月染織科色染分科卒業(六名)
 日本綿子ル會社(大阪) 飯塚隆次郎 群馬平
 高知縣第一中學校 橋田直 高知士
 東京染織試驗所(日本橋濱町) 川上爲正 千葉平
 農商務省工業試驗所 中里新太郎 群馬平
 入間郡染色講習所(埼玉縣) 江頭金一郎 佐賀平
 群馬縣立桐生織物學校 佐田友雄 東京平
 同年同月染織科機織分科卒業(三名)
 岡山縣兒島工業補習學校 峰谷德三郎 岡山士

福岡縣立久留米工業學校 吉田連 長崎平
 日本絹紡績會社(神奈川) 小山鶴治 長崎士
 同年八月染織科機織分科卒業(一名)
 神戶 宇加井連造 東京平
 同年九月染織科機織分科卒業(一名)
 秩父絹同業組合(武藏) 栗原深造 茨城平
 明治三十四年七月染織科色染分科卒業(八名)
 山武郡染織學校(上總) 一戸謙吾 青森士
 兵 役 新阪富藏 宮崎平
 兵 役 金井德二 群馬平
 兵 役 辰巳一男 福井士
 橫濱 稅關 塚原千里 北海道士
 京都綿子ル會社 增井勝治 靜岡平
 日本形染會社(遠江) 小倉正 東京士
 神戶 稅關 荒井谷吉 東京平
 兵 役 荒井谷吉 東京平
 同年同月染織科色染分科撰科卒業(一名)
 山武郡染織學校(上總) 佐々木 植 山形士
 同年同月染織科機織分科卒業(六名)
 山形縣立工業學校 橫井寅雄 熊本士
 未詳 久保田鎮之 靜岡士

兵 役 小林欽一 東京士
 橫濱 稅關 坂井勝 青森士
 愛知縣立工業學校 森山弘助 福島士
 西村山郡立染織講習所(羽前) 三上壽松 山形士
 明治三十五年七月染織科色染分科專攻科卒業(一名)
 明治三十四年卒業 荒井谷吉 東京平
 同年同月染織科色染分科卒業(三名)
 自營(東京日本橋) 竹内祐治郎 愛媛平
 兵 役 宮川正夫 長野士
 谷岡染染工場(東京向島) 宮本常夫 香川士
 同年同月染織科機織分科專攻科卒業(一名)
 明治三十四年卒業 久保田鎮之 靜岡士
 同年同月染織科機織分科卒業(六名)
 中魚沼郡染織學校(新潟縣) 牌伊勢鋒三 愛知士
 自營(仙臺) 牌太田勤治 宮城士
 橫濱 稅關 安田彦治 山口平
 專攻 生 前原準一郎 群馬平
 未詳 定 平松彦平 愛知平
 未詳 定 水谷誠之助 岡山士
 同年同月染織科色染分科撰科卒業(二名)

寬染工場(東京小石川) 長井兼藏 東京平
 (稻畑染料店) 小林誠良 山形士
 同年同月染織科機織分科撰科卒業(二名)
 自營(京都) 川井寬次郎 京都士
 長野縣下高井郡立機業講習所 龍田利一 福井平
 同年八月染織科色染分科卒業(一名)
 北海道製麻會社 藤田巖太 新潟士
 窯業卒業科生
 明治十九年七月化學工藝科(窯業)卒業(二名)
 橫濱 稅關 關口寬一郎 東京士
 靜岡漆器徒弟學校 太田能壽 東京士
 明治二十二年七月陶器玻璃工科卒業(四名)
 京都府陶磁器試驗所 藤江永孝 石川士
 石川縣立工業學校 小泉角五郎 長野平
 中央セメント會社(大阪) 眞野太郎 島根士
 ×上野好二郎 東京平
 明治二十三年七月陶器玻璃工科專攻科卒業(一名)
 明治二十二年卒業 藤江永孝 石川士
 同年同月陶器玻璃工科卒業(五名)

卒業生氏名

在歐洲(農商務省實業練習生) ×海老名龍四 愛知士
 王子製紙會社 北村彌一郎 石川士
 東京海軍造兵廠 中坪壽助 長野平
 森村組(名古屋) 大原辰彦 愛知士
 飛鳥井孝太郎 石川士

明治二十四年七月陶器玻璃工科卒業(七名)
 東京高等工業學校 平野耕輔 東京平
 自營(佐賀縣有田) 松村八次郎 佐賀平
 横濱 稅關 市川豊治 秋田平
 黑崎町中央セメント會社(筑前) 小川八助 神奈川平
 備前陶器會社 立野列助 山口市
 瀬戸陶器學校 黒田政憲 福岡士
 日本練炭會社(長崎) 金森清之助 東京平

明治二十五年七月陶器玻璃工科專攻科卒業(一名)
 明治二十四年卒業 松村八次郎 佐賀平

同年同月陶器玻璃工科卒業(三名)
 在歐洲(農商務省實業練習生) ×乾 親 枝 高知士
 ×渡邊不二男 靜岡平
 篠崎友三 栃木平

明治二十六年七月陶器玻璃工科卒業(三名)

大阪高等工業學校 梅田音五郎 福岡士
 ×橋本新一 滋賀士
 愛知セメント會社 安武龜太郎 福岡士

同年同月陶器玻璃工科撰科卒業(一名)
 自營(佐賀) 辻喜一 佐賀平

明治二十七年七月窯業科卒業(二名)
 品川白煉瓦製造所 武藤三枝 福島平
 自營(福島縣大沼郡木郷村) 柏村善八 福島士

明治二十八年七月窯業科專攻科卒業(一名)
 明治二十七年七月卒業 柏村善八 福島士

同年同月窯業科卒業(三名)
 農商務省地質調査所 内藤道太郎 靜岡士
 鈴木セメント製造所(東京深川) 吉井友志 鹿兒島士
 ×池田貞治 長崎平

明治二十九年七月窯業科卒業(三名)
 在歐洲(農商務省實業練習生) 渡邊 明 兵庫士
 本郷窯業徒弟學校(福島縣) 梁瀬眞壽 福島士
 ×井村乙吉郎 三重士

明治三十年七月窯業科卒業(二名)
 ×中村 長 三重士

在歐洲(農商務省實業練習生) 山田三次郎 鹿兒島士

明治三十一年七月窯業科卒業(一名)
 東京電氣會社(東京芝三田) 福富正家 東京士

明治三十二年七月窯業科卒業(七名)
 横濱臨時稅關工事部 名和 豊 東京士
 自營 長良敏郎 兵庫平
 在米國(農商務省實業練習生) 河原三郎 東京士
 淺野セメント會社(東京深川) 沼野憲三 京都士
 農商務省地質調査所 中川虎太郎 福岡士
 東京瓦斯會社(神田錦町) 梶山山之 東京士
 農商務省工業試驗所 西山 貞 兵庫士

明治三十三年七月窯業科專攻科卒業(一名)
 明治三十二年卒業 河原三郎 東京士

同年同月窯業科卒業(六名)
 淺野セメント會社(同司) 新名永一 大分士
 東京高等工業學校 大坂常治 東京士
 農商務省工業試驗所 丸田正家 新潟士
 三重セメント會社 藤原寅太郎 島根平
 横濱商業學校 坂本盛一 鹿兒島士
 未詳 宮之原通徹 鹿兒島士

明治三十三年十月窯業科卒業(一名)
 自營(山口 縣) 山下祥輔 山口市

明治三十四年七月窯業科卒業(三名)
 淺野セメント會社(東京深川) 大澤猛熊 愛媛士
 逓信省通信局電氣試驗所 金森元八 岡山士
 農商務省工業試驗所 久住 久 東京士

明治三十五年七月窯業科卒業(二名)
 横須賀海軍鎮守府建築課 太田 實 東京士
 陶磁器試驗所(京都五條坂) 牌中 村 昇 神奈川平

應用化學科卒業生

明治十九年七月化學工藝科(應用化學)卒業(三名)
 神戶 稅關 西川麻五郎 慶島士
 山形縣立米澤中學校 野間光彦 東京士
 東京高等工業學校 高野諄治 新潟平

明治二十年九月製品科卒業(二名)
 ×山田恒夫 福岡士
 第五土木監督署(大阪) 田寺信治 東京士

明治二十一年七月製品科卒業(一名)

未詳 田中敬信 福井士

同年同月製品速成科卒業(二名)

第五土木監督署(大阪) 岡本 親 高知士
自營(攝津武庫郡鳴尾村) 松井吉造 兵庫平

明治二十二年七月製品科卒業(四名)

金澤電氣鐵道創立事務所 得永文雄 富山平
別子 礦 山(伊豫) 梶浦謙次郎 鳥取士
新潟縣草ノ倉 鐵 山 ×小畑繁次郎 北海道士
吉其孫三郎 鹿兒島士

明治二十三年七月製品科卒業(二名)

清國上海華章造紙公司 新井要之助 東京平
岩手縣立農學校 上野長雄 山形平

同年同月製品科撰科卒業(一名)

諏岐電燈會社 黒田精太郎 愛媛士

明治二十四年七月應用化學科卒業(七名)

×宇佐美 信 東京士
×岸 久 重 福岡平
大藏省主税局 榎林英實 富山士
三菱大阪製煉所 津森四郎次郎 山口士
福井縣立福井中學校 山岡順六 東京平

×竹内大治 新潟平
齋藤虎雄 新潟平

明治二十五年七月應用化學科卒業(六名)

在歐洲(農商務省實業練習生) 武藤朝之助 岐阜平
硫酸晒粉製造會社(堺) 吉村素養 山口士
白營(靜岡縣磐田郡 佐藤勇太郎 靜岡平
見付村) 九五) 藤田 修 熊本平
日本會社(長門厚狭郡小野田) 岸 五郎 新潟平
社(新潟縣長岡市横枕) 野口義比 東京平
廣 濱 稅 關

明治二十六年七月應用化學科卒業(四名)

歐洲出張(大藏省) 早川繁雄 岐阜平
自營(山口縣佐波郡石田村) 田上宗次郎 山口士
三井礦山會社(東京京橋) 平松 武 福島士
大阪 硫 曹 會 社 長谷川鏡一郎 鳥根士

明治二十七年七月應用化學科卒業(七名)

大阪 精 糖 會 社 柳澤典治 長野平
大阪府警察部 中澤政太 長野平
東京稅務監督局 久松源次郎 茨城平
自營(長野縣上伊 山岸平藏 長野平
奈郡中箕輪村) 原田又三郎 山口平
大阪築港事務所

明治三十年七月應用化學科卒業(六名)

×松永太郎 福岡平
熊本稅務監督局 佐藤保吉 山形平
東京稅務監督局 松田健彦 東京士
農商務省特許局 廣井義男 和歌山平
足尾銅山古河鐵業所 大角右門 岐阜平
古河熔銅所(東京本所) 川島 晋 千葉平

明治三十一年七月應用化學科專攻科卒業(一名)

明治三十年卒業 松田健彦 東京平

同年同月應用化學科卒業(三名)

丸龜稅務監督局 小原省三郎 宮城士
靜岡市立商業學校 久野金一 靜岡士
下瀨火藥製造所(王子) 富岡仁太郎 宮崎平

明治三十二年七月應用化學科卒業(十三名)

郡山稅務監督局(福島縣) 小野真三 神奈川平
日本人造肥料會社 榎田龜壽 東京士
(東京府南葛飾郡大木村) 大 阪 精 糖 會 社 松江春次 福島士
臺灣總督府專賣局神戶支局 角田秀丸 愛知士
下瀨火藥製造所(王子) 土屋慎治 東京士
自營(東京神田區松枝町一八) 渡邊龜吉 東京平

自營(高知市木町) 濱田千代太郎 高知士
生野 銀 山(但馬) 徳永長一郎 佐賀士

同年同月應用化學科撰科卒業(一名)

院內 鐵 山(秋田縣) 鈴木金藏 秋田平

明治二十八年七月應用化學科卒業(七名)

大阪商品陳列所 伊藤金吾 岐阜士
別子 鐵 山(伊豫) 石井幸助 香川平
松江稅務監督局(島根縣) 嘉儀金一郎 鳥根士
金澤稅務監督局 中村政五郎 山形平
在歐洲(農商務省實業練習生) 土居川佐一郎 廣島平
足尾銅山古河鐵業所 富田榮太郎 鳥取平
海外出張(海軍省) 惟子祿郎 岩手平

明治二十九年七月應用化學科卒業(七名)

外國 留 學(文部省) 下斗米半治 東京士
三菱 大 阪 製 煉 所 田邊孝藏 福井士
東京瓦斯會社(深川) 毛利教明 東京平
在米國(農商務省實業練習生) 澤 全雄 東京士
東京高等工業學校 豐丸勝二 宮崎士
東京高等工業學校 瀨谷準造 秋田士
仙臺稅務監督局 池内要治 新潟平

鹿兒島縣立鹿兒島中學校 吉本正雄 高知士
 京都帝國大學 小島成治 東京士
 大阪住友伸銅所 芹澤景邦 岐阜士
 龍田清酒試驗所(奈良縣生駒郡) 木下研三 長崎士
 自營(群馬縣群馬郡室田村) 清水忠平 群馬士
 古河炭礦所(東京本所) 阿久津節三 東京士
 農商務省地質調査所 大塚信吾 東京士
 同年同月應用化學科特別課程卒業(二名)
 韓國度支部典圖書 洪仁杓 韓國
 自營(韓國) 玄 擱 韓國

明治三十三年七月應用化學科卒業(十名)
 未定 緒方益太郎 北海道平
 群馬縣農事試驗所 橋本眞平 岡山平
 日本精製糖會社(東京小名木川) 野村健 東京士
 (東京小名木川) 久米實 東京士
 日本精製糖會社(東京小名木川) 美馬延吉 德島平
 札幌麥酒會社 水野太郎 靜岡士
 大坂稅務監督局 御手洗道一 山口士
 未詳(印度國) 進士知郎 三重平
 三重縣室山伊藤清酒研究所 柴田租一 埼玉平
 岩手縣立農學校 埼玉平

下瀬火藥製造所(王子) 清水千穂彦 鹿兒島士
 明治三十四年七月應用化學科專攻科卒業(一名)
 明治三十三年卒業生 進士知郎 三重平
 明治三十四年七月應用化學科卒業(十一名)
 大阪多木帶革製造所 西尾助次郎 大阪平
 臺灣精糖會社(臺北橋仔頭) 大澤吉三郎 東京平
 函館稅關 渡邊英二郎 宮崎士
 日本精製糖會社(東京小名木川) 吉村眞砂丸 東京士
 丸龜稅務監督局 綱島爲三郎 神奈川平
 東京築地活版所(京橋) 中島重德 鹿兒島士
 松江稅務監督局(島根縣) 野白金一 島根平
 東京稅務監督局 前野虎之助 三重士
 臺灣總督府樟腦專賣局神戶支局 牧山正徳 東京士
 日本石油會社(越後柏崎) 後藤泰治 新潟平
 大阪大倉組皮革製造所 三好三也 長野士
 同年同月應用化學科特別課程卒業(一名)
 自營(印度國) ダド、シベラム シヤリケラム 印度國
 同年同月應用化學科撰科修了(一名)
 北海紙料會社(釧路國釧路) 林常助 北海道平
 明治三十五年七月應用化學科卒業(十六名)

足尾銅山古河鑛業所製鍊課 牌原村六郎 東京平
 廣島稅務監督局 橋爪陽 青森士
 仙臺稅務監督局 尾澤孝光 山梨平
 千壽製紙會社(豐前小倉) 田中建彦 鹿兒島士
 米國留學 田村清七 德島平
 寶田石油會社(越後長岡) 郡筑新五郎 靜岡平
 凸版印刷會社(京下谷三長町) 猪飼正雄 北海道士
 海軍下瀬火藥製造所 古屋季三 東京士
 六櫻社(東京豐多摩郡澁橋町角宮村) 江頭春樹 長崎士
 自營 遠藤淳 大分平
 橫濱稅關 淺野峰治郎 香川平
 農商務省持許局 牌三浦大造 島根士
 專攻 牌水崎鐵次郎 和歌山平
 北海紙料會社(釧路) 實島田慎二 東京平
 郡山稅務署(福島縣) 森田大三右衛門 島根平
 足尾銅山古河鑛業所 清家慶次 愛媛士

同年同月應用化學科撰科修了(一名)
 自營(仙臺北一番町) 別所直正 宮城士

機械科卒業生

卒業生氏名

明治十九年七月機械工藝科卒業(十名)
 第五土木監督署(近江大津) 大谷竹吉 兵庫士
 日本勸業銀行 加瀬正太郎 東京士
 臺北鐵道部 中根鈿七 廣島士
 東京帝國大學工科大學 衣斐松雄 岐阜士
 自營(神田區美土代町二ノ二) 山田信介 靜岡平
 自營(大阪東區北濱五ノ六三三) 淺村三郎 東京平
 茨城炭礦會社(東京京橋築地) X大石治家之助 兵庫平
 山田吉十郎 長崎士
 自營(肥前大村岩船莊) 加藤豐作 長崎平
 舞鶴海軍造船廠 山田鎮一郎 長野士

明治二十年九月機械科卒業(十二名)
 日本銀行技術部 小林懋 鳥取士
 自營(大阪北區北野田) 作山專吉 岩手士
 東京海軍造船兵廠 鳥谷部末治 岩手士
 東京海軍造船兵廠 吉田正心 東京平
 日本鐵絲會社(大阪) 山崎謙 東京平
 日本鐵道會社(埼玉縣大宮) 岡部透 東京平
 日本銀行大阪支店 村井季四郎 靜岡士
 山梨縣師範學校 中村貢 山梨平
 日本鐵道會社(大宮) 三宅叔藏 福井士

大阪住友鋸鋼所 山崎久太郎 東京士
熊本縣立工業學校 梅村久磨作 埼玉士
×黒田隆平 長野平

明治二十一年七月機械科卒業(七名)

長崎 稅關 池山英二郎 愛知士
第五土木監督署 田中捨之丞 廣島士
赤池炭坑(前田川郡) 神尾金八 東京士
幸袋工作所(筑前嘉穂郡) 葛西徳一郎 青森平
幸袋工作所(筑前嘉穂郡) 相澤綱吉 新潟平
福岡縣立福岡工業學校 杉本源吾 福岡士
自營(東京深川區上木村四三) 安田恒 東京士

同年同月機械科速成科(鍛工)卒業(三名)

未詳 山本元明 高知士
長崎三菱造船所 三木正夫 兵庫士
和歌山縣廳 井上久藏 鳥取士
長崎縣廳 有岡甲三郎 東京平
本洞炭坑(筑前鞍手郡) 小林要次郎 大阪士
×若船茂 北海道平
東京機械製造會社(芝三田) 立石丑五郎 大分士

若松築港會社(筑前) 横山正順 高知士
明治二十二年七月機械科卒業(二十四名)

九州鐵道會社(小倉) 小松幸太郎 青森士
自營(東京芝高輪四一) 石原卯八 静岡平
九州鐵道會社(小倉) 上村行典 鹿兒島士
札幌機械製造所 萩原直四郎 東京平
三池炭礦事務所(筑後) 齋間貞之丞 長野士
絹絲紡績會社岡山工場 渡邊龜之助 山口士
×大友刀藏 東京士
農商務省鹽業調查所 田澤金吾 東京平
福岡縣立久留米工業學校 中村陽次郎 東京平
×生野鐵一郎 静岡士
九州鐵道會社 植田久逸 東京平
宇野澤機械製造所(東京) 國藤廉太 東京士
自營(武藏秩父郡皆野村) 小杉善吉 埼玉平
歐洲出張(海軍省) 野村果義士 福井平
北海道廳鐵道部 佐野多一郎 秋田士
淺野セメント會社(東京深川) 辻可省 富山平
×安藤仙之助 兵庫士
日本鐵道會社(大宮) 石川銀次郎 山形士
×若泉鑑 東京士

明治二十三年七月機械科卒業(二十一名)

關山縣立工業學校 飯河三角 東京士
佐賀縣立工業學校 内山久太郎 静岡士
吳海軍造兵廠 長谷部小三郎 茨城平
吳海軍造兵廠 中島正賢 埼玉平
高田商會(東京麴町) 山内重馬 愛媛士
甲武鐵道會社(東京麴町) 植田助次郎 大阪平
白營(大阪) 佐々木高吉 埼玉平
北海道炭礦鐵道會社(手宮) 河相直吉 廣島平
兵庫縣廳 瀧澤三治 三重士
長崎三菱造船所 古賀吉太郎 福岡士
横濱航路標識管理所 岩崎虎夫 岡山平
長崎三菱造船所 若林貫一 大分士
横須賀海軍兵器廠(長浦) 二見鋼太郎 東京士
農商務省水産講習所 内村達次郎 山形平
宇治火藥製造所(山城) 長谷川茂吉 三重平

同年同月機械科撰科卒業(一名)

佐賀縣立工業學校 萩野覺彦 岐阜平

明治二十四年七月機械科卒業(三十名)

英國出張(海軍省) 松田萬太郎 佐賀士
吳海軍造兵廠 大西陳吾 德島士
長崎三菱造船所 濱田彪 長崎士
外務省 小西孝太郎 三重平
大東汽船會社 千葉平次郎 東京平
(清國上海租界) 木戸傳 長野平
自營(東京芝金杉濱町七三) 藤井龍藏 山口平
英國出張(海軍省) 野村真一 岐阜士
鐵道作業局(名古屋) ×關根嘉助 埼玉平
赤間關海務署 吉澤源作 福井士
山陽鐵道會社(兵庫縣鷹取) 遠藤榮次郎 兵庫平
日本鐵道會社 黒田峯松 福岡士

日本セメント會社(肥後八代)	尾崎隆三	岡山平
安田製釘所(東京深川)	山口武彦	鹿見島士
英國出張(海軍省)	野俣寛治	新沼平
東京海軍造兵廠	大宮熊三郎	愛知士
住友鑛業所(伊豫新居)	猪川定七	新沼平
三井物産會社横須賀出張所	河村兎吉	山口士
遞信省管船局	宇都野朝二郎	静岡士
北海道炭礦會社(旭川)	加藤金作	静岡平
日本鐵道會社(水戸)	松本慎一郎	東京平
英國出張(海軍省)	小池熊吉	石川平
九州鐵道會社(小倉)	新井荒三	福岡平
吳海軍造兵廠	逸見金太郎	東京士
九州鐵道會社(熊本)	飯島直二	福井士
大阪安田鐵工所(北區)	西川福馬	高知平
田中鐵工會社(東京深川)	谷崎安太郎	石川士
遞信省鐵道局	樋渡重右衛門	宮城平
高田商會(札幌)	竹内才摩	石川平
富士紡績會社(静岡)	田中身喜	埼玉平

同年同月機械科撰科卒業(一名)

自營(東京橋區南鍋町二二二) 池上喜之助 鹿兒島士

明治二十五年七月機械科卒業(三十五名)

日本勸業銀行	北山一太郎	福岡士
東京蠶業講習所	永井米藏	京都平
自營(福岡市養巴町四六)	×杉原平太郎	福岡士
攝津紡績會社野田分工場	戸波季三郎	福岡士
絹糸紡績會社和歌山工場	松原益次郎	岡山士
大和紡績會社(高田町)	山本豐藏	奈良士
新鴻鐵工所	×三井四一	長野士
豐國炭坑(前)	住田方次郎	鳥取平
三井礦山部金田炭坑(豐前田川郡)	笹村萬藏	山口士
自營(東京神田區錦町三三三)	片岡金太郎	岡山士
日本鐵道會社(東京)	高田干城	福井士
王子製紙會社(東京)	林準藏	埼玉平
中部分工場(遠江)	眞柳重磨	宮城士
農商務省特許局	坂内孫六	福島平
外國留學(文部省)	小野喜惣治	宮城士
北海道炭鐵道會社(小樽)	×村上彌一	福岡士
日本絹綿紡績會社(神奈川縣)	齋藤孝	東京平
製鐵所(筑前八幡)	岡三藏	岡山士
	吉川房夫	長崎士
	平野將	愛知士

明治二十六年七月機械科卒業(三十三名)

福岡縣立久留米工業學校	永松傳太郎	長崎士
福岡縣立工業學校	藤川勝丸	静岡平
山陽鐵道會社(神戸)	内林嘉四郎	大分平
三重紡績會社津分工場	大塚和吉	三重士
吳海軍造兵廠	林一男	兵庫士
日東商會(東京京橋八官町)	高橋貞吉	山形士
伊豫鐵道會社(松山)	船田金太郎	愛媛士
石川島造船所	栗田金太郎	佐賀士
知多紡績會社(尾張半田)	小嶋鶴彦	愛知士
大阪住友鐵鋼所	辻彌一郎	岡山平
農商務省商工局	飯田治彦	東京平
東京瓦斯會社(橋場)	笹部龍次郎	徳島士
英國出張(海軍省)	大石鉄吉	京都士
北海道製麻會社(札幌)	鈴木鈴馬	山形平
鐵道作業局(馬場)	浦謙爾	山口士
清國上海東華造紙公司	鈴木實	東京士
日本鐵道會社(大宮)	磯谷森之助	兵庫士
山陽鐵道會社(神戸)	大野部一郎	兵庫士
王子製紙會社(東京)	高田直屹	福岡士
大阪時計製造會社(四成郡豊崎)	石丸政太郎	山口平

中村商店(東京深川安宅四)	小池藤太郎	千葉士
關西鐵道會社(伊勢四日市)	横山武一	兵庫平
赤池炭坑(豊前田川郡)	佐藤信壽	福島士
米國留學	伊佐山傳次郎	埼玉士
三池炭山(福岡縣)	立花照	福岡士
歐洲留學(陸軍省)	奥田早苗	高知士
八幡濱紡績會社(伊豫)	×平澤平吉	長野平
大阪市築港事務所	橋本辰二	愛知士
吳海軍造兵廠	尾藤剛	兵庫士
在歐洲(農商務省實業練習生)	寺本直亮	千葉士
自營(東京芝罘町二ノ一四)	益川熊太郎	山形士
熊本縣立工業學校	春山敏郎	埼玉士
東京瓦斯會社第二工場	増山鑄吉	京都士
九州鐵道會社(行橋)	前田泰次郎	東京士
明治二十五年七月機械科特別ノ課程卒業(六名)	加藤敏治	岐阜平
福岡縣立工業學校	石黒友吉	愛知士
山形縣立山形中學校	高木秀太郎	岐阜士
福岡縣立小倉工業學校	森澤菊吾	高知平
徳島縣師範學校	×伊藤午次郎	東京平
	大川定治	徳島平

卒業生氏名

住友鐵業所(伊豫新居) 三枝基太郎 福岡平
 郡山紡績會社(奈真) 四橋彌壽雄 鳥取士
 日本鐵道會社(盛岡) 岩本熊雄 岡山士
 大阪製造會社(北區) 岡崎政一 石川士
 大阪高等工業學校 中村茂 靜岡士
 東京府立職工學校 X上田貫之助 大分士
 小出鋼藏 栃木士
 X水野忠真 岐阜平
 鶴崎常雄 福岡平
 廣木八郎 佐賀士
 十時元 福岡士
 藤山慎人 山口士
 德田雲三 東京士
 上田初市 大分平
 自營(豐前宇佐郡驛前村) 上田初市 大分平
 富山縣師範學校 伊藤宜良 福井平
 廣島縣立職工學校 尾形作吉 秋田士
 東京高等工業學校 橫澤多利吉 宮城士
 秋田市立工業徒弟學校 松政幾太郎 大阪平
 愛知縣第二中學校 大橋熊藏 山形士
 自營(琉球那霸西村) 小嶺幸之 沖繩士

同年同月機械科特別ノ課程卒業(六名)

札幌麥酒會社 山布高 福井士
 X加藤貞雄 福井士
 長野縣 杉谷四郎 東京平
 日本郵船會社橫濱監督課 高松茂之 高知士
 三池炭礦製作所(筑後) 犬童安一 熊本士
 日本麥酒會社(東京) 橋本卯太郎 岡山平
 三池炭礦(山筑後) 大我好身 長崎士
 鐵道作業局鹿兒島出張所 村上兵太郎 兵庫士
 小名木川鐵工場(深川) 野村亭作 福岡士
 北海道七上鐵(北區) 竹村五郎乙 東京士
 鐵道作業局(青森) 岡台治 宮城士
 X竹山新吾 東京士
 X久米恒一郎 佐賀士
 問雄次 長崎士
 依田竹三郎 山形士
 寺西直 德島士
 前田雄次郎 山形士
 野崎傳次郎 東京士
 飯笹小四郎 長崎士
 島田敬雄 長崎士
 岡本彦馬 高知士
 東京瓦斯紡績會社(木所) 問雄次 長崎士
 鐘ヶ淵紡績會社(東京) 依田竹三郎 山形士
 鐘ヶ淵紡績會社兵庫分工場 寺西直 德島士
 東京鑛山監督署 前田雄次郎 山形士
 中島鐵工場(東京本所) 飯笹小四郎 長崎士
 海軍御德炭坑(筑前) 島田敬雄 長崎士
 明治炭坑會社(筑前鞍手郡) 岡本彦馬 高知士

卒業生氏名

明治二十七年七月機械科專攻科卒業(一名)

明治二十六年卒業 鈴木鈴馬 山形平

同年同月機械科卒業(四十三名)

明治二十六年卒業 鈴木鈴馬 山形平
 鐵道作業局(神戸) 山田鑑雄 三重士
 大阪合同紡績會社今宮工場 井村齋六 三重平
 日本紡績會社(大阪西成郡) 岡田音次郎 佐賀平
 九州鐵道會社(行橋) 磯島彦 福岡平
 在歐洲(農商務省實業練習生) 岩永秀三郎 長崎士
 米國留學 竹尾年助 東京平
 織絲紡績會社(大阪西成郡) 武藤孫一 大分士
 京都市立染織學校 森戶政治 佐賀平
 深川鐵工場(東京) 海老定德 神奈川士
 鐵道作業局(長野) 佐藤三郎 新潟士
 鐵道作業局米子出張所 林忠夫 岐阜士
 鐘ヶ淵紡績會社兵庫分工場 垂水清 大分士
 日本鐵道會社(東京) 里内常太郎 東京平
 大阪築港事務所 村田芳五郎 德島士
 長岡興業會社(高田) 木下勇茂 長崎士
 在歐洲(農商務省實業練習生) 船水武五郎 野森士
 東京海軍造兵廠 伊藤楨 香川士
 九州鐵道會社(行橋) 渡邊豊次郎 秋田士

同年同月機械科特別ノ課程卒業(四名)

住友本店建築部(大阪) 高橋兵四郎 宮城士
 中島鐵工場(東京本所區) 石内紀道 東京平
 韓國度支部典圖局 額田大助 山形士
 小名木川綿布會社(東京) 圓城寺清 神奈川士

同年同月機械科畢業(一名)

自營(武藏北足立郡驛前村) 奥住檢吾 埼玉平

明治二十八年七月機械科卒業(四十五名)

製鐵所(筑前八幡) 佐久間方雄 兵庫士
 在歐洲(農商務省實業練習生) 多田成政 熊本士
 X安藤厚三郎 東京平
 製鐵所(筑前八幡) 六角三郎 長野士
 大阪紡績會社水津川分工場 岩尾德太郎 愛媛平
 日本鐵道會社(大宮) 津隈乙良 福井士
 九州鐵道會社(門司) 村瀬直 東京士
 外國留學(文部省) 若根友愛 長野士

大阪紡績會社	中島半三郎	兵庫士
九州鐵道會社(小倉)	大谷資利	廣島士
日本防水布會社(大阪西成郡)	矢野丑乙	愛媛平
在米國(農商務省實業練習生)	橋本増次郎	愛知平
長崎三菱造船會社	田所元喜	高知士
九州鐵道會社(門司)	多々良信二	佐賀士
日本毛織會社(播磨加古川)	谷江長	福井士
高田商會(東京麹町)	池田善四郎	埼玉平
米國留學	阿部圭一	東京士
日本紡績會社(大阪北區)	三浦梅之助	長崎平
富岡機械製造所(東京芝田町)	三好唯吉	愛媛平
住友鑄鋼所(大阪)	江間午三郎	京都士
長崎三菱造船會社	林田忍四郎	長崎士
鐵道作業局(神戸)	×廣田本一郎	栃木平
九州鐵道會社(唐津)	永井政成	愛媛士
日本紡績會社(攝津西宮町)	山縣信義	山口士
九州鐵道會社(小倉)	藤原林平	山形平
熊本縣立工業學校	原惠一郎	德島士
東京瓦斯會社(東京橋場)	田内榮	東京平
鐵道作業局(品川)	山田時太	大分平
	久保田順一	福岡平

製紙會社(芝川工場(駿河富士郡))	玉島誠造	廣島士
長崎三菱造船會社	岡本猛彦	高知士
九州鐵道會社(博多)	愛甲隆俊	熊本士
大坂三品取引所(大阪東區)	中田龜二	福井士
大阪商會(陳列所)	小出錠雄	静岡平
向島櫻組會社(東京本所)	上月秀太郎	東京平
長崎三菱造船會社	春信孝	長崎平
播磨紡績會社(姫路)	藤野桃三郎	滋賀平
橫濱船渠會社	井口第一郎	東京士
幸袋工場(筑前鞍手郡)	漆戸起一	東京士
京都紡績會社(三條)	中原久次郎	京都平
農商務省特許局	石川貞一	長崎士
高田商會(東京麹町)	金澤悅也	東京平
長崎三菱造船會社	×江本泰二	山口士
白營(備前御津郡橫井)	森川龍喜代	山形士
蜂谷齊	岡山平	
同年同月機械科特別ノ課程卒業(五名)		
東京高等工業學校	内海靜	京都士
自營(東京神田錦町三ノ七)	菊池午之助	神奈川平
阿波紡績會社	武市波五郎	德島士
東京府立職工學校	今泉彦	秋田士

高知縣師範學校 横山茂平 高知士

同年同月機械科撰科卒業(一名)

自營(東京橋南本郷町) 加藤純吾 東京平

明治二十九年七月機械科卒業(三十四名)

攝津紡績會社(野田分工場)	三村保	大分士
九州鐵道會社(長崎)	庄野龜次郎	福岡士
外國留學(文部省)	關口八重吉	東京平
長崎三菱造船會社	蒲池信	東京士
中島鐵工場(東京本所)	木川行藏	滋賀士
橫濱船渠會社	久米彪郎	高知士
北海道鐵道部(旭川)	鷲崎文三	佐賀士
藏王石油會社(越後刈羽郡)	海野孝幸	長野士
京都紫野織物會社	可兒一雄	和歌山士
愛知縣警察部	山下倉太郎	愛知士
米國留學	林清憲	山形士
岐阜縣	鈴木仙次郎	福島平
高田商會(大阪北濱三丁目)	沖尚介	富山士
白營(伊勢度會郡大湊町)	市川竹次郎	三重平
西陣漆糸再整會社	益子勇雄	茨城士
吳海軍造船兵廠	隈崎佐太郎	鹿兒島士
長崎三菱造船會社	大串爲太郎	長崎士

逓信省製作課	川田郁	埼玉士
鐵道作業局(神戸)	藥袋順雄	滋賀平
東京高等工業學校	大久保藤吾	滋賀士
北越鐵道會社(長岡)	福田光義	長崎士
勝野炭坑(西古河鐵業所(筑前鞍手郡))	内田乙喜	石川士
博多絹紡績會社	齋木虎吉	福岡士
三井物産會社(舞鶴出張所)	吉高廣	山形士
市原ポンプ製造場(東京本所)	小林次二	德島士
製鐵所(越後赤谷村出張所)	遠藤隆太	新潟士
北海鐵工所(函館)	小林貞治	北海道平
三井紡績會社(前橋)	岡四郎	福岡士
未詳	赤司荒一	佐賀士
鐵道作業局(新橋)	岡部秋助	東京士
絹糸紡績會社(新町工場(群馬縣))	若麻績安治	長野平
未詳	小島代三	新潟平
秋田近江谷發電所	遠山竹三郎	秋田士
富山縣織物模範工場	伊東友吉	石川平
同年九月機械科卒業(一名)		
大阪高等工業學校	宮石十四郎	愛知平
明治三十年七月機械科卒業(四十名)		
長崎三菱造船會社	大島翼	大分士

卒業生氏名

日本鐵道會社(大宮)	山田謙次郎	新潟士
芝浦製作所(東京芝)	更田信四郎	東京士
東京高等工業學校	淺川權八	東京平
大阪造幣局	本尾安次郎	東京平
越後鐵工所(直江津)	中原綱太	福島士
新 潟 縣 廳	×江副爲市	長崎士
日本鐵道會社(大宮)	木山環平	新潟平
自 營(堺市寺町)	田 頭 均	岩手士
大 坂 砲 兵 工 廠	岸本節男	京都士
日本鐵道會社(福島)	岡島奈良藏	京都平
鐵道作業局(神戸)	中根勳爾	新潟士
日本鐵道會社(水戸)	志賀幹次郎	愛知士
寶田石油會社(越後長岡)	西原種雄	岡山士
芝浦製作所(東京芝)	喜多野逸次	静岡平
自 營(福岡市天神町六一)	高橋綱吉	秋田士
秀英會第一工場(東京牛込市ヶ谷)	千田凡男	福岡士
日本鐵道會社(福島)	寺内篤三郎	東京士
英 國 出 張(海軍省)	茂又確二	秋田士
板橋火藥製造所	宮 川 一	香川平
東京瓦斯會社(神田)	川喜田生次郎	東京平
	小峰芳次郎	東京士

製 鐵 所(筑前八幡)	服部可一	佐賀士
九州鐵道會社(早岐)	長島七三郎	佐賀士
山 越 工 場(東京本芝)	入 江 十	福島士
日本鐵道會社(盛岡)	高橋次郎	茨城士
龜崎鐵工所(尾張知多郡)	×内田仁惣太	佐賀平
日本鐵道會社(東京)	川合英太郎	三重士
三重紡績會社津分工場	富永幸三	長崎士
北海道臨時鐵道布設部(旭川)	鈴木育太郎	群馬士
自 營(佐賀)	緒形弘藏	兵庫士
九州鐵道會社(行橋)	百武欽二郎	佐賀士
南洋スマトラ石油會社	酒井熊夫	佐賀士
東京時計製造會社	安藤成一	東京士
東京府土木課	小林瀧秀	東京平
神戶瓦斯會社	石川昌次	愛知士
鐵道作業局(新橋)	×石塚 豊	神奈川士
日本麥酒會社(東京日暮)	佐藤 馨	大分平
明治三十一年七月機械科卒業(三十八名)	金井佐喜太	長野士
日本鐵道會社(大宮)	宮部直哉	岩手士
山陽鐵道會社(馬關)	岸山憲二	新潟士
	尾 花 信	廣島平

九十六

在米國(農商務省實業練習生)	熊井泰助	群馬平
尾 張 紡 績 會 社	松岡音吉	愛知平
關西鐵道會社(大阪)	富田秀三郎	德島士
東京海軍造兵廠	竹村誠也	愛知士
高 田 商 會(東京麹町)	宮崎方信	和歌山士
吳港吉浦白峯造船所	泉 量 一	佐賀士
未 詳	黒田小環次	德島士
山陽鐵道會社(姫路)	邊見義平	大阪士
日本郵船會社(横濱)	橋本修三	東京平
米 國 留 學	疋田玄龜	東京平
長 三 菱 造船所	庄司兼治	秋田平
横濱臨時稅關工部部	松田利勝	東京士
九州紡績會社三池工場	安永省三	福岡士
日本鐵道會社(東京)	長井杏四郎	北海道平
自營(東京芝白金三光町四五)	石戸文吉	東京平
横須賀海軍兵器廠	山下茂太郎	東京平
北海道廳鐵道部(旭川工場)	板橋甲八	福島士
東京瓦斯會社(神田)	金子淺之助	東京士
札幌鐵道會社(神田)	井上 廉	石川士
山陽鐵道會社(岡山)	來住輝雄	愛媛士
越後スタンプト石油會社	安部榮四郎	宮城士

未 詳	長岡又三郎	長崎士
鐵道作業局(新橋)	桑原謙次郎	東京士
未 詳	戸谷昌彦	静岡士
日本鐵道會社(大宮)	伊藤傳三郎	東京士
長崎三菱造船所	柴田鶴次	東京士
日本鐵道會社(大宮)	日向野儀四郎	栃木平
九州鐵道會社(佐賀)	原 清 秀	山形士
石川島造船所(東京京橋)	宮澤鶴次郎	東京士
大阪福島紡績會社	竹田貞吉	德島平
住友四坂島製鍊所(伊豫)	岸本主馬	大分士
鐵道作業局(福島)	蘆川良平	山形士
北海道炭鐵道會社(岩見澤)	江柄三七	岩手平
參謀本部陸地測量部	鈴木兼吉	東京平
三井物産會社大阪支店	原 繁 雄	東京平
印 刷 局	佐藤爲太郎	青森士
明治三十二年七月機械科卒業(五十一名)		
鐵道作業局(新橋)	賞服部一平	東京平
宮内省東宮御造營局	堤 彦 一	福井士
岡山縣立工業學校	喜多島二虎	岡山士
高 田 商 會(東京麹町)	池邊榮太郎	長崎平
新潟鐵工所柏崎分工場	林 嘉 政	山口士

卒業生氏名

九十七

三井物産會社(東京日本橋區)	岡本弘馬	神奈川士
九州鐵道會社(大里)	藤井又四郎	長崎士
東京製綱會社(深川分工場)	小野 謨	青森士
農商務省博覽會事務局	曾我榮次郎	神奈川平
鐵道作業局(秋田)	弓氣田 弘	東京士
警 視 廳	中野長三	東京士
日本石油會社(越後)	天野維熊	東京士
井桁合名會社(名古屋)	渡 邊 博	岐阜士
三重 鐵 工 所	大里峻三郎	茨城士
東京高等工業學校	志倉光繼	東京士
熊本縣立病院	永松友一	東京士
製 鐵 所(筑前八幡)	石川政良	東京士
山陽鐵道會社(須磨)	鹽見義夫	三重平
吳海軍造兵廠	村上順助	山口平
製 鐵 所(筑前八幡)	×粟屋福壽	茨城士
逓信省郵務課	渡 邊 徹	德島士
印刷局王子抄子部	則武美夫	岡山平
農商務省特許局	倉賀野政三	神奈川士
東洋護謨會社(東京府吾嬭)	崎 田 弘	兵庫士
印刷局王子抄子部	相浦貫一	東京士
	竹内次夫	熊本士

浦賀 船 渠 會 社	土田豊作	山形士
北海道炭礦鐵道會社(岩見澤)	田畑政治	熊本士
北海道炭礦鐵道會社(夕張)	水野 環	新潟士
九州鐵道會社(門司)	山内 榮	大分士
川崎造船會社(神戶)	竹内政彦	鹿児島士
京都帝國大學理工科大學	池田豊男	石川士
長 崎 稅 關	菊原貞一	長野平
九州鐵道會社(若松)	天野惣次郎	東京士
神 戶 稅 關	水野清瀨	新潟士
橫濱日清貿易會社	平松藤太郎	岡山平
米 國 留 學	町田紘平	鹿児島平
東京電燈會社(淺草)	中山周作	群馬平
鐵道作業局馬場機關庫(大津)	早川香苗	東京士
自 營(東京芝田町三ノ四)	鈴木廣太郎	東京平
富士紡績會社	佐藤義制	山形士
橫濱船渠會社	鈴木重義	愛知士
吳海軍造兵廠	福島信之輔	東京士
大阪高等工業學校	江藤三生	熊本士
北海道炭礦鐵道會社	佐藤信雄	東京士
第一區土木監督署(下總佐原)	蘭 川 武	三重平
豊岡炭坑(豊前川郡弓削川)	永田密三	北海道平

明治三十三年七月機械科卒業(三十七名)

佐世保海軍造兵廠	北村 剛	佐賀士
鐵道作業局(新橋)	目賀田 壽	東京士
製 鐵 所(筑前八幡)	衣非安之助	岡山士
吳海軍造兵廠	市川忠一	群馬士
札幌ビル會社分工場(東京本所瓦町)	板倉由松	東京士
日本鐵道會社(仙臺)	伊東松作	宮崎士
日本樂器製造會社(濱松)	一色照三	東京士
長岡寶田石油會社(越後)	市村秀治	東京平
未 詳	石井彌三郎	大阪平
日本鐵道會社(宇都宮)	林 金太郎	東京士
鐵道作業局(神戶)	土生清兵衛	福岡平
安田製釘所(東京本所)	西 隆 遷	愛媛平
鐵道作業局(神戸)	友野秀俊	岡山士
三井物産會社(東京日本橋)	太 田 太	大分士
自 營(筑前鞍手郡直方)	貝島定二	福岡平
鐵道作業局(新橋)	河村牧司	東京士
三重紡績會社(四日市)	加藤新之丞	三重士
山形縣立工業學校	高柳芳一	佐賀士
芝浦製作所(東京芝區)	中川常藏	山形平
製 鐵 所(筑前八幡)	村岡益次郎	山口士

兵 役	武藤直驅	東京平
未 詳	野口善平	新潟平
兵 役	賞安 田 昌	福岡士
芝浦製作所(東京芝區)	山田三郎	大分士
兵 役	矢作銀太郎	東京士
第五土木監督署(近江大津)	山口儀一	長崎平
逓信省電氣試驗所	正木繁次	熊本士
吳海軍造兵廠	小林四郎	秋田士
杵島炭坑(肥前杵島郡北方)	後藤政雄	茨城士
名古屋紡績會社	朝原梅太郎	熊本平
京都織物會社	財津令藏	大分平
石川島造船所(東京京橋)	齋藤常次郎	福島士
加藤工場(東京京橋築地)	貴島勇介	鹿児島士
日本鐵道會社(東京)	北村正雄	青森士
自營(大阪北區根崎中一、三、六、九)	喜多正藏	奈良平
九州鐵道會社(熊本)	宮地貞恒	高知士
住友製煉所(伊豫四坂島)	野 田 繁	佐賀士
山陽鐵道會社	鹽谷朝一	兵庫平
函館船渠會社	鹽田亥之助	富山平
日本鐵道會社(盛岡)	平岡三郎左衛門	岡山平
日本鐵道會社(水戸)	森田長次	福井士

卒業生氏名

同年七月機械科特別ノ課程修了(一名)

軍部砲工局(韓國) 金鼎禹 韓國

同年七月機械科卒業(六名)

九州鐵道會社(長崎) 中山郁郎 佐賀士
自營(大阪東區北濱五、六) 富澤信 千葉士
大阪造幣局 山田重雄 熊本士
群馬縣立前橋中學校 高橋愛象 岩手士
製鐵所(筑前八幡) 榎藤薰平 北海道士
農商務省特許局 白井真一 東京士

同年八月機械科卒業(二名)

×四田萬藏 京都平
長崎三菱造船所 安岡隆司 高知士

明治三十四年七月機械科卒業(四十九名)

諏岐紡績會社 井上徳一 香川平
鐵道作業局(新橋) 橋本義夫 福岡平
久見商會(東京京橋) 二宮輝 愛媛士
吳海軍造兵廠 片羽陽一 静岡士
兵 土居浩 高知平
兵 富田敬一 東京平
兵 干葉了 岩手士
横濱稅關

三井三池製作所(筑後三池郡)

小田善作 福岡平

横須賀海軍兵器廠(長浦)

×小野長 福井士

北海道炭礦鐵道會社(室蘭)

大野善雄 山形士

兵 役

大久保彦三郎 山形平

吳海軍造兵廠

岡山貞吉 東京平

自營(丹後加佐郡余内村)

加藤鹿之助 東京平

東京帝國大學工科大學

川井恭高 東京平

鐵道作業局(長野)

河備佐久造 大阪平

東京海軍造船會社

笠井壽三郎 静岡平

日本鐵道會社(東京)

箱谷金太郎 東京平

農商務省鹽業調查所

吉田一磨 福岡士

舞鶴鎮守府兵器廠

桂冬造 宮城士

高田商會(東京麹町)

竹田要人 奈良士

吳海軍造兵廠

祖山虎雄 東京士

長崎三菱造船所

中澤徳之丞 東京平

河合鐵工所(名古屋清水坂上)

中村佐太郎 大分士

日本鐵道會社(東京)

永井信彦 愛知平

日本鐵道會社(東京)

永岡義道 福井平

兵 役

永瀬久七 栃木平

攝津紡績會社野田分工場

國吉信義 山口士

兵 役

楠田芳男 奈良士

同年同 月機械科撰科修了(二名)

眞島機械工場(東京芝區) 金木通之亮 千葉平

京釜鐵道會社(東京麹町)

吉村梅太郎 佐賀平

明治三十五年七月機械科卒業(四十四名)

兵 役 楠田孝吉 東京平
吳海軍造兵廠 楠木正明 三重平
長岡寶田石油會社(越後) 牌山田文慈 新潟士
富士製紙會社第二工場 山本光男 高知士
幸袋工作所(筑前嘉穂郡) 安永悟 福岡士
未 詳 町野守備 福岡士
兵 役 古賀榮之助 福岡士
自營(東京本所長岡町四三) 木場佐吉 鹿兒島士
兵 役 駒井四郎 東京士
北海道炭礦鐵道會社(岩見澤) 菅藤寅藏 大分平
日本鐵道會社(東京) 牌榎本勝三 東京平
北海道鐵道會社(旭川) 阿部鐵藏 山形士
北海道炭礦鐵道會社(岩見澤) 阿部 壽 東京士
東京高等工業學校 粟生貞一 和歌山士
長崎三菱造船所 三浦清海 大分士
東京瓦斯紡績會社 潮崎源次 熊本平
印刷局印刷部 日根野太作 新潟平
兵 役 平松甚吉 東京士
四日市製紙會社芝川工場(駿河富士郡) 瀨古太一郎 三重平
小阪 嶺山(秋田縣) 澄川久吉 島根平
日本麥酒會社(東京) 鈴木捨藏 福島平

飯田耕一 山口士
井上可吉 廣島士
井上永太 福島士
石神球一郎 鹿兒島士
一ノ瀬金四郎 福島平
春田宜政 富山士
濱野繁藏 東京平
牌山壽松 長崎平
二回小澤信次郎 東京士
和田 量 愛知平
渡邊剛三 茨城平
片山忠三 岡山平
龍岡 孟 福岡平
兼重諷祐 山口士
神田赫郎 三重士
牌四柳純吉 富山平
吉原茶三 長野士

卒業生氏名

卒業生氏名

大阪 鐵 工 所 田中岩吉 岡山平
 北海道炭礦鐵道會社(石狩) 二回 田中 洽 鳥取士
 石原特許事務所(東京京橋) 中川秀爾 福島士
 白 營(大坂西區土佐堀) 中島市次郎 大阪平
 三井三池炭坑(筑前三池郡) 武藤憲三 岐阜平
 鐵道作業局(新橋) 迎 忠 順 佐賀士
 未 鐵道作業局(新橋) 牌內田保爾 東京士
 橫濱 鐵 關 桑原 樸 岐阜平
 未 濱 稅 關 松隈知一 佐賀士
 吳海軍造兵廠 益田興三 福岡士
 足尾銅山工作課 藤田敏信 福岡平
 寶田石油會社(長岡) 小松德太郎 山形平
 白 營(高崎市歌川町) 小島彌一郎 群馬平
 熱田製港事務所 近藤 一 郎 愛知士
 日本鐵道會社(山端) 岡部外龜雄 廣島士
 東京砲兵工廠 青江 隼 太 岡山士
 富士紡績會社(小山驛) 二回 青木 達 三 東京士
 長岡興業會社(越後) 齋藤 長 二 富山平
 未 佐々木清吉 新潟平
 東京海軍造兵廠(築地) 佐藤 政 一 神奈川士
 兵 役 北村辰助 佐賀士

名古屋電燈會社 中尾眞智 高知士
 廣島水力電氣會社 岩田織吉 廣島士
 同年同 月電氣工科電氣化學分科卒業(五名)

古河溶銅所(東京本所區) 奥村龜太郎 滋賀士
 未 詳 浦濱惣太郎 大阪平
 王子製紙會社氣多分工場(遠江) 宮川萬手彦 新潟士
 千壽製紙會社(小倉) 潮田 景 次 千葉士
 白 營(東京四谷、坂、六五) 橋 爪 輔 東京平
 明治三十二年七月電氣科電氣機械分科卒業(十三名)

東京高等工業學校 石川六郎 東京士
 田川 炭 坑(豐前) 生地純一 大分士
 未 定 小川亮吉 大阪士
 別子 銅 山(伊豫) 大城六郎 東京平
 足 尾 銅 山 牧野賢吉 岡山士
 東京海軍造兵廠 增田全吾 石川士
 鐵道作業局(新橋) 藤村信也 岡山士
 鐵道作業局(新橋) 江口直次郎 埼玉平
 芝浦製作所(東京芝區) 菊地節也 栃木士
 山陽鐵道會社 水内六太 岡山士
 兵 役 志村 龍 山梨平
 九州鐵道會社(門司) 望月正一 靜岡平

卒業生氏名

川崎造船所(神戶) 賞喜多村貫二 神奈川士
 東京海軍造兵廠(築地) 牌篠 彌太郎 東京平
 富士紡績會社(小山驛) 進藤省吾 宮城士
 鐵道作業局(神戶) 惠谷 一 郎 廣島平
 富士製紙會社(駿河富士郡) 關岡 豊 治 東京士
 芝浦製作所(東京芝) 鈴木得助 東京士

電氣科卒業生

明治三十一年七月電氣工科電氣機械分科卒業(十三名)

京濱電氣鐵道會社(川崎) 高木清吉 岐阜士
 山陽鐵道會社 伊 東 直 兵庫平
 芝浦製作所(東京芝區) 丸山彦門 長野平
 橫濱 濱 稅 關 秋 保 眞 宮城平
 農商務省特許局 西岡虎造 群馬平
 製鐵所(福岡縣八幡) 松永永之助 愛知平
 三池炭礦發電所(筑後) 黒川 圭 熊本平
 神 戶 稅 關 皿田精一 山口平
 山陽鐵道會社 岡田反吾 兵庫平
 山口電燈會社 吉武唯一 山口士
 山陽鐵道會社 堀内四郎 長野平

勝野 炭 坑(筑前) 塚本長治 兵庫士
 同年同 月電氣科電氣化學分科卒業(二名)

印 刷 局 印 刷 部 久野弘濟 奈良平
 兵 役 猪尾 清 大阪平
 同年八月電氣科電氣機械分科卒業(一名)

臺灣總督府製藥所 三木鹿三郎 鳥根平
 同年同 月電氣科電氣機械分科撰科修了(二名)

新嘉坡電燈會社 山田和三郎 佐賀平
 第一銀行(東京日本橋區) 島田房太郎 佐賀平
 明治三十四年七月電氣科電氣機械分科卒業(十二名)

鐵道作業局(新橋) 二回 稻垣秀定 東京平
 大阪砲兵工廠 原 開四郎 福島士
 兵 役 林 翼 一 愛知士
 東京海軍造兵廠 樺 剛 鳥取平
 三菱會社荒川鑛山鑛養發電所 瀧口廣治 富山平
 日本鐵道會社(東京) 曾我正雄 鳥取士
 神奈川縣警察部 柳田英兒 千葉士
 東京電車鐵道會社 江藤清角 鹿兒島士
 九州鐵道會社 牌定平建太郎 岡山平
 鉢田三菱炭坑(筑前嘉穂郡) 木戸三郎 大分士

日本銀行大阪建築事務所 島本良助 廣島平
 長崎三菱造船所 牌樋口 清 奈良平
同年同 月電氣科電氣化學分科卒業(五名)
 日本舎製鐵造會社(長門厚狹郡小野田) 加來壽六 福岡平
 千壽製紙會社(福岡縣小倉) 川島彦六 東京士
 兵 井深甫 北海道士
 自營(東京神田五軒町一五) 松浦孫太 東京士
 兵 青木一 東京士
明治三十五年七月電氣科電氣化學分科專攻科卒業(二名)
 明治三十四年卒業 加來壽六 福岡平
 明治三十四年卒業 松浦孫太 東京士
同年同 月電氣科電氣機械分科卒業(九名)
 芝浦製鐵所 服部源太郎 熊本平
 日本鐵道會社(東京) 太田金綱 長野平
 日本鐵道會社(東京) 小田桐凡彦 青森士
 突海軍造兵廠 吉松孝藏 長野士
 農商務省特許局 高木茂一 東京平
 芝浦製鐵所 牌田中龍夫 神奈川士
 兵 中川清 山梨平

東京市街鐵道(社)(京橋) 内阪素夫 山口平
 福島電燈會社 小林恒藏 群馬平
同年同 月電氣科電氣化學分科卒業(五名)
 橫濱電線製造會社 牌岡田信造 東京平
 鹿兒島縣日置郡伊作實業補習學校 牌小山十一郎 鹿兒島士
 東京高等商業學校 楠井貫一 京都平
 米 國 留 學 前田秀光 鹿兒島士
 米 國 留 學 宮崎嘉明 東京府士
同年同 月電氣科電氣化學分科撰科修了(一名)
 印 刷 局 進藤俊介 山口士
工業圖案科卒業生
明治三十五年七月工業圖案科卒業(五名)
 印 刷 局 大野二郎 長崎士
 兵 役 岡 春 磨 岡山士
 自 營(東京麻布) 深田藤三郎 東京士
 印 刷 局 安藤鐵作 愛媛士
 自 營(東京赤坂) 森田茂樹 兵庫平
同年同 月工業圖案科撰科修了(二名)
 自 營(東京) 竹田 環 新潟平

東京築地活版所 青柳佐彌雄 福岡士
同年同 月工業圖案科卒業(一名)
 森 村 組(名古屋) 杉日宗助 宮城平

附設工業教員養成所

金工科卒業生

明治二十八年七月金工速成科卒業「一學年間に在學」(四名)
 日本郵船會社 齋藤勇吉 茨城平
 在 歐 洲(陸軍省) 野口大吉 東京士
 新潟鐵工所 片岡光馬 高知平
 東京砲兵工廠(赤羽) 青山治三郎 長野士

明治二十九年七月金工科卒業「二學年間に在學」(五名)
 岡山紡績會社 重成壽太郎 岡山平
 岩手縣立工業學校 矢口玉五郎 茨城士
 東京高等工業學校 松澤喜和太 東京平
 新潟縣立新發田中學校村上分校 小笠誠之助 秋田平
 愛媛縣立徳山中學校 大山圭三郎 徳島士
同年同 月金工速成科卒業「二學年間に在學」(四名)

鐵道作業局(新橋) 小川豊吉 東京士
 牟田炭山(福岡縣) 内山綱市 福岡平
 製造館(東京本郷區千駄木) 仙石正良 鳥取士
 自 營(山形縣) 峰田善助 山形平
明治三十年七月金工科卒業「三學年間に在學」(四名)
 福岡縣立工業學校 大橋 浩 福岡士
 東京高等工業學校 岡田 具 東京士
 岩手縣立工業學校 柴 友 吉 富山平
 廣島縣立職工學校 高田中丸 愛知平
同年同 月金工速成科卒業「二學年間に在學」(一名)
 ×高 橋 了 高知平

同年同 月金工速成科卒業「一學年間に在學」(三名)
 山形縣立工業學校 佐野靜哉 岡山士
 日本鐵道會社(盛岡) 久保田新吉 岩手士
 福岡縣立工業學校 中川謙藏 新潟平
明治三十一年七月金工科卒業「三學年間に在學」(四名)
 廣島縣立職工學校 福家宗太郎 徳島士
 石川縣立工業學校 越川銚太郎 千葉士
 福岡縣立小倉工業學校 鳴海初太郎 青森平
 宮崎縣師範學校 金子貞吉 山口平

明治三十二年七月金工科卒業「三學年間に在學」(六名)

熊本縣立工業學校 中田徳太郎 岐阜平
 群馬縣立伊勢崎染織學校 吉田賢吉 徳島平
 東京府立職工學校 西山 峻 福岡平
 東京高等工業學校 小林豊造 兵庫士
 市立仙臺工業學校 西村仁治 宮城平
 佐賀縣立工業學校 上倉次郎 兵庫士
 同年同 月金工速成科卒業「二學年間に在學」(一名)
 岩手縣立工業學校 土田常吉 秋田平
 同年同 月金工速成科卒業「一學年間に在學」(一名)
 自 營(青森縣) 二唐壽藏 青森平

明治三十三年三月本科金工科研究科修了(一名)

明治三十二年卒業 吉田賢吉 徳島平
 神戶商業學校 吉崎七次郎 大分平
 福岡縣立小倉工業學校 高須圓之一 愛媛士
 宮城縣師範學校 津々其麟介 宮城平
 ×柴山與四郎 福島平
 同年同月速成科金工科卒業「二學年間に在學」(一名)
 東京高等工業學校 賀西尾友吉 京都士

明治三十四年七月本科金工科卒業(四名)

岩手縣立工業學校 飯田吉三郎 佐賀士
 東京高等工業學校 岡崎善雄 山形平
 兵 役 安達若松 岡山平
 兵庫縣立工業學校(神戸) 鈴木定一 岡山平
 同年同月速成科金工科卒業「二學年間に在學」(一名)
 秋田市立工業徒弟學校 鈴木惣十郎 栃木平
 同年同月速成科金工科卒業「一學年間に在學」(一名)
 東京高等工業學校 和知時造 秋田士
 明治三十五年七月本科金工科卒業(三名)
 福岡縣立工業學校 萩尾善次郎 福岡平
 兵庫縣立豊岡中學校 田中利三郎 大阪平
 新潟縣新潟師範學校 津近藤榮助 新潟士
 同年同月速成科金工科卒業「一學年間に在學」(一名)
 自 營(堺) 梅鉢長三郎 大阪平
 同年九月速成科金工科卒業「一學年間に在學」(一名)
 東京高等工業學校 石原四郎 東京士

木工科卒業生

明治二十八年七月木工速成科卒業「一學年間に在學」(六名)

農商務省總務局會計課 榎本惣太郎 東京平
 宮崎縣師範學校 西山半助 宮崎平
 石川縣師範學校 市川俊孝 石川士
 秋田縣師範學校 東山多三郎 秋田平
 臨時陸軍建築部(大阪) 入江善太郎 茨城平
 未 橋本駒吉 滋賀平

明治二十九年七月木工科卒業「二學年間に在學」(十一名)

東京府立職工學校 牧野啓吾 埼玉士
 岩手縣立工業學校 秋保安治 宮城平
 大分縣別府工業徒弟學校 長尾 薫 大分士
 佐賀縣立工業學校 高北良一 三重平
 熊本縣 松本禹象 熊本平
 文部省實業學務局 中村連一 大阪平
 熊本縣來民町立工業徒弟學校 玉井隆五郎 愛媛士
 徳島縣 高井利五郎 徳島士
 兵庫縣師範學校(御影) 阪本熊藏 鳥取士
 文部省總務局建築課 坪井安治郎 静岡平
 ×井上善次郎 栃木士

同年同月木工速成科卒業「二學年間に在學」(一名)

未 佐藤徳次 徳島士
 同年同月木工速成科卒業「一學年間に在學」(六名)

愛知縣熱田實業補習學校

竹中久藏 和歌山平

農商務省工業試驗所

×柴野與五郎 岩手平

青森縣

宮崎喜佐次 島根平

臨時陸軍建築部

中島常三 岩手平

東京府立職工學校

×兒島周一 鹿兒島平

同年同月木工速成科卒業「一學年間に在學」(二名)

津田基四郎 福岡士

沖繩縣首里區立工業徒弟學校

島 邦生 福岡士

鹿兒島縣專賣支局

菅原富治 岩手平

明治三十一年二月木工速成科卒業「一學年間に在學」(一名)

重信國吉 鹿兒島平

同年七月木工科卒業「三學年間に在學」(一名)

鹿兒島縣 龜井伊太郎 石川平

熊本縣立工業學校

秋山岩吉 福岡士

同年同月木工速成科卒業「二學年間に在學」(四名)

×北澤岩治 長野平

福岡縣立工業學校

永松彌太郎 大分平

福岡縣立工業學校

三條榮三郎 山形平

熊本縣立工業學校 布磨岩太郎 岡山平
 同年同月木工科速成科卒業「一學年間に在學」(一名)
 横濱商業會議所 森本常治 長野平
 明治三十二年二月木工科速成科卒業「一學年間に在學」
 (一名)
 青森縣師範學校 江野澤龜吉 千葉平
 同年七月木工科卒業「三學年間に在學」(三名)
 東京高等工業學校 橋本竹之助 秋田士
 山形縣立工業學校 橋元喜藏 宮城平
 市立仙臺工業學校 新井英次郎 青森平
 明治三十三年七月木工科卒業「三學年間に在學」(七
 名)
 岐阜縣師範學校 原山正 福井士
 廣島縣立工業學校 小竹聖那 鳥取士
 大分縣師範學校 賞河津七郎 大分士
 岩手縣立工業學校 中原正道 岩手士
 東京高等工業學校 安成一雄 熊本平
 未定 松下新作 静岡平
 文部省總務局建築課 齋藤久孝 兵庫士
 同年同月速成科木工科卒業「二學年間に在學」(一名)

文部省總務局建築課 甲田忠之進 宮城平
 明治三十四年七月木工科研究科修了(一名)
 明治三十三年卒業 安成一雄 熊本平
 同年同月木工科卒業(四名)
 淡川實業補習學校(攝津) 中村康之助 福井士
 秋田市立工業徒弟學校 桑原貫一 岐阜士
 熊本縣立工業學校 秋山信太郎 福島平
 本校(東京) 新谷次郎 廣島平
 同年同月速成科木工科卒業「二學年間に在學」(一名)
 佐賀縣立工業學校 彌富源吉 佐賀平
 同年同月速成科木工科卒業「一學年間に在學」(一名)
 宮崎縣師範學校 上野金太郎 山形平
 明治三十五年七月木工科卒業(三名)
 日本鐵道會社(東京) 西尾實資 鳥取平
 東京高等工業學校 松尾良助 埼玉士
 福岡縣立福岡工業學校 賞藤木好雄 德島士
 同年同月速成科木工科卒業「二學年間に在學」(一名)
 北海道師範學校 高橋茂三郎 静岡平
 同年同月速成科木工科卒業「一學年間に在學」(二名)
 東京高等工業學校 賞藤久興 山口平

市立仙臺工業學校 牌高原伍郎 福岡平

染織科卒業生

明治二十八年染色速成科卒業「一學年間に在學」(二名)
 ×小板橋和三郎 群馬平
 岡山縣兒島實業補習學校 白戸半平 長野平
 同年同月機織速成科卒業「一學年間に在學」(二名)
 在清國(農商務省實業練習生) 阪本菊吉 山梨平
 庄内染織學校(羽前) 出口時之助 和歌山平
 明治二十九年七月染織工科卒業「二學年間に在學」(一名)
 丹羽葉栗織物同業組合(尾張葉栗郡大田島) 津下深 岡山平
 同年同月機織速成科卒業「一學年間に在學」(二名)
 自營(熊本縣) 高木彦三 熊本士
 岩手縣染織講習所 岡田永之進 岩手平
 明治三十年七月染織工科卒業「三學年間に在學」(一名)
 八王子織染學校 早崎龜壽 石川士
 同年同月染織工科業業「二學年間に在學」(一名)
 大阪商品陳列所 岩崎寅造 滋賀平
 同年同月染色速成科卒業「一學年間に在學」(一名)
 愛媛縣 小野大吉 岡山平

同年同月機織速成科卒業「一學年間に在學」(一名)
 自營(富山縣) 奥村次作 富山平
 明治三十一年七月染織工科卒業「三學年間に在學」(六名)
 石川縣立工業學校 高ノ瀬芳夫 山形平
 山形縣立工業學校 山根修 鳥取士
 熊本縣立工業學校 中島誠 福岡士
 未詳 渡邊彌三郎 愛知平
 群馬縣立伊勢崎染織學校 西山辰海 宮崎平
 新潟縣郡立中魚沼染織學校 友成源七郎 德島平
 同年同月染色速成科卒業「一學年間に在學」(一名)
 岩手縣染織講習所 入枝勝彦 鹿兒島士
 同年同月機織速成科卒業「一學年間に在學」(四名)
 自營(備中高梁町) 安藤忠四郎 京都平
 庄内染織學校(羽前) 野澤久吉 山形士
 西磐井郡機業講習所(一ノ関) 相田藏六 岩手士
 自營(熊本縣) 吉永幸雄 熊本士
 明治三十二年七月染織工科卒業「三學年間に在學」(五名)
 岡山縣兒島實業補習學校 堀田豊治 宮城平
 群馬縣立伊勢崎染織學校 星野知次 茨城士
 京都市立染織學校 齋藤吉廣 福井平

未 青柳吾作 山梨平
 兵庫縣立工業學校 青木小一郎 岡山平
 (養父郡八鹿)
 同年同月染色速成科卒業「一學年間に在學」(二名)
 愛知縣立工業學校 野田直次郎 群馬平
 上田織物組合事務所(信濃) 中川寛一郎 長野平
 同年同月機械速成科卒業「一學年間に在學」(二名)
 熊本縣立工業學校 石塚伊平太 鹿児島士
 山口縣阿武郡染織講習所 日置愼吉 石川士
 明治三十三年七月本科染織科卒業「三學年間に在學」(三名)
 (名)
 八王子織染學校 石川弘藏 山形平
 八王子織染學校 穂保浩一 山形士
 ×高木華四郎 香川平
 明治三十四年七月本科染織科卒業(三名)
 岡山縣赤磐郡染織學校 田中昌龜 高知平
 兵 役 森 照 福井平
 愛知縣立工業學校 賞山中又三郎 愛知士
 同年同月速成科染色科卒業「一學年間に在學」(一名)
 千葉縣海上郡立染織學校 市川忠一 山形士
 同年同月速成科機械科卒業「一學年間に在學」(一名)

東京高等工業學校 牌小野寺願平 岩手平
 明治三十五年七月本科染織科卒業(二名)
 栃木縣立工業學校 豊田今吉 香川平
 多度津町立染織學校 瀧谷廣次 静岡士
 同年同月速成科染色科卒業「二學年間に在學」(一名)
 東京高等工業學校 牌村山習示 新潟士
 同年同月速成科染色科卒業「一學年間に在學」(一名)
 山形縣東村山郡立染織學校 牌土井有二 愛知士
 同年同月速成科機械科卒業「二學年間に在學」(一名)
 高山村立高山女子實業補習學校(鹿兒島縣) 牌千葉伊平 岩手平
 同年同月速成科機械科卒業「一學年間に在學」(一名)
 未 定 米原直人 東京士
 窯業科卒業生
 明治廿八年七月陶器速成科卒業「一學年間に在學」(二名)
 白 營(近江甲賀郡長野村) 今井八重助 滋賀平
 北海道セメント會社 渡邊伊太郎 北海道平
 明治二十九年七月陶器速成科卒業「二學年間に在學」(一名)
 (名)
 白 營 松木兼一 佐賀平

明治三十年七月窯業科卒業「三學年間に在學」(三名)
 土岐郡陶器學校(岐阜縣) 熊澤治郎吉 岐阜士
 ×横井惣太郎 愛知士
 和歌山縣立德義中學校 森勇三郎 京都平
 同年同月陶器速成科卒業「一學年間に在學」(一名)
 白 營(岩代北會津郡川南村) 栗城信吾 福島士
 明治三十一年七月窯業科卒業「三學年間に在學」(五名)
 大阪高等工業學校 加藤完一 三重平
 奈良縣立奈良中學校 川副道夫 佐賀平
 東京高等工業學校 瀧田岩造 兵庫平
 陶磁器試驗所(京都五條坂) 安田乙吉 石川士
 市立甲府商業學校 高木清治郎 山梨平
 同年同月陶器速成科卒業「二學年間に在學」(一名)
 白 營(鹿兒島) 林 齋 爾 鹿児島平
 明治三十二年七月窯業科卒業「三學年間に在學」(一名)
 佐賀縣立工業學校有田分校 小川信定 佐賀士
 明治三十三年七月本科窯業科卒業「三學年間に在學」(二名)
 (名)
 兵庫縣立神戸中學校 黒田政策 兵庫平
 栃木縣立栃木中學校 佐久間石太郎 千葉平

明治三十四年七月本科窯業科卒業(四名)
 土岐郡陶器學校(岐阜縣) 井深捨吉 岐阜平
 津名郡立陶器學校(淡路) 小山恭太郎 神奈川士
 鳥取縣第二中學校 横山 滿 福井平
 九州セメント會社(福岡縣) 島田彌市 佐賀士
 應用化學科卒業生
 明治二十九年七月應用化學科卒業「二學年間に在學」(四名)
 (名)
 山形縣立庄内中學校 毛呂圓策 山形平
 廣島縣師範學校 橋本宇三郎 岡山平
 宮崎縣農事試驗所 新井敦太郎 宮崎士
 香川縣立工業學校 住友兼吉 徳島平
 明治三十一年七月應用化學科卒業「三學年間に在學」(四名)
 (名)
 新潟縣新潟師範學校 後藤嘉宇太郎 長野士
 會津漆器徒弟學校 島居準太郎 廣島平
 埼玉縣立川越中學校 芳賀景介 京都平
 三重縣立中學校 渡邊隼人 宮城平
 同年同月漆工速成科卒業「一學年間に在學」(三名)

大分縣別府工業徒弟學校 鳥居榮吉 和歌山平
 和歌山縣黑江漆器徒弟學校 青木儀助 靜岡平
 山中村立漆器徒弟學校 竹内卯之吉 石川平
 山學校(石川縣) 石川縣

明治三十二年七月應用化學科卒業「二學年間に在學」(二名)
 三重縣立工業學校 三上虎太郎 石川士
 南都留染織學校(山梨縣) 甘利祐作 山梨平
 同年同月漆工速成科卒業「二學年間に在學」(一名)
 濱松時繪漆工所(遠江) 板垣元治 山形士
 同年同月漆工速成科卒業「一學年間に在學」(一名)
 會津漆器徒弟學校 五十子小三郎 石川士

明治三十三年一月本科應用化學科研究科修了(一名)
 明治三十二年七月卒業 三上虎太郎 石川士
 明治三十三年七月本科應用化學科卒業「三學年間に在學」
 (三名)
 東京高等工業學校 飯岡桂太郎 福井平
 奈良縣立農林學校 永井年耶 群馬平
 ×妹尾山藏 徳島平
 同年同月速成科漆工科卒業「一學年間に在學」(二名)
 富山縣立工業學校(高岡) 井上斐次郎 群馬平

富山縣立工業學校(高岡) 石川新吉 石川平
 明治三十四年七月本科應用化學科卒業(三名)
 神奈川縣師範學校 小原惣太郎 高知平
 東京蠶業講習所(西ヶ原) 江田謙治郎 新潟平
 沖繩縣首里區立工業徒弟學校 平尼英臣 徳島平

明治三十五年七月本科應用化學科研究科修了(一名)
 明治三十四年七月卒業 牌江田謙治郎 新潟平
 同年同月速成科漆工科卒業「二學年間に在學」(一名)
 東京高等工業學校 手塚千代吉 長野平
 同年同月速成科漆工科卒業「一學年間に在學」(一名)
 白 菅(香川縣) 牌竹内勝見 香川平

工業圖案科卒業生
 明治三十三年七月本科工業圖案科卒業「三學年間に在學」
 (八名)
 福岡縣立久留米工業學校 井上茂 石川士
 福岡縣立福岡工業學校 濱調真 熊本士
 遠島實業補習學校(尾張) 金谷幸三郎 群馬士
 奈良縣立工業學校 横田武太郎 山形平
 瀬戸陶器學校 中野喜平 愛知平

京都市立染織學校 深澤宮次郎 山梨平
 東京高等工業學校 小室信藏 秋田士
 ×森本十七八 兵庫平

明治三十四年三月本科工業圖案科研究科修了(二名)
 明治三十三年卒業 中野喜平 愛知平
 同年七月本科工業圖案科研究科修了(一名)
 明治三十二年七月卒業 ×森本十七八 兵庫平
 同年同月本科工業圖案科卒業(五名)
 土岐郡陶器學校(美濃) 牌長谷川鋼之允 島根士
 愛知縣立工業學校 太田兼吉 東京士
 富山縣立工業學校 鹿島英二 鹿兒島士
 南都留染織學校(甲斐) 土屋安彦 山梨平
 八王子織染學校 淵江寛 宮崎士

明治三十五年七月本科工業圖案科卒業(三名)
 新潟縣立中魚沼染織學校 永井源治 新潟平
 研究 安田藤造 埼玉士
 琴平町立工業學校(香川縣) 佐野喜太郎 石川平

卒業生就業別表 卒業生就業地方別表

百十四

卒業生就業別表

(明治三十五年十二月一日調)

種別	別		校	附設工業教員養成所	計	百分比
	本	校				
本校ニ於テ學修シタル教科ニ關シ官廳ニ奉職スル者			二二七	一六	二四三	一九、九
本校ニ於テ學修シタル教科ニ關シ私立工場ニ就業スル者			四九八	二五	五二三	四三、七
本校ニ於テ學修シタル教科ニ關シ學校教員タル者			一二二	一四九	二七一	二二、一
専攻生 研究生			二	一	三	〇、二
海外留學在勤出張歸國			六〇	二	六二	五、〇
兵 役			二五	二	二七	二、三
未定 未詳			二七	七	三四	二、八
死			五〇	一一	六一	五、〇
合計			一、〇一一	二二三	一二三四	一〇〇、〇

卒業生就業地方別表

(明治三十五年十二月一日調)

地方別	本	校	附設工業教員養成所	計	地方別	本	校	附設工業教員養成所	計	百分比
千葉縣	六			六	千葉縣	一			一	二
茨城縣	六			六	茨城縣	二			二	二
栃木縣	八			八	栃木縣	七			七	二
奈良縣	六			六	奈良縣	二五			二五	二
三重縣	一〇			一〇	三重縣	九			九	四
愛知縣	二二			二二	愛知縣	三			三	一
靜岡縣	一七			一七	靜岡縣	二			二	一
山梨縣	二			二	山梨縣	三			三	一
滋賀縣	三			三	滋賀縣	二			二	一
岐阜縣	一			一	岐阜縣	三			三	一
長野縣	七			七	長野縣	七			七	一
富山縣	七			七	富山縣	一〇			一〇	一
福井縣	一			一	福井縣	六			六	一
石川縣	五			五	石川縣	九			九	一
富山縣	三			三	富山縣	六〇			六〇	二
在勤出張及歸國	四			四	在勤出張及歸國	二			二	一
海外留學	一			一	海外留學	三			三	一
専攻生、研究生	一			一	専攻生、研究生	三			三	一
鹿兒島縣	八			八	鹿兒島縣	三			三	一
宮崎縣	一〇			一〇	宮崎縣	一			一	一
熊本縣	四			四	熊本縣	九			九	一
鹿兒島縣	三			三	鹿兒島縣	一			一	一
沖繩縣	三			三	沖繩縣	三			三	一
在勤出張及歸國	四			四	在勤出張及歸國	二			二	一
合計	一、〇一一		二二三	一二三四	合計	一、〇一一		二二三	一二三四	一〇〇、〇

卒業生就業別表 卒業生就業地方別表

百十五

卒業生就業地方別表 卒業生並在學生地方別表

地方別	本	校	附設工業教育養成所	計	地方別	本	校	附設工業教育養成所	計
兵 役		二五		二	死 亡		五〇		一一
未定未詳		二七		七	計	一〇二	一一		一一三
				三四					一二四

卒業生並在學生地方別表

(明治三十五年十二月一日調)

地方別	本	校	附設工業教育養成所	計	地方別	本	校	附設工業教育養成所	計
北海道	一三	八	一	二二	三重縣	一八	七	一	二六
東京府	一六八	六〇	八	二三六	愛知縣	二九	二	六	三五
都京府	一七	四	四	二五	靜岡縣	二九	一	六	三五
大阪府	一三	三	一	一七	山梨縣	六	四	六	一六
神奈川縣	一八	七	一	二六	滋賀縣	一	一	一	二
兵庫縣	三〇	二一	六	五七	岐阜縣	二〇	七	四	三一
長崎縣	三一	八	一	四〇	長野縣	二九	一	七	三五
新潟縣	三一	一七	四	五二	宮城縣	一六	七	七	三〇
埼玉縣	一五	一	三	一九	福島縣	二六	一七	四	四七
群馬縣	二二	八	五	三五	岩手縣	九	七	九	二五
千葉縣	九	七	三	一九	青森縣	一〇	一	三	一四
茨城縣	一三	六	四	二三	山形縣	三八	一〇	一	四九
栃木縣	八	四	二	一四	秋田縣	一四	六	六	二六
奈良縣	六	三	一	一〇	福井縣	二一	八	七	三六
				一〇					三八

學校長報告

本學年ハ本校創立以來年ヲ閱スルコト茲ニ二十一年工業教員養成所ハ八年ノ星霜ヲ經タリ今本一覽ヲ印刷ニ付スルニ方リ例ニ依リ重要ノ事項ヲ附記シ其梗概ヲ報

地方別	本	校	附設工業教育養成所	計	地方別	本	校	附設工業教育養成所	計
石川縣	一六	六	一〇	三二	福岡縣	四五	二〇	八	七三
富山縣	一一	七	二	二〇	大分縣	二五	七	四	三五
島取縣	八	三	五	一六	佐賀縣	二七	八	六	三五
島根縣	一〇	五	二	一七	熊本縣	一七	五	三	二五
岡山縣	二八	一五	九	五二	鹿兒島縣	二一	一六	四	四一
廣島縣	二〇	八	二	三〇	沖繩縣	二	三	一	六
山口縣	二九	一〇	二	四一	計	二〇〇	三四五	二一三	七四八
和歌山縣	七	六	三	一六	印度國	一	八	一	一〇
德島縣	一五	八	九	三二	韓國	七	一	一	九
香川縣	六	六	三	一五	清國	一	七	一	九
愛媛縣	一六	八	二	二六	總計	二〇一	四五一	二二三	七四五
高知縣	二三	八	四	三五					

告セントス

編制 本校ハ昨年五月勅令ヲ以テ本校從前ノ名稱ニ高等ノ二字ヲ冠セラレタルモ其實質タル教旨殊ニ實技ノ練習ニ重キヲ置クハ既ニ昨年ノ一覽ニ於テ報セシカ如ク從前ト異ナルコトナシ又工業教員養成所ノ教旨モ亦

卒業生就業地方別表

卒業生並在學生地方別表

學校長報告

従前ノ如シト雖從來同所ハ本校ノ管理ニ屬セシモ本年三月勅令第九十八號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制ヲ改正セラレ工業教員養成所ヲ本校ニ附設シ同所附屬トシテ工業補習學校ヲ置キ又工業教員養成所主事ヲ置クコトトセラレタリ是レ蓋シ政府會計上ノ便宜ト養成所ノ事務ヲ簡約ナラシメントスルトノ主旨ニ基クモノナラシカ又附屬工業補習學校ハ本年一月文部省令ヲ以テ實業補習學校規程ヲ改正セラレタルニ依リ同校規程亦該規程ニ遵據シ本年九月改正セリ同校ハ従前金工、木工ノ兩科ヲ置キ修業年限二ケ年間ナリシモ本改正ニ於テハ普通科目トシテ修身、國語、算術ヲ置キ工業科目トシテ理化學、實用幾何、其他金、木工業、染織業、工業圖案等諸種ノ工業ニ於ケル細別ノ十三科目ヲ新設シ主トシテ晝間各種ノ工業ニ従事セル工人ノ入學ヲ許シ學業ノ性質ニ依リ短キハ四週間長キモ一學年間其職業ニ必要ナル事項ヲ學習セシムルコトトセリ蓋シ此種ノ

補習教育法ハ年少職工ノ特ニ希望スル所ナリト聞ケハ將來來リ學フ輩少カラサルヘシ
 教室ノ假用及教職員ノ勵精 去ル三十二年度ヨリ著手セシ本校規模擴張ニ伴フ校舍ノ改築ハ本學年ニ於テモ尙繼續セリ又多年使用セシ木造舊校舍ヲ取毀テ其地區ニ機械工場ヲ新築スル計畫ニシテ従前ノ教室ヲ使用スルヲ得サルヲ以テ臨時附屬職工徒弟學校校舍等ヲ假用スル等ニ依リ教室ハ諸所ニ散在シ授業上頗ル不便ナリ加フルニ舊校舍ノ古材木ハ勿論新築工事ニ要スル建築材ハ構内ニ散亂シ歩行スラ危險ナルニ拘ラス生徒ノ授業ハ平素ノ如ク事ヲ缺クコトナシ又既成工場ノ整理新調機械ノ据付等殆ト本校ハ猶創業ノ如クナルヲ以テ教職員ハ各其本職ノ外ニ是等ノ事務ニ執掌セサルヲ得スト雖生徒教育上些ノ遺憾ナキノミナラス本校ノ設備漸ク具備スルニ從ヒ其結果ハ生徒ノ學業ニ反映シ其進歩ニ資セシノ實アルヲ認知シ得ヘシ是レハ教職員ニ於テ

國家カ工業教育ニ向テ施設ヲ厚フセラルルノ主旨ト一ハ今ヤ宇内列國カ特ニ工業教育ヲ獎勵シ以テ工業競争場裏ニ贏ヲ制センコトヲ規畫スルトキニ際シ我工業ヲ進歩セシムルノ必要アルトニ鑑ミ能ク其職務ニ盡瘁スルニ非ンハ焉ソ能ク此ノ如クナルヲ得ンヤ
 新築校舍及内部ノ設備 一昨三十三年七月起工セシ新校舍四百二十餘坪ハ既ニ煉瓦積ニ屬スル部分ノ功程ヲ了シ目下三階ノ工事中ナルモ右翼ノ校舍ハ既ニ竣功シ教室トシテ之ヲ使用スルニ至レトモ校舍悉皆ノ竣功ヲ告クルハ來三十六年二月ヲ期セリ又各教室ノ採温法ハ米國製ノ放熱器ヲ使用スルコト、シ是亦工事ニ著手セリ抑々三階建ノ本校舎ハ共通教室、専門教室及準備室トヲ合セ三十餘室ニシテ舊校舍ニ比スレハ其數二倍而カモ其廣キモノハ二十餘坪ヲ有シ而シテ各室ノ採光通風ノ裝置具リ又廻廊ニハ三階ニ至ルマテ給水ノ設ケアリテ授業上ノ便ノミナラス衛生及危險豫防等ノ設ケ

モ亦備ラサルニアラス且校舍内ニ四十五坪ノ圖書閱覽室ト三萬餘冊ヲ藏スヘキ書庫及共通ノ機械標本室等ノ設ケアルヲ以テ校舍完成ノ日ニハ教育上遺憾ナキヲ得ンカ
 生徒控所 ハ生徒ノ増加ニ比シテ從來甚タ狹隘ナルノミナラス其地區ニ他ノ家屋ヲ建設セントスレヲ以テ既ニ之ヲ取毀テ更ニ控所一字ヲ新校舍ノ前面ニ新築セリ其建坪ハ百二十六坪ニシテ其ノ一部ニ二階ヲ設ケ兵式體操用ノ銃器ヲ置キ又控所ヲ隨時雨申體操場ニ充用シ得テ従前ノ控所ニ比セハ便宜最モ多シトス
 機械染色工場 舊校舍ヲ取毀テ其跡ニ機械工場ヲ新築セントスルハ前述ノ如クニシテ今ヤ設計既ニ成リ不日建築ニ著手シ來三十六年三月ヲ以テ其竣功ヲ期セントス本機械工場ハ其一部百二十坪ハ二階建ニシテ之ニ手織機ヲ置キ又階上ニハ染織圖案室及標本室ヲモ設ケルコトトセリ階下ハ總建坪四百八十坪ニシテ二階ヲ設ケサ

ル部分ハ鋸齒形ノ家根ヲ設ケ以テ採光ニ便ニス階下ニ
 排置スヘキモノハ各種ノ力織機及紡績機械等ニシテ五
 十馬力ノ蒸汽原動機ヲ備ヘ動力ニ供スルノ設計ナレハ
 新工場ノ落成機械類ノ排置ヲ終ルノ日ニ至ラハ機械實
 修ノ便多キハ從前ト日ヲ同フシテ論スヘカラス又色染
 工場トシテハ從來機臺ヲ排置シタル建物ヲ擧ケテ之ニ
 充テ更ニ各種ノ織物仕上ケ機械、兩面捺染機械其他ノ
 染色機械ヲモ据付ケ又該工場ノ一部ヲ除去シ之ニ五十
 坪許ノ新築ヲ爲サントスル計畫ニシテ來學年ノ始ニ至
 ラサレハ完成ヲ告ケサルヘキモ是等整頓ノ曉ニハ色染
 實修ノ便亦多カラシ其他ノ建物ニ至テハ物置ノ新營等
 ニシテ既ニ著手シタルヲ以テ其竣功期ハ本年內ニシテ
 教務ノ外事務上ノ便更ニ多カラシ抑々本校校舍及諸工
 場ノ増築改築ハ本會計年度ヲ以テ終了スルノ豫定ナル
 モ幸ニ文部省建築課員ノ精勵ニ依リ些ノ故障ナク駁々
 トシテ功程ヲ進メ來年三月ヲ以テ悉皆完成ヲ告ケント

スルハ實ニ是等諸氏ノ勞ヲ謝セサルヲ得ス從來校舍及
 工場ハ狹隘ニシテ不便多キノ故ヲ以テ教育ノ効果モ多
 キヲ望ミ難シト雖諸造營物ノ竣功ト共ニ本校ノ教育上
 ニ一生面ヲ開クヲ得ルニ至ラン是レ本校力大ニ慶トセ
 サルヲ得サル所ナリ
 機械ノ設備 以上ハ建築工事ノ概畧ヲ叙述セシニ過ギ
 サルモ機械類ノ設備ニ至リテモ亦各科共ニ之ヲ補充セ
 リ而シテ其新調ノ多キハ染織科ニシテ之ニ亞クモノハ
 機械科ナリトス而シテ是等機械類ハ皆斬新巧緻ノモノ
 ニシテ實修上資スル所鮮クナラサルナリ今左ニ主要ナ
 ル設備ニ就キテ畧陳センニ
 染織科色染分科ニ於テハ「アニリン」酸化器、布染用
 「ゴムロール」等ヲ購入ス即前者ハ空氣、濕度及溫度ノ
 作用ニ於テ「アニリン」黒ノ發色ヲ助成スルモノニシテ
 其他尙或ル媒染劑ノ固著ヲ促カシ若ハ顔料捺染ニ用ヒ
 タル蛋白質等ヲ凝著セシムルニモ應用セラレ後者ハ織

布ニ染液又ハ媒染液ヲ含マシメ之ヲ平等均一ニ壓搾シ
 テ餘分ノ液ヲ脱却スルノ用ニ供スルモノニシテ殊ニ本
 機ハ「アルカリ」又ハ酸性ヲ有シ直接皮膚ヲ觸ルヘカラ
 サル液ヲ絞ル際ニ應用シテ最モ便利ナルモノトス
 同科機械分科ニ於テハ毛絲整經糊付乾燥機械、「ノース
 ロップ」式木綿力織機、洗絨器、起毛機、剪毛機、刷
 毛機、壓搾「ロール」、蒸絨機、湯通シ機械、瓦斯燒機
 械等ヲ購入ス中ニ就キ毛絲整經糊付乾燥機械ハ毛絲ヲ
 篠卷ヨリ直ニ整經シ後チ糊付シ直ニ之ヲ乾燥室ニ導キ
 充分ニ乾燥シツツ千切ニ卷キ得ル構造ヲ有シ「ノース
 ロップ」式木綿力織機ハ數年前米國「ドラツパー」會社
 ノ發明ニ係ルモノニシテ其特色トスル所ハ緯絲ノ盡キ
 タルトキ又ハ切斷シタル場合自動的ニ之ヲ供給シ又經
 絲ノ切斷セルトキハ自動的ニ運轉ヲ停止シ織物ニ些ノ
 疵ヲ生セシメサルニアリ
 應用化學科ニ於テハ炭素抵抗器、電流計、電壓計「ブ

アンモートル」ヲ購入ス中ニ就キ「ブアンモートル」ハ
 電力ニ依リ風ヲ起スモノニシテ元來分析室ハ諸藥品蒸
 發ノ爲常ニ臭氣ヲ放チ空氣ヲ汚損スルコト多クレハ本
 機ヲ壁間ニ裝置シ運轉ニ依リテ空氣ヲ交換セシメ以テ
 衛生ニ資セシメントスルニアリ
 機械科ニ於テハ「パツファロー」吸下爐「ブラオンシャ
 ー」會社製造ノ萬能「ミルリング」機械、敏速錐揉機
 械、鐵管ニ螺旋ヲ切ル機械等ヲ購入ス中ニ就キ「パツ
 ファロー」吸下爐ハ五馬力「ウエスチング」ハウス「電動
 機」ヲ以扇風機ヲ高速度ニ回轉シ以テ送風并吸煙ノ働キ
 ヲナサシムルモノニシテ煙ヲ工場內ニ放散スルノ虞ナ
 ク又通風ノ多寡ヲ加減シ任意ニ所要ノ火力ヲ保タシム
 ル裝置アルヲ以燃料ヲ節シ衛生ニ資スル點ニ於テ從
 來ノモノニ優ルモノトス又「ブラオンシャープ」萬能
 「ミルリング」機械ハ米國機械工具製作ノ泰斗ト稱セラ
 ルル同會社製造ニ係ル齒輪、螺旋軸、螺旋齒輪、螺旋

錐、歪齒輪及此等ヲ切ル刃物等大小ニ拘ラス如何ナル形ト雖削ルコトヲ得ヘキ働キヲナスモノナリ而シテ其緻密ナル點ニ於テハ千分ノ一吋マテノ差違ヲ正シ得テ且ルルカ故ニ殆ト完全ニ同一ノ形ヲ製作スルヲ得ヘシ且此機械ヲ取扱フモノハ總テノ點ニ於テ科學上ノ知識ヲ要スルヲ以學理ト實地トヲ教授スル所ニ在テハ特ニ適切ノモノナリトス

附屬職工徒弟學校ニ於テハ金工用鋸機械及鐵葉曲ケ機械ヲ購入ス即前者ハ金屬ノ切斷ニ供スルモノニシテ在來ノ手工鋸ニ比スレハ迅速ナルハ勿論切斷面ノ正確ナルカ爲利益少カラズ殊ニ切斷スヘキ物體ノ硬軟如何ニ依リ鋸刃ヲ壓スル力ヲ簡單ニ加減シ得ヘキ裝置ヲ有シ且物體ヲ切斷シ終レハ自動的ニ運轉ヲ停止スルカ故ニ最初物體ヲ取付ケ置ケハ切斷シ終ルマテ監守人ヲ要セサルノ便アリ又後者ハ板金類ノ縁ヲ折曲クルニ用ユルモノニシテ手工ニテ折曲クルニ比スレハ手數ヲ省キ

且折目ノ正確ナルモノヲ得ヘシ凡テ長キ板金ヲ手工ニテ折曲クルハ容易ノコトニアラサルモ本機ハ四尺五寸以下ニ於テハ長短ヲ問ハス共ニ平易ニ工作ヲ施シ得レハ未熟ノ兒童ニテモ尙之ヲ取扱ヒ得ルヲ以建築用板金類ヲ業トスルモノ本機械ヲ使用センニハ利益多カルヘシ

工業教員養成所金工科ニ於テハ偏心壓搾機械及落下鋸ヲ購入ス即前者ハ平面板ヨリ各種形狀ノ金屬素地ヲ打抜ク爲ニ使用スルモノニシテ其使用スル刃物ノ種類ニ應シ各種希望ノ形狀ヲ打抜キ得ルナリ又之ニ型臺ヲ裝置スレハ各種皿形ノ器具ヲ製作スルヲ得ヘシ又後者ハ落下スル鋸ノ力ニ依リテ諸金屬板ヲ種々異様ノ形體ニ製作スル爲ニ使用スルモノニシテ本機ニ「スプリング」、鐵鍋、藥罐等ノ如キ型臺ヲ裝置シ鋸ヲ一定ノ高所ヨリ落下スルトキハ直ニ希望ノ品種ヲ製作シ得ヘシ即僅少ノ時間ニ於テ形體ノ整一ナル製品ヲ多數ニ製作シ

得ルハ本機ノ特色ナリ近來歐米各國工業界ニ於テハ此種機械ノ使用最モ盛ニシテ日用ノ食器、洗面器其他各種ノ板金製品ハ此種機械ノ製作ニ係ラサルモノナシト云フ然ルニ我國工業ノ幼稚ナル依然最モ迂遠ニシテ且不經濟ナル舊來ノ製作法ヲ墨守シ未タ此種機械ヲ使用スルモノナキハ最モ遺憾トスル所ナリ是本機ヲ購入シ生徒ノ實修ニ供シ兼テ此種製造法ノ普及發達ヲ促サントスル所以ナリ

本校ノ經費及授業料、獎學金 本會計年度ニ於ケル本校經費中政府支出金ハ九萬四千四百八拾七圓餘ニシテ其額ノ多キハ官立學校中ニ在テハ第四位ニ在リ目下國庫ノ費途多端ナルノ際此多額ノ經費ヲ支出セラルルハ國家カ工業教育ヲ重要視スルノ端ヲ知ルニ足ラン本校ハ此ノ如キ國家ノ特典ヲ頗ル德トシ尙本校ノ經濟ニ留意シ以テ教育ノ効果多カラシムコトヲ期セリ且夫本校經費ハ少シトセサルモ本校ノ支出スヘキ費途亦多端ナ

ルヲ思ヘハ敢テ多シトセサランカ本校經費ハ本校ノ外更ニ工業教員養成所、職工徒弟學校及工業補習學校ノ三所ニ向テ支出ス。モノニシテ即チ是等ハ本校ト共ニ教師ニハ學業ヲ授クル教官ト實技ヲ指導スルノ師範職工トヲ要シ教室ノ外ニ工場ヲ有シ尙工場ニハ燃料及各種ノ製作材料ヲモ供給セサルヘカラサルヲ以テ毎ニ經費充實ナラサルノ憾ナキ能ハス依テ本學年ヨリ本校生徒ノ授業料ヲ一學年二十四圓ニ増加シタルノミナラス其學用品ヲ目辨セシメ以テ本校ノ費途ヲ減殺スルコトトセリ以上ノ如ク生徒ノ學資増加スルヲ以篤志ノ輩來リ學フニ便ナラサルヘキニ依リ是等生徒ニハ學資ヲ貸付セントスルモ從前世間篤志者ノ寄付ニ係ル獎勵金ニテハ不足ノ憾アリシカ頃日該資金トシテ男爵岩崎久彌氏ヨリ五千圓安田善次郎氏ヨリ千圓及男爵三井八郎右衛門氏ヨリ五千圓寄付セラレタレハ從前ノ分トテ合スレハ一萬六千圓餘ニシテ總額ハ敢テ多シトセサルモ是

レ實ニ篤志家ノ義俠心ヨリ出テタル美譽タリ而シテ寄
 付者ノ意志ハ本校ノ必要ト認ムルノ獎勵ニ支出スヘシ
 一任セラレタレハ本校ハ例ニ依リ是獎勵金ヲ一學年以
 上在學ノ學業優等品行善良ニシテ學資ニ豐カナラサル
 モノニ貸付シ卒業後ハ一定ノ期間内ニ返付セシメ轉々
 貸付スルヲ以テ將來幾多ノ生徒ハ此恩惠ニ浴スヘシ而
 シテ從來是等生徒カ便トセシ所ノ海軍造兵生徒トシテ
 學資ヲ給與セラルルノ制ハ遠カラス廢セラレントスル
 ナ聞ク今特ニ是等諸氏ニ向テ謝意ヲ表セサルヲ得サル
 ナリ

教官ノ異動 學校教育上効果多キヲ望マント欲セハ宜
 シク先ツ教官其人ヲ得サルヘカラス之ニ亞クモノハ校
 舎及示教ニ供スヘキ機械、標本又本校ノ如キハ實技ノ
 練習ニ要スル各種ノ機械等ノ設備ナリトス本校校舎及
 機械類ハ既ニ前陳セシ如ク年ヲ逐フテ整備ノ境ニ達セ
 ントスルト共ニ本校ハ幸ニ適良ノ教官其人ヲ缺カサル

リシ増島教授ハ今般本校ヲ去リシト雖理學士片山正夫
 氏來リテ増島氏擔當教務ヲ分擔シ兼テ化學分析ノ指導
 者トシテ生徒ヲシテ化學ノ原則ニ通セシメ分析ノ手工
 ニ熟セシメントス又英語ノ講師タル文學士西晋一郎氏
 ハ廣島高等師範學校ニ榮轉セシヲ以テ文學士深作安文
 氏其後ヲ襲フコトナレリ

本校留學生及後任者 機械科教授齋藤孝氏ハ本年九月
 歸朝ノ豫定ナリシモ數月間自費留學延期ノ許可ヲ得テ
 目下米國ノ工場ニ於テ實技ノ練習ニ從事ス其他ノ留學
 生ハ關口助教授本年三月米國ニ出發シ目下「コーテ
 ル」大學ノ機械工場ニ於テ主トシテ實修ニ從ヘリ而シ
 テ其後任ハ淺川權八氏助教授ノ命ヲ拜セリ又助教授齋
 藤俊吉氏同上結城林藏氏ハ共ニ留學ノ命ヲ受ケ前者ハ
 製絨及毛紡績研究ノ爲メ英獨國ニ十月後者ハ寫眞製版
 ノ爲メ澳獨國ニ十一月出發セントス前者ノ後任トシテ
 卒業生大島子之助氏後者ノ後任トシテ同上安田祿造氏

ノミナラス年ト共ニ經驗ヲ重キ生徒ノ享受スル利益多
 カラストセス本校ノ教官ハ他學校ト異ナリ工場ニ於テ
 生徒ヲ指導スルカ故ニ單ニ講義ノ期間ノミ教室ニ在ル
 ニ止マラス尙工場ニ於ケル實技ノ指導ニモ從事セリ又
 夏期ニ於テハ他學校ハ休業スルニ拘ラス本校ハ夏期尙
 平素ノ如ク工場ヲ開キ隨テ平素ノ執務時數多ク皆劇務
 ナルニ拘ラス往々其餘暇ヲ利用シテ各種ノ研究ニ餘念
 ナキハ各自ノ至誠篤志ナルニ非ルヨリハ安ソ能ク此ノ
 如クナルヲ得ンヤ今ヤ工業界若ハ工業教育界ハ本校教
 官ノ如キ資格アル人ヲ要スルコト切ナルモ幸ニ教官ノ
 異動スルモノ極メテ稀ニシテ却テ海外ニ留學セシ良教
 官ハ歸朝シテ職ヲ執ルニ至レリ即チ染織科ノ吉武教授
 電氣科ノ中村教授窯業科ノ平野教授ハ海外ニ於テ學校
 及工場ニ就キ修得シタル各自ノ専門ニ屬スル新知識ト
 新技術トハ生徒ヲ訓育スルノ良資トシテ其學業ニ反映
 スヘキハ疑フ容ルヘカラス又本校ノ教育ニ多年功勞ア

採用セラレタリ其他教官ノ異動トシテ記スヘキモノナ
 キヲ以テ本一覽ノ卷首ニ掲クル職員ノ人名ニ讓ルト雖
 只一言ノ要アルハ工業圖案科ノ森本助教授ハ農商務省
 ヨリ清國ノ圖按調査ヲ囑託セラレ去ル七月上海ニ向テ
 出發シ九月下幹歸朝ノ途虎列拉病ニ傳染シ歸朝ノ翌日
 發病シテ終ニ不歸ノ人トナレリ洵ニ惜ムヘキコトナ
 リトス

外國ヨリ招致ノ師範職工 昨年既ニ報告セシ二名ノ外
 國職工ハ招致ヲ終リ各々實技上ノ指導者トシテ生徒ヲ
 授業セリ其一人ハ米國ノ機械仕上師ニシテ昨年十二月
 末他ノ一人ハ英國毛織物ノ仕上師ニシテ本年三月到著
 セリ蓋シ機械、機械共ニ仕上師ヲ招致シタル所以ハ本
 邦ノ機械製造業ノ各功程中仕上ニ屬スル技術ハ最モ幼
 稚ニシテ精確ヲ缺キ世ニ所云角、圓トスルモノハ真正
 ノ角、圓ナラス例ヘハ米國製機械工具ノ如キハ毫末ノ
 差ヲモ生セス肉眼ノ能ク發見シ得サルノ製造力ヲ有ス

ルニ反シ本邦製機械類ハ各部ニ於テ分厘ノ差ヲ生セサルモノナキハ少キヲ常トス此ノ如クニシテ焉ノ能ク巧妙ノ機構ヲ有スル機械ヲ製造スルコトヲ得ンヤ是レ主トシテ職工ノ技術上達セサルニ依ルト雖職工ノ頭腦亦粗雜ニ流レ目能ク精確ニ看取スルノ明ニ乏シク手能ク細微ニ製造スルノ術ニ慣レサルノ結果ナラサルナキヲ得ンカ是ヲ以テ精緻ノ製造ニ熟達シタル外國職工ヲシテ模範ヲ生徒及職工ニ垂レシムルハ頗ル急務ナルヲ以テ茲ニ米國ノ仕上師ヲ招致シタリシニ果シテ其豫望ハ空シカラス乃該仕上師ハ毎ニ「カリバス」ヲ懷ニシテ生徒ノ製造ヲ督シ自身製造スル所ノ機械亦精確ナラサルナク殊ニ機械ヲ處理スルヤ鄭重ニシテ其狀恰モ昔時武士ノ雙刀ニ於ケルカ如キ感アリテ生徒ニ及ホス所ノ感化少カラサルナリ又我國織物ノ仕上業ハ當業者一般其幼稚ヲ感スル所ニシテ本校ノ製織品モ亦一樣ナルヲ以テ英國ニ於テ年少ヨリ毛織物ノ仕上業ニ從事セシ仕

上師ヲ招致シタル所以ニシテ同人ノ技術亦見ルヘキモノ多シ而シテ外國職工ノ伎倆ハ前述シタルノ外責任ヲ重シ能ク職務ニ服スル等ハ本邦工人ノ及ハサル所ニシテ職モスレハ自身社會ノ下層ニアルモノト誤想スル我工人ト同一視スヘカラサルヤ明ナリ生徒モ亦外國工人ニ親炙シ實技ノ修得上有益ナルハ勿論ナルモ彼等勤勉ノ良習モ移シテ生徒ノ習慣トナルニ至ラハ間接ニ益スル所更ニ大ナラン然レトモ生徒往々英語ヲ解スルノ力薄クシテ技術ニ關スル質疑ヲ充分試ムルコト能ハサルモノアルハ遺憾ナリトス

新卒業生ノ就職及就職セサル少數者ノ意嚮 次ニ本年七月ニ於テ卒業シタルモノニ就キ言ハンニ本校及附設工業教員養成所卒業生員數及就職ハ左表ノ如シ

種別	人員	員百分比	種別	人員	員百分比
官廳	二六	二一、三	外國留學	三	二、五
私設工場	五六	四五、九	兵役	五	四、一

學校教員 二二 一八、〇 未定 七 五、七
 専攻生、 三 二、五 計 一二二 一〇〇、〇
 研究生

上表ノ如ク卒業生ノ數ハ敢テ多シトセサルモ之ヲ數年前ニ比スレハ大ニ増加シタリ是レ本校ハ設備ノ許ス限リ入學生ヲ増員シタルノ結果ナリト雖近年財界ノ不振ハ工業ノ發達ヲ障碍シタレハ卒業生ノ需要ハ如何ナルヘキヲ顧慮セシニ上表ノ如ク職ヲ得サルモノ僅ニ七名ニ止レルハ畢竟専門ノ教育アルモノノ需要多ク從來單ニ經驗ノミヲ以テ職ヲ得シ輩ノ能力ノ乏シキヲ證スルニ足ルモノナラン而シテ從前ヨリ卒業生中遠ニ職ヲ得サルモノノ中ニハ甲職ニ推セハ我カ意ニ適セストシテ之ヲ斥ク或ハ乙地ハ自己ノ親族ニ離隔スル等ノ故ヲ以テ之ニ應セス其希望スルノ位地ハ概テ京地父兄ノ膝下ニ近ク業務ハ閑散ニシテ研究スルノ餘暇多キモノニ在ルカ如シ是レ固ヨリ漫然タル希望トシテハ不可ナキモ凡ソ位地ハ需要者アリテ供給者之ニ應スヘキモノナレ

ハ供給者自己ノ希望ノミラ達シ得ヘカラサルハ勿論ナルヲ以テ目前自己ノ便宜上ヨリ打算シ地位ヲ好惡スルハ工業ヲ以テ立身セントスルモノノ意志トシテ解スヘカラサルコトナリトス將來ノ卒業生タルモノハ夫ノ所謂虎穴ニ入ラスンハ虎子ヲ獲サルカ如ク僻地ノ事業又ハ艱難ノ工業ニ從フモ有望ナルモノハ他日立身ニ益スヘキコトヲ忘ルル勿レ

既往卒業生ノ異動 既往ノ卒業生ニ至リテハ頻年財界ノ不況ニ伴ヒ工業ノ不振ハ免レサルノ數ニシテ既就地位ノ變更ハ亦避クヘカラスト豫想セシニ事實ハ却テ幸ニ之ニ反シ昨年來特ニ著シキ異動ヲ認メサルハ當ニ本校ノミナシス養成所ノ卒業生モ亦同一ニシテ本校力之ヲ慶トスル所ナリ蓋シ本校ニ於テ受クル所ノ教育ハ單ニ適良ナル技術者若ハ教員タルノ素地ヲ作ルモノニシテ本校ニ於テ修得シタル實技ト學理トハ實地ニ方テ始テ開發ヲ待ツヘキモノナラン故ニ位地ノ變換ハ猶轉石

若テ生セサルノ比喩ノ如ク技術者ニシテ經驗ヲ得ルノ暇ナク業主亦之ヲ利用スル能ハス相互ノ不利益ナルハ論ナシ成功ノ見ルヘキモノアルハ長ク一所ニ職ヲ執リタルモノニ在ルノ一事ヲ以テ證スヘシ故ニ本校ハ漫リニ轉職ヲ望ム輩ニハ他ニ紹介スルヲ快諾セサルコトトセシモ亦之カ爲メナリ然レトモ轉職ハ獨リ技術者ノミ好テ之ヲ爲スニ非ラス業主モ間接ニ之ヲ促スノ行動ナキニアラス例ヘハ技術者ハ單ニ機械的ニ勞働スレハ足レリト爲シ工場内部ノ事情ニハ毫モ關與セシメス隨テ其責任ヲ輕カラシムル等ノ如キハ技術者ヲシテ去就ヲ決セシムルノ主因ニシテ技術者ノ舉動モ穩當ナラスト雖業主ニシテ此種ノ消息ニ留意スルトキハ技術者モ其地位ニ安ンシ自家ノ事業ノ如ク誠實ニ擔當ノ業務ニ服スルニ至ラン然ルニ業主就中株式會社工場ノ重役間ニハ只管株主ノ意向ヲ迎合シ目前ノ商利ヲ舉クルニ汲々シ工場永遠ノ利益ヲ顧慮スルニ違アラサルモノアリ而

シテ其部下ニ轉職者ノ多キヲ見ルハ是レ豈偶然ナランヤ夫ノ職工ノ同盟罷工ノ如キモ目下ニ在テハ勞銀ノ多寡ニ依ルモノヨリハ寧ロ感情ニ基クモノ多シ況ヤ職工ノ上ニ立ツ技術者ニ對シ之ヲ機械的視スルノ不可ナルオヤ
海外ノ就業者及在留者 本校ハ毎ニ出身者ニ勸ムルニ單ニ内地ニ於テノミ地位ヲ得ルコトニ汲々タラス臺灣北海道隣邦ノ清國朝鮮國其他ノ東洋諸國ニ於テ興スヘキノ工業多々アルノ今日技術者ノ手腕ヲ試ムヘキ餘地少カラサレハ盡ソ進テ挺身憤起セサルト然ルニ從前上海杭州等ニ數名ノ出身者アリ又客年「スマタラ」島ニ赴任セシモノノ外東洋ニ於ケル諸外國ニ職ヲ執ルモノヲ聞カサルハ怪訝ノ至リニ堪ヘサルナリ渡航ノ手段トシテハ或ハ知人ニ頼テ是等諸國ニ地位ヲ得ルカ又ハ一歩ヲ進メテ旅費ヲ投シ外國ニ渡航シ實地ヲ探檢シテ職業ヲ得タル等ハ業ニ既ニ英獨人等ノ吾人ニ教フル所ニ

シテ決シテ難キヲ望ムニ非ルヘシ國內ノ小區域ニ於テ同窓者相競フカ如キハ卒業生諸氏ノ爲メ取ラサル所ナリ東洋諸國ニ職ヲ得ルコトヲ希望スルモノ少キニ反シ歐米諸國ニハ出テテ研究セント望ムモノ多キハ大ニ喜フヘキコトトス然ルニ文部省官選留學生ハ官立學校ノ教官又ハ教官タラントスルモノノ中ニ就キ選擇セラルルカ故ニ極メテ有限ノ人員ニ止マルヲ以テ農商務省派遣ノ實業練習生トシテ渡航ヲ望ムモノ少カラス本校ハ是等志望者中學業經驗人物等ニ關シ精選スルハ勿論尙學資ノ幾分ヲ自己又ハ從事セル業主ヨリ支出スルモノニ就キ同省ニ推薦スルヲ例トス蓋シ各人ノ競争劇烈ナル歐米國ニ於テハ以上ノ資格ノ外身體強健ニシテ忍耐カニ富ムモノニ非レハ得ル所ナカラン即チ夫ノ薄志弱行ノ輩ハ固ヨリ不適當ナルニ反シ是等ノ資格ヲ具有シタル人ハ米國ニ於テハ往々工場ニ職ヲ得テ給料ヲ得ルモノ少カラス今出身者ノ海外ニ在留スル者ヲ舉クレハ

染織科卒業生 八名 窯業科卒業生 五名
應用化學科卒業生八名 機械科卒業生二十八名
電氣科卒業生 三名 附設工業教員 養成所卒業生 二名
計 五十四名
以上ノ中十五名ハ文部省及陸海軍省留學生十九名ハ農商務省實業練習生二十名ハ自費ヲ以テ留學シ又ハ職ニ海外ニ就ク者ニシテ比較的其數ノ多キハ山來我卒業生ハ實技ノ素養多キヲ以テ海外工場ニ於テ得ル所多カラストセヌ獨國人カ他外國ノ商工業ニ從事スルモノ多キハ延テ自國ノ商工業發展擴張ノ素因トナリタルヲ思ヒ又書籍上ノ知識ハ坐シテ之ヲ得ルニ難カラサルモ實技ノ練習ハ實地事ニ從フニ非サレハ之ヲ得ヘカラサルヲ思ヘハ本校出身者ノ如キ實技ノ素養アルモノノ海外練習ハ我工業ニ裨補スルコト多キハ刮目シテ待ツヘキナリ又是等在留生中時々海外工業ノ狀況等ヲ本校ニ報告シ來リ幸ニ其進歩ノ一斑ヲ知ルヲ得以テ本校教育上ノ

参考ニ資スルコト多キハ是等諸子ノ勞少シトセス茲ニ本報告中ニ於テ一言謝辭ヲ述フルコト爾リ
 新入學生及受験者ノ學業 今更ニ新入學生及受験者ノ學業ニ就キ述ヘンニ本年モ亦本校及工業教員養成所共ニ五月及七月ノ二回ニ於テ入學試験ヲ舉行シ第一回

ハ中學校卒業生 養成所ハ師範ノ爲メ特別試験ヲ第二回ハ一般競争試験ヲ施行セリ受験者ノ總數九百五名ニシテ中ニ就キ二百二十名ニ入學ヲ許可ス即チ入學者ノ割合ハ百ニ對スル二四、四ナリトス今各科入學生ヲ舉クレハ左表ノ如シ

五月應募者		七月應募者		計		入學許可者		應募者ニ對スル入學許可ノ百分比	
染織科	一六	三三	三三	六六	一九	二九、一	二九、一	二九、一	
色織科	四〇	八	二二	四八	九	四三、九	四三、九	四三、九	
應用化學科	一三	五	一八	二二	一	二一、七	二一、七	二一、七	
機械科	五九	一	二一	八〇	六	二一、七	二一、七	二一、七	
電氣科	三三	一	三三	六六	一	一九、八	一九、八	一九、八	
電氣機械分科	一一	一	一二	二二	一	二八、一	二八、一	二八、一	
工業圖案科	一〇	一	一一	二一	一	四三、五	四三、五	四三、五	
小計	五八	一	五九	一一	一	二二、六	二二、六	二二、六	
工業科	三三	一	三三	六六	一	三三、三	三三、三	三三、三	
木工科	一七	一	一八	二二	一	二七、六	二七、六	二七、六	
金工科	一	一	二	三	一	一三、六	一三、六	一三、六	
染織科	一四	一	一五	二〇	一	一三、七	一三、七	一三、七	
甲色織科	一	一	二	三	一	一三、七	一三、七	一三、七	
乙色織科	一	一	二	三	一	一三、七	一三、七	一三、七	
丙色織科	一	一	二	三	一	一三、七	一三、七	一三、七	
丁色織科	一	一	二	三	一	一三、七	一三、七	一三、七	
小計	三三	一	三三	六六	一	二二、六	二二、六	二二、六	
工業教員	一	一	二	三	一	一三、六	一三、六	一三、六	
小計	一	一	二	三	一	一三、六	一三、六	一三、六	

養所成科		本所成科		通計	
工業科	一六	一	一七	一六	一
應用化學科	一九	一	二〇	一九	一
工業圖案科	一一	一	一二	一一	一
小計	一三	一	一四	一三	一
全金工科	五	一	六	五	一
速木工科	一四	一	一五	一四	一
機械科	一〇	一	一一	一〇	一
小計	二九	一	三〇	二九	一
通計	七九	一	八〇	七九	一

上述ノ如ク入學志望者ノ數九百五名ニシテ之ヲ昨年ノ六百六十九名ニ比セハ二百三十六名ヲ増加セリ假令他官立學校ニ比シ敢テ多シトセサルモ本校創立以來最モ多數ノ受験者ナリトス而シテ多數受験者ノ學力ニ至テハ本校カ好テ迎フルノ輩多カラズ蓋シ本校ノ如キ形而下ノ教育ハ世人往々士人ノ立身ニ資スヘキ要素ト爲サス却テ形而上ノ教育ヲ以テ處世ニ益スヘキ者ト思惟ス

ルノ餘弊ハ形而下ニ屬スル學力ノ足ラサルモノ來リテ入學セントスルモノ少カラサルナリ此輩ノ如キハ假スニ時日ヲ以テセハ適當ノ入學者タルニ至ルヘキモ茲ニ受験者ノ通弊ト認ムヘキモノハ學業徒ラニ空遠ノ學理ニ馳セ實用ニ疎キノ跡アルコト是レナリ凡ソ工業家ニハ特ニ實地應用ノ才幹ヲ要スルヲ以テ入學試験問題ノ如キモ敢テ高尚ノ學說ニ依ラスシテ既修學科ヲ會得ス

ルモノ常識ヲ以テ類化スルトキハ解決シ易キモノヲ擇
 フコトトセリ而シテ問題中稍高尚ナルモノハ答按宜シ
 キヲ得ルニ反シ卑近ナルモノハ往々要領ヲ得サルコト
 アルハ數學ニ於テ特ニ多キヲ認ム又筆跡ハ動モスレハ
 走筆ニシテ字形ヲ失シ紙上文字ノ配置頗ル不整頓ニシ
 テ注意ノ厚カラサルヲ證スルニ足レリ其他英語モ學力
 不足ナル輩多キカ如此ノ如キハ畢竟中學ノ學風往々
 活學ヲ輕視シ著實ヲ缺クノ反響ニシテ實業教育ヲ必要
 トスル今日ニ在テハ受教者ハ勿論授教者モ亦大ニ留意
 スルコトナクシテ可ナランヤ

遠來ノ留學生及撰科生 本年ニ於テハ印度人四名支
 那人二名韓國人一名ニ入學ヲ許可シタリ之ニ從前在學
 ノ支那、印度兩國人九名ヲ合スレハ遠來ノ留學生ハ計
 十六名ニシテ皆好テ我生徒ト伍シ自他ノ區別ヲ設ケス
 學業ヲ怠ルコトナシ但是等外國人中ニハ我語學ニ熟セ
 サルモノアリテ往々授業上不便アリト雖印度人ノ如キ

ハ皆英語ニ通スルヲ以テ特ニ英語ヲ以テ授業シ時ニ所
 修學科ニ關スル英書ヲ自讀セシムルコトナキニアラス
 東洋諸國ヨリ留學スルモノ年々其數ヲ増加スルコト以
 上ノ如キハ是等諸國モ亦工業ニ專門ノ學識ヲ要スルヲ
 認知シタルノ徵證ニシテ東洋ニ於ケル工業ノ先進國タ
 ナリ又數年來撰科生ノ制ヲ設ケ三ヶ年以上當該工業ニ
 從事シタルモノニシテ本校ノ學科目ニ就キ特修セント
 欲スルトキハ入學ヲ許可スルコトトセシカ此輩實地ノ
 經驗ハ本校ニ於テ學理ニ基キタル研究ニ依テ發展セラ
 レ當業ニ裨益スヘキコト少カラサルヲ以テ入學ヲ出願
 スルモノ多シ本校モ成ヘク此輩ノ便ヲ圖リ其多數ヲ收
 容セント期スレトモ如何ニセシ多數本科生ノ爲メニ實
 修工場ハ充滿セラレ往々之ヲ謝絶スルノ止ムヲ得サル
 コトアリト雖本年撰科生ノ入學ヲ許可シタルモノ十七
 名ニシテ皆實地ノ經驗アルモノナルヲ以テ本校ノ教育

ハ此輩ニモ裨益ヲ與フルコト多キヲ疑ハス

在學生及落第ノ主因 本校及養成所現今ノ生徒數ハ本
 年ノ新入學ヲ合スレハ四百四十六名ニシテ年々其數ヲ
 遞加シ之ヲ十年前ニ比セハ倍加スルニ至レリ是レ世間
 工業及工業教育ノ發達ニ伴ヒ專門ノ教育アル技術者及
 教員ヲ要スルコト多キヲ以テ本校設備ノ許ス限リ多數
 生徒ヲ收容シ卒業生ノ供給ヲ豐ナラシメントスルニ在
 リ而シテ新入學生ハ入學日淺キヲ以テ深ク學業ノ成績
 ヲ知ルニ由ナキモ皆能ク研學ヲ怠ラサルヲ認ムルノ外
 爰ニ記スヘキコトナシ又從前ノ在學生モ能ク校規ヲ遵
 守シ學業ヲ勵ミ二三停學ノ處罰ヲ受ケタルモノノ外非
 行ヲ認ムルモノナク本校ノ名聲ヲ失墜スルコトナキハ
 本校ノ慶トスル所ナリ然ルニ多數生徒中本學年末試驗
 成績ノ結果進級セサリシモノ五十七名ノ多キニ達セリ
 而シテ是等原級ニ止マルモノノ多クハ敢テ學業ヲ怠リ
 シ一事ノミナラス疾病其他已ムヲ得サル事故ニ依ルモ

ノアリト雖平素留意薄ク瑣末ノ事故ヲモ名トシ缺席ス
 ルカ如キニ非サレハ日常平等ニ課業ニ服セス歸宅後復
 習ヲ怠リ甚シキハ試驗期日前不明ノ理由ヲ口實トシ工
 場實修ヲ休業スルカ如キ概テ勤勉ヲ以テ目スヘカラス
 放漫ヲ以テ評スヘキ輩ノ落第者多數ナルハ掩フヘカラ
 サル事實ナリト聞ク凡ソ原級ニ止マルモノハ既修學科
 ヲ反覆修業スルニ在レハ本人ニ於テ是等學課ノ趣味ヲ
 失ヒ該學年ハ快々不快ノ感ヲ懷クノミナラス學資支給
 者ノ負擔ヲ多カラシメ他生徒ノ增收ヲ妨ク自他ニ對ス
 ル不便及不經濟ハ更ニ多言ヲ須ヒサル所ナレハ夫ノ留
 意足ラサル輩ノ如キハ深ク之ヲ警メントス生徒タルモ
 ノ夫レ之ヲ諒セヨ

生徒ノ健康 生徒身體ノ健全ナルハ在學中ハ學業ヲ
 怠ルノ虞ナク卒業後モ亦成功ニ資スヘキヲ以テ本校ハ
 特ニ留意スルコト久シキヲ以テ近年生徒ノ身體健全ナ
 ルノ兆ヲ認ムヘキモノ多シ即チ本年五月身體檢査ヲ行

ヒタルニ強健者ハ百分ノ五〇、六ニ當リ之ヲ昨年ノ強健者百分ノ三七、六ニ比セハ其増加少カラス又神經衰弱ハ學生ノ最モ厭フヘキ病症ナルモ其徵候アルモノ昨年ハ百分ノ三三、八ナリシモ本年ハ著シク減退シテ一三、五トナレリ近視眼モ亦學生ノ忌ムヘキモノナルヲ以テ本校ノ毎ニ留意スル所ナルモ昨年ハ百分ノ二二、五ナリシニ本年ハ却テ二五、八ニ増加セリ而シテ此増加ハ新入學生徒ニ多キヲ以テ見レハ入學前既ニ近視眼ニ罹リタルモノナラン聞ク中學校中往々生徒増收ノ結果黒版ノ位置及採光ノ窓戸宜シキヲ得サルモノアリト蓋シ是レ多少ノ原因ナランカ又脚氣病ハ本校ノ如キ地方ヨリ來學スルモノ多キノ所ニ於テハ殊ニ其患者ノ多キヲ見ルハ已ムヲ得スト雖本年ハ其數ヲ減シテ僅ニ十二名ニシテ皆輕症ニ罹ルモノナリ

生徒ノ衛生及地方受驗者ノ體格 本校ハ寄宿舎ヲ有セサルカ故ニ勤學ノ時刻飲食物等ニ留意ヲ効スコト能ハ

サルヲ以テ衛生ニ關スル注意ノ達スル所廣カラスト雖校醫ハ隨時生徒ニ衛生ノ實踐法ヲ説示シ只管個人衛生ニ意ヲ注キタリ漸次強健者ノ増加シタルモ亦之カ一因タランカ然レトモ地方ニ於テ身體ノ検査ヲ受クルモノ中ニハ體量輕キモノ或ハ身體各部ノ發育均一ナラサルモノモ遺傳病者ナラス其他纖弱者ナラサル限リハ時ニ強健ノ身體ナリト診斷シ本校ハ其證明ニ依リテ入學ヲ許可セシ後本人ハ能ク工場勞働ニ堪ヘサルコトアルヲ發見スルコトナキニアラス此ノ如キハ是レ本人ノ爲メニ取ラサルノミナラス本校亦避ケントスルノ輩ナルヲ以テ自今ハ一層身體ノ検査ニ重キヲ置カントス

生徒中ノ篤行者 本校ノ教育ハ特ニ身體ノ強健ナルヲ欲スル所以ノモノハ疾病ノ爲メ平素缺席ナカラシメントスルノミナラス工場實修ハ實ニ本校教育ノ特色トシテ生徒ニ獎勵スルモノナレハ若シ夫レ實修ヲ忌避スルモノアリトセンカ本校力斷シテ取ラサルノ輩ノミ故ニ

身體強健者ヲ歡迎メルト同時ニ其精神モ百折不撓ノ意志ヲ以テ學業ヲ勉勵シ實修ニ服スルノ人ヲ獎勵セサルヘカラス是ヲ以テ一昨年ニ於テ一學年中一日ノ缺席ハ勿論一時間ノ缺課ナク平素誠實ニ學業ヲ修ムルモノニハ精勤ヲ表スヘキ手島賞牌ヲ附與スルノ例ヲ啓キシカ本年ハ此資格ヲ得タルモノ七十七名ノ多キニ達セリ其他規則第四十四條ニ規定シタル品行善良學業優等ニシテ特待生タルノ資格アルモノ七名ニ及特待生タルノ資格ニ亞クモノニシテ手島賞品ヲ受クルノ資格アルモノ四名ニ去ル七月ノ卒業式場ニ於テ文部大臣ノ手ヨリ賞牌證狀賞品等ヲ交付セラレ共ニ其篤行ヲ賞セラレタリ是等受賞ノ生徒ハ其氏名ノ上ニ符號ヲ以テ之レヲ示セリ

善良ナル娛樂ノ習慣 前回ノ報告中在學生ニ希望スルニ學業ノ餘暇無害ノ娛樂ヲ以テ精神ノ休養ニ資スヘキコトヲ以テセリ爾來本校ハ土曜日ノ午後ニ於テ東京音

樂學校ノ教師ヲ聘シ有志ノ生徒ニ唱歌ノ練習ヲ爲サシメシコトアリ又田中教授ハ教科書以外ニ興味アリテ品性ノ修養ニ益スル書籍ノ繙讀ニ就キテ時々生徒ニ説示スルコトアリシヨリ生徒間ニ讀書嗜好ノ習慣ヲ養ハレシモノ少カラスト聞ク尙希クハ海外ノ諸雜誌ヲ繙讀スルノ習慣ヲ得ハ學業ニ資スルコト多カラストセサルナリ其他端艇「ロンドンテニス」等ハ大ニ生徒間ニ行ハルルコトトナリテ以來殊ニ生徒ノ心身ヲ裨益スルコト少カラサルカ由來技術者ナルモノハ動モスレハ高尚ノ娛樂ヲ嗜好スルノ風ニ乏シク隨テ行動殺風景ニ流ルルコトナキ能ハサリシモ現今以後ノ技術者ノ如キハ品性ノ高尚ナルヲ維持スルト共ニ酒食ノ如キ爾後ノ生産力ヲ損消スルノ娛樂ハ斷シテ取ラサルモノタルヲ以テ娛樂ニモ亦此主旨ニ依リテ撰擇ヲ慎ミ在學中既ニ高尚ノ娛樂ニ慣レ卒業後之ヲ持續センコトヲ努ムルハ山間僻地ノ如キ友人ニ乏シク或ハ高潔ノ娛樂行ハレサル地方

ニ職ヲ執ルノ人ニハ殊ニ肝要ナリトス聞クカ如クンハ
 地方ニ職ヲ取ル出身者中謠曲ヲ以テ娛樂ニ供スルモノ
 アリト晝間ノ勞苦ヲ慰スルニ妙ナルヘシト雖恐クハ是
 レ家人ノ唱和スルモノ少カルヘケレハ百尺竿頭一步ヲ
 進メ家人ト共樂スルモノヲ擇ハ、更ニ妙ナラン
 上級生徒ノ修學旅行 上級全體ノ生徒ヲシテ教官指導
 ノ下ニ各科専門ノ學業ニ裨益アル地方ニ修學旅行ヲ爲
 サシムルノコトハ昨年之ヲ開始シ本年モ亦春期休業ノ
 時ニ於テ數日乃至一週日間之ヲ舉行セシメシカ上級生
 徒ノ知識ハ既ニ工業ノ實地ヲ視察スルノ素地ヲ具フル
 テ以テ有益ナルハ夫ノ有名無實ノ修學旅行ノ比ニアラ
 サルナリ然レトモ本校ヨリ補給スヘキ旅費ハ少額ナル
 ノミナラス生徒囊中ノ便宜ヲモ思ヘハ遠隔ノ工業地方
 ニ旅行ヲ試マシムルコト能ハサルハ大ニ遺憾ナリトス
 然ルニ商業學校ノ生徒ハ往々賣品ヲ携帶シ行商ヲ試ミ
 兼テ各地商業事情ヲ調査スルモノアリ本校ノ生徒ハ行

商ニ代フルニ各地ノ工場ニ於テ實業ヲ執レハ旅費及食
 費ヲ補フト同時ニ實地ノ經驗ニ益スルコト大ナラン現
 ニ北海道ニ於ケル先輩ノ卒業生ハ同道ニ於テ夏期休業
 中業ヲ執ラントスルモノニハ一臂ノ力ヲ添ヘンコトヲ
 約セリ有志ノ上級生徒ハ之ヲ實行スルヲ躊躇スルカ尙
 因ニ一言センニ來三十六年大阪ニ開設セラルヘキ第五
 回内國勸業博覽會ハ全國各種ノ工業品又工業教育ノ成
 績品ヲ一場ノ下ニ觀覽スルノ便アリテ益スヘキコト多
 キヲ疑ハサルヲ以テ職員生徒全般同地ニ修學旅行ヲ爲
 サシメント欲シ既ニ生徒ニハ旅費ニ供スルノ目的ヲ以
 テ冗費ヲ節シ貯金ノ必要ヲ豫告シ置ケリ
 生徒品性ノ修養 次ニ生徒ニ關シ述ヘントスルモノハ
 其品性ノ修養ニ重キヲ置キ輕薄ノ人豪放ノ徒タラシメ
 ス嚴霜ノ夜烈日ノ日能ク職ニ服シ責任ヲ重シ兼テ自重
 自助ノ精神ヲ發展セシメントスルハ毫モ從前教養ノ主
 旨ト渝ルコトナシ蓋シ多年他ニ依頼シ又自己ノ責任ヲ

重セサルノ宿弊尙全ク脱却スルコト能ハサルハ獨リ
 學生ノミニ限ラサルモ將來生産若ハ教育ノ衝ニ當リ多
 數人ノ上ニ立ツヘキ本校生徒ハ此ノ如キ陋習ヲ改修セ
 サルハ頗ル恨事ニ屬スルヲ以テ本校ハ生徒ヲシテ健全
 ナル常識ヲ有セシメ他日獨立特行誠實ニ事ニ從フノ習
 慣ヲ得セシメント期セリ然レトモ多數生徒中時ニ或ハ
 自己既ニ不可ヲ知了スルモ他ノ制止ヲ待テ始メテ之ヲ
 行フカ如キ或ハ表面勉學ヲ裝ヒ裏面然ラサルカ如キ或
 ハ校舍、機械、器具等自己ノ所有ノ如ク尊重セサルカ
 如キ其他非難ヲ試ムヘキ餘地ナキニアラサルハ抑モ此
 種陋習ヲ矯正スルノ勇氣乏シキニ依ルカ將タ無邪氣ニ
 シテ思慮ノ足ラサルニ依ルカ本校生徒タルモノ齡既ニ
 丁年ニ達シ學識普通以上ヲ得タルモノノ所爲トシテ看
 過スヘカラサルニ似タリ然レトモ此輩ノ如キハ極メテ
 少數ニシテ多數生員ハ皆良生徒ヲ以テ目スヘキモノニ
 シテ他官立學校ニ比シ決シテ遜色ナキヲ疑ハサルナリ

殊ニ本校ノ内容ハ多種ノ學科ニ分岐シ授業時間ノ如キ
 モ極メテ複雜ニシテ或ル範圍ノ外ハ統一シテ生徒ヲ管
 理スルヲ難シトスルヲ以テ生徒相互間ニ善行ヲ賞シ非
 行ヲ誡ムルノ習慣ヲ助長セシメ以テ所云制裁力ヲ發揚
 センコトヲ期ス是レ蓋シ個人トシテノミナラス團體ト
 シテモ亦自重自助ノ精神ヲ發展セントスルノ方法トシ
 テ頗ル時宜ニ適スルモノナラストセンヤ
 學業自得及活用ノ必要 今又智育ニ就キテ一言センニ
 本校ハ染織科、鑄業科、應用化學科、機械科、電氣科、
 工業圖案科ノ六科ヲ包有シ各科ノ内容ハ頗ル多種ニ亘
 リ製造上ノ學理ヲ要スルモノ多キト共ニ製品ノ意匠圖
 案ヲ忽諾ニ付スヘカラサルモノアルカ如ク各科ノ學科
 目モ亦複雜ナルヲ免レサルヲ以テ明晰ノ頭腦ト普通教
 育ノ素養多キヲ要スルハ本校學科ノ性質上然ラサルヲ
 得スト雖多數生徒中往々此種ノ資格乏シキカ爲メカ各
 種ノ學科目ニ就キ會得十分ナラスシテ應用ノ能力乏シ

ク類化ノ活用少ク一朝學校ヲ去リ單獨事ヲ執ルニ方
 リ質スニ師ナキ場合ニ於テ困苦ノ境遇ニ陥ルコトナキ
 ヲ保セス此ノ如キハ是レ多數生徒ヲ收容シ就中少數者
 ノミ成効ヲ期スルト一般ナル結果ヲ生シ學校教育ノ得
 タルモノト爲スヘカラサルハ勿論ナルヲ以テ生徒自身
 モ修學上大ニ是ニ鑑ミルコトアラシムルト同時ニ本校
 モ亦生徒ノ才幹及學力ノ程度ヲ考察シ學科課程ノ如キ
 モ大ニ生徒ノ資格ニ適應スルノ道ヲ講スルノ要アラソ
 而シテ生徒修學上陥リ易キ弊習ハ自身ノ知識修得ノ
 爲メニ學業ヲ修ムルニ非ラス單ニ學問其物ノ爲メニ汲
 汲スルノ憾ナキ能ハス換言スレハ試験ノ爲メニ學業ヲ
 修メ却テ試験ノ奴隷トナルノ輩ナキ能ハサルカ如シ隨
 テ能ク之ヲ咀嚼シテ他ニ應用類化スルノ能力ニ乏シキ
 モ亦宜ナラスヤ故ニ將來本校カ期スル處ハ専門ノ學業
 ノ如キモ敢テ多種ニシテ且高尚ナルヲ貪ラシメス既修
 ノ學業ニ精通セシメテ活用ノ途ヲ開發シ兼テ精確ノ

頭腦ト緻密ノ觀念トヲ得セシムルニ努メシメント欲ス
 又人ニ頼ラスシテ自己ニ於テ獨修ノ習慣ヲ得セシメ以
 テ他日實務ヲ執ルニ方リ裨補セシメントスルハ頗ル急
 要事ニ屬スルヲ以テ各學科目ニ對シテ此主旨ヲ貫徹セ
 ノコトヲ期セリ殊ニ英語ノ如キハ當ニ學業ニ資スルノ
 ミナラス卒業後獨力調査スルノ便多キヲ思ヘハ英語ノ
 學修ハ更ニ急務ナリトス以上ノ如キハ本校ノ學科目ニ
 對スル希望ニシテ將來學科課程改正ノ要アリトセハ是
 等主旨ノ如キハ最モ主眼トセサルヘカラス
 工業ノ不振及彼我ノ模倣工業 本校ハ技術者養成ニ於
 テハ同種學校中ノ先輩ニシテ工業教員ノ養成ニ關シテ
 ハ本校ノ外之ニ任スルモノナキヲ思ヘハ本校ノ責任ハ
 決シテ輕シト爲ス可ラス而シテ之カ責任ヲ全フスルノ
 道固ヨリ一二ニシテ足ラスト雖成ヘク内外國ニ於ケル
 工業ノ實況ニ徴シ生徒養成ノ資ト爲スノ要アルヲ以テ
 今試ニ之ヲ畧述センニ本年ニ於ケル我工業ハ數年來不

振ノ餘ヲ受ク靜止ト言ハソリ寧ロ退却ノ跡ヲ認ムヘ
 キモノナキニアラス蓋シ勞銀ハ依然トシテ昇騰ノ傾向
 アルヲ以テ勞力減省ノ機械ヲ用フルコト益々切ナルモ
 大規模ノ工場ヲ増加シタルニ非ラス目下東京市内ニ於
 テ大工場ノ新營ニ係ルモノハ僅ニ葉烟草及麥酒製造ノ
 二工場ニ過キスシテ而モ是等奢侈品ニ屬スル工業ハ隆
 盛ノ兆アルモ之ニ反シ國家ノ生産ニ益シ延テ海外輸出
 ニ供スヘキ工業ノ興起スルモノアルヲ聞カス帝都既ニ
 然リ地方工業ノ衰兆アル推知スルニ難カラス加之深ク
 需要ノ如何ヲ考察セスシテ勃興シタル工業ノ如キハ相
 互ノ競争劇甚ノ結果損失ニ終ルニ非レハ粗製ニ流レ終
 ニ自滅ヲ招致スルコトナキ能ハス國內ノ競争ニシテ既
 ニ疲弊ニ陥リタルヲ以一朝海外ヨリ強敵ナル競争品ノ
 襲來スルニ遭ヘハ忽チ頓挫シテ復タ起ツ能ハサルニ至
 ラソ又海外ニ輸出スル物品ノ如キモ單ニ國內ニ於テ競
 争シ粗製ニ加フルニ濫費ヲ以テシ忽チ信用ヲ失墜シテ

再ヒ注文ヲ受クルコトナキニ至ルモノ少カラスト聞ク
 以上ニ述ヘタルカ如キハ果シテ是レ我工業ノ健全ナル
 發達ト認メ得ヘキカ否決シテ然ラサルヲ知ルニ難カ
 ラス何トナレハ今ヤ我國各種ノ工業ハ成ヘク規模ヲ大
 ニスルカ若ハ同業者聯合シテ均一堅牢ナル多數同品種
 ヲ製出シテ海外ノ製品ト競争ヲ試ムルノ要アルニ拘ラ
 ス我製品ハ粗ニシテ脆弱ニ陥リ又ハ用途ニ適セサルニ
 非サレハ往々價格不廉ニシテ其海外ニ輸出スルモノハ
 自ラ販路ヲ杜絶シ其內國ニ供給スルモノハ輸入品ノ爲
 ニ侵略セラルルハ貿易表ノ明示スル所ナリトス然リ而
 シテ事業ヲ擴大ニ爲スノ通義ハ漸次我工業界ニモ行ハ
 ル、コトトナリ同業者合同一致ハ往々唱導セラルルコ
 トナキニアラス是等個人ノ自由競争ニ對スル得失ハ暫
 ク置クモ現ニ省力機械ヲ汎用シ學理ヲ應用シ得ル程度
 ニ製造業ノ規模ヲ擴大スルハ當業者自衛ノ道ニシテ蓋
 シ本年ニ於テ越後石油諸會社ノ合同絹絲紡績諸工場ノ

「トラスト」及綿絲紡績數會社ノ合併ハ亦之カ爲ナラ
 ン然レトモ此種ノ工業ハ海外模倣ニ非サレハ規模稍々
 大ナルモノニシテ而カモ内國ニ供給スヘキモノニシテ
 海外ニ輸出テ目的トスルノ製造業ニ至テハ僅ニ製造ニ
 分業ヲ用ヒタルノ外其規模ハ依然舊時ノ觀ヲ改メサル
 ハ頗ル遺憾ナリトス然ルニ獨國ノ如キハ從來我ヨリ輸
 出セシ提燈紙製「ナフキン」等規模ノ稍々大ナル工場ニ
 於テ之ヲ模造シ且品質意匠少クモ外國ノ嗜好ニ適シ價
 格亦不廉ナラサルモノヲ我製品ノ名ヲ以テ盛ニ發賣セ
 リト聞ク此ノ如キハ是レ誰ノ過ソヤ彼レハ商利ニ機敏
 ニシテ學理ヲ製造上ニ應用シ却テ優良ナル模造品ヲ製
 シ我ハ我固有製品ノ巧且廉ナラサルカ爲空シク販路ヲ
 縮減セラルルニ至ルハ抑亦當業者其責ヲ辭スルコト能
 ハサランカ

固有工業ト工業者ノ要務 又更ニ眼ヲ轉シテ我國固有
 工業ノ狀況ヲ察スレハ毎戸製造ノ舊套ハ依然トシテ現

存シ工業者機械力使用ノ利ヲ知ラサルニ非サルモ之ヲ
 用フルモノ多カラズ學理ノ應用ヲ撥斥セサルモ敢テ之
 ヲ實際ニ應用スルモノ少ク從前ノ小規模工業ノ面目ヲ
 革メタルハ寥寥タリ而シテ我國固有工業モ過渡ノ時代ニ
 屬シ是ヨリ將ニ一生面ヲ開カントスルノ時機ナルニ拘
 ラス其是ニ及ハサルハ抑々是レ何ノ故ナルヤ其原因素
 ヨリ一二ニシテ足ラサルヘシ即チ財界ノ不況ニ伴ヒ購
 買力ノ減少延テ金融ノ運用ヲ缺ク等ハ一面ニ於ケル之
 カ原因ナラント雖他ノ一面ニ於テハ技術ノ進歩セサル
 モノ及經濟的ニ生産セサルカ如キモ亦之カ原因ナラン
 而シテ財界ニ伴フ不況ハ工業者能ク左右スヘキコトニ
 非サルモ是技術及經濟ニ於ケルモノハ工業者自己ノ力
 ヲ以テ能クスヘキモノニシテ既ニ是兩者ニ於テ宜シキ
 ヲ得タルモノハ今日尙好況ヲ呈スルニ非ラスヤ故ニ工
 業者ノ先ツ務ムヘキ技術ト經濟トノ調和ヲ計ルハ專門
 ノ素養アリテ經濟思想ニ富ミタルモノ多數之ニ從事ス

ルノ外良策ナカラシ

英獨米ノ工業及科學教育 今又歐米ノ工業ニ就キテ畧
 述センニ歐米國モ亦工業ノ消長ナキニ非ルモ皆安固ナ
 ル基礎即學理ノ上ニ建設セラレタル工業ナルヲ以テ我
 國ノ如ク一盛一衰ノ甚シキモノアルコトナシ然レトモ
 由來商工業ニ於テ世界ニ冠タリシ英國ハ獨米二國ノ爲
 メニ將ニ凌駕セラレ恐慌ヲ來サントスルヤ之ニ對スル
 政策ノ一トシテ近年技藝教育ヲ獎勵スト雖時機既ニ晚
 シ之カ恢復ハ難事ニ屬セリト爲シ頃者英國ノ有力者ノ
 唱導スル所ヲ見ルニ英國ノ工業他國ニ變轉スル所以ヲ
 察スルニ工業者ハ科學上ノ養成ヲ缺クノミナラス偶々
 之ヲ受クルモノアルモ當業者ニ普及セサルノ結果二三
 十年間ニ於テ從來英國特有ノ工業ニシテ外國トノ競争
 上侵畧ヲ受ク終ニ其跡ヲ絶ツニ至リタルモノ多シト又
 英國ノ製品ニシテ今尙外國ト競争シ將ニ他ノ後ニ瞻若
 セントスルモノ少カラスト而シテ外國殊ニ獨米二國ノ

如キハ染料、玻璃、陶磁器、電氣機械、銅鐵及其製品等
 ノ秀優ニシテ英國ヲ壓シタルハ科學教育ノ發達シタル
 ニ歸セサルヘカラスト加之此種教育ヲ修メタルモノ自
 國ニ充滿シ往々業ヲ得サルモノ多キヲ以テ出テ國外ニ
 業ヲ執ルニ至レリ英國ハ殖民地多キヲ以テ其各地ニ於
 テ自國人ヲ採用スルノ當然ナルニ拘ラス獨人ハ科學知
 識ニ富ミ報酬亦多カラズシテ招致シ得ルヲ以テ漸次獨
 人ノ英國殖民地ニ於テ鐵道及鑛山技師、化學者トシテ
 職ヲ得ルモノ多キニ至リ延テ獨國輸出物ノ販路ヲ開發
 スルノ利少シトセサルナリ以上英國ノ工業力侵畧ヲ受
 クル所以ハ科學教育ノ不振ニ基クモノニシテ其製品ハ
 科學應用ヲ主トスルモノ多キノ一事ヲ以テ知ルヘキナ
 リ而シテ英人ノ所謂科學教育ナルモノハ單ニ技藝教育
 ノミニ在ラスシテ中等教育ニ於テモ世間物質的進歩ニ
 適應シタル科學教育ヲ施シ以テ世人一般ニ科學ノ理ニ
 通セシメントスルニ在ルナリ蓋シ獨國ハ特ニ技藝教育

ニ主力ヲ注クコトナキモ普通教育就中中等教育ニ於テ
 科學教育ヲ忽諸ニ付セサルノ結果同國ノ今日アル所以
 ナランカ科學教育ノ進歩セル英國既ニ之ヲ憂ヘリ果シ
 テ然ラハ我國ノ如ク科學教育ヲ殆ト度外視スルモノハ
 深ク猛省スル所ナクシテ可ナランヤ

獨米ノ工業及本校ノ覺悟 英國ハ獨米國工業ノ發達ヲ
 恐ルルコト以上ノ如シト雖英國ハ資本ノ豊富ナルニ加
 フルニ工業モ尙先進國タルノ價値ヲ失ハス現ニ英國ハ
 軍艦漁船ヲ始メ機關、紡績機械及各種ノ機械類其他織
 物等學理ノ應用ニ成レル品具ハ我國ニ向テ主要ナル供
 給國ナルニ非ラヌヤ獨米國ノ如キモ始メハ機械其他ノ
 物品ハ往往英國ノ輸入ヲ仰キシモ今ハ却テ化學製品ハ
 獨國英國ニ優ルルコト數等ニシテ英國ハ殆ト絶望ノ境
 遇ニ在ルモノノ如シ又米國製ノ機械工具ハ英國到底之
 ニ及ハサルコトトシ却テ其輸入ヲ仰クニ至レリ又獨國
 化學製品ニ就キ一例ヲ舉クレハ同國ノ製造ニ係レル人

造藍ハ當時專門家ヲ聳動セシノミナラス今ハ全世界ニ
 供給セリ尙近時ニ至リテハ本邦ノ特有産タリシ樟腦モ
 研究ノ結果人造樟腦ヲ製造シ我樟腦ノ強敵タラントシ
 酒精ハ極メテ廉價ニ製出シ以テ之ヲ工業用ノ燃料ニ供
 セントシ麥酒ノ如キモ英國ノ販路ヲ奪ヒ去リタル等其
 進歩ノ狀ハ雷ニ以上ニ止マラス機械類其他ノ工業品ニ
 至リテモ亦敢テ劣レリト爲スヘカラス現ニ本校ニ購致
 セル機械機ノ多數ハ獨國製ニシテ其秀優ナルノ一事ヲ
 以テモ知ルヘキナリ且又米國ハ化學製品ニ至テハ或ハ
 獨國ニ讓ル所アルモ機械類ニ至テハ鐵及石炭ノ豊富ナ
 ルト技術ノ精巧ナルトヲ利用シ他國ヲ凌駕シタルモノ
 少カラス例ヘハ各種ノ電氣機械及一時機業界ヲ喫驚セ
 シメタル「ノースロップ」式機械機等ノ如キハ蓋シ其類
 ナルヘシ其他兩國ノ工業カ世界ノ視聽ヲ驚愕セシメシ
 ハ一々枚舉ニ遑アラズ遠隔ノ我國ハ一々之ヲ知ルニ由
 ナシト雖要スルニ我工業ト對比セハ千里ノ差モ嘗ナラ

サラン而シテ工業ハ金融ト同シク世界共通ニシテ甲國
 ノ製品能ク用途ニ適シ價格不廉ナラサルトキハ忽チ乙
 國ノ製品ヲ撲滅シ再ヒ起ツ能ハサルニ至ラシムルハ各
 國間ニ行ハル、通義ニシテ我邦ノ如ク資金豊ナラス技
 術巧ナラサルヲ思ヘハ實ニ寒心ニ堪ヘサルナリ然レト
 モ我國民ハ固ヨリ國家ノ前途ヲ達觀スルノ明アルヲ以
 テ坐シテ海外ノ供給ノミヲ甘受スヘキニアラサルハ勿
 論ト雖本校ハ主トシテ工業競争ノ衝ニ立チ得ヘキモノ
 ヲ養成スルニ在レハ本校ノ教育ヲ受クルモノハ内ハ國
 内ノ經濟事情ヲ察シ工業尙過渡ノ時代ニ屬スルヲ忘レ
 ス外ハ海外ノ工業ハ既ニ優勢ナルニ鑑ミ苟モ本校ニ關
 與スルモノハ直接ト間接トヲ問ハス國家カ工業教育ニ
 向テ厚ク施設セラル、ノ主旨ヲ貫徹センコトヲ期スヘ
 キナリ

工業教員養成所 以上報告ノ始メヨリ記述シタリシ所
 ノモノハ概テ本校ニ關スルノ事項タリト雖附設工業教

員養成所ニ就キテモ一言ノ要ナキニアラス則本所ノ卒
 業生ハ服務年限完了及實業學校ニ就職指定ナキ少數者
 ガ就職ニ從事セサルノミニシテ其他ハ地方工業學校ノ
 教員自餘ハ農學校及中學校ノ理化學教員又商業學校商
 品科教員トシテ職ヲ執ルモノニシテ皆年ト共ニ經驗ヲ
 重キ教育ノ効果多キヲ效スハ疑ヲ容ルヘカラス唯希望
 スルノ一事ハ教務ノ餘暇ハ工業ニ關スル圖書雜誌其他
 ノ方法ニ依リ研學ニ怠リ勿ランコト是レナリ然ラサレ
 ハ工業ハ日新ノ學問技術ナルヲ以テ世間ノ進歩ト駢進
 スルコト能ハサルノ憾アラシ又近時地方工業學校ノ設
 置頻繁ナリシモ客年以來之カ濫設ヲ耳ニセサルハ寧ロ
 時宜ニ適シタルコトナラン蓋シ工業學校ノ設置ハ直ニ
 其地ニ工業ヲ興起スヘキ唯一ノ要素ト爲スヘカラス必
 ヤ先ツ各地原料ノ多寡、製品ノ販路、技術ノ如何等先
 決問題トシテ調査スヘキノ事項ナルニ單ニ二三有力者
 ノ唱道スルモノアルカ又ハ中學實業兩學校ノ交換問題

ノ結果其設置ヲ見ルカ如キハ基礎ノ安固ナルモノナラサルハ勿論ナルヲ以テ目下此類ノ新設ナキハ却テ是レ他日健全ナル工業教育ノ素地ヲ養フモノタラント雖都會ノ地ニシテ工業ノ素要多キモノニ在テハ規模ノ具備シタル工業學校ノ必要ハ世間工業ノ進歩實ニ之ヲ促スモノニシテ決シテ之レヲ忽ニスヘカラス故ニ既設ノモノノ如キハ往往此主旨ニ基キ其設備モ漸次具備スルノ形跡ヲ認ムルハ洵ニ祝スヘキノ現象タルモ其教員タルモノ隨テ重任ヲ負フニ至ルハ當然ノ結果ニシテ此意ヲ諒スルハ喋々ヲ待タサレトモ本所ヨリ將來輩出セシムヘキ卒業生ハ此趨勢ニ伴ハントセハ果シテ從來ノ如キ學力ヲ以テ此重任ヲ分擔スヘキヤハ大ニ疑問ニ屬スルヲ以テ或ハ修業年限ニ於テ多少ノ延長ヲ見ルモ亦期スヘカラス又本所ノ在學生ニ就キテハ將來ノ工業者ニ模範ヲ垂ルヘキ地位ニ立ツモノタレハ學力ノ増進ト共ニ人格ノ高尚ヲ要スルハ從前ト渝ルコトナキヲ以テ益々

是ニ留意スル所アラントス且又本所ト本校トノ生徒間ハ益々親密ニシテ兄弟モ當ナラサルハ工業界ニ好影響ヲ與フルモノニシテ賀スヘキコトトス是レ本所卒業生ノ教育シタル新工業者ハ本校卒業生カ工業界ニ於テ之ヲ迎へ使用スルニ在リテ即チ新工業者ノ供給者及之カ需要者相互間ノ事情疏通シテ工業界ヲ益スルコト少シトセサルナリ

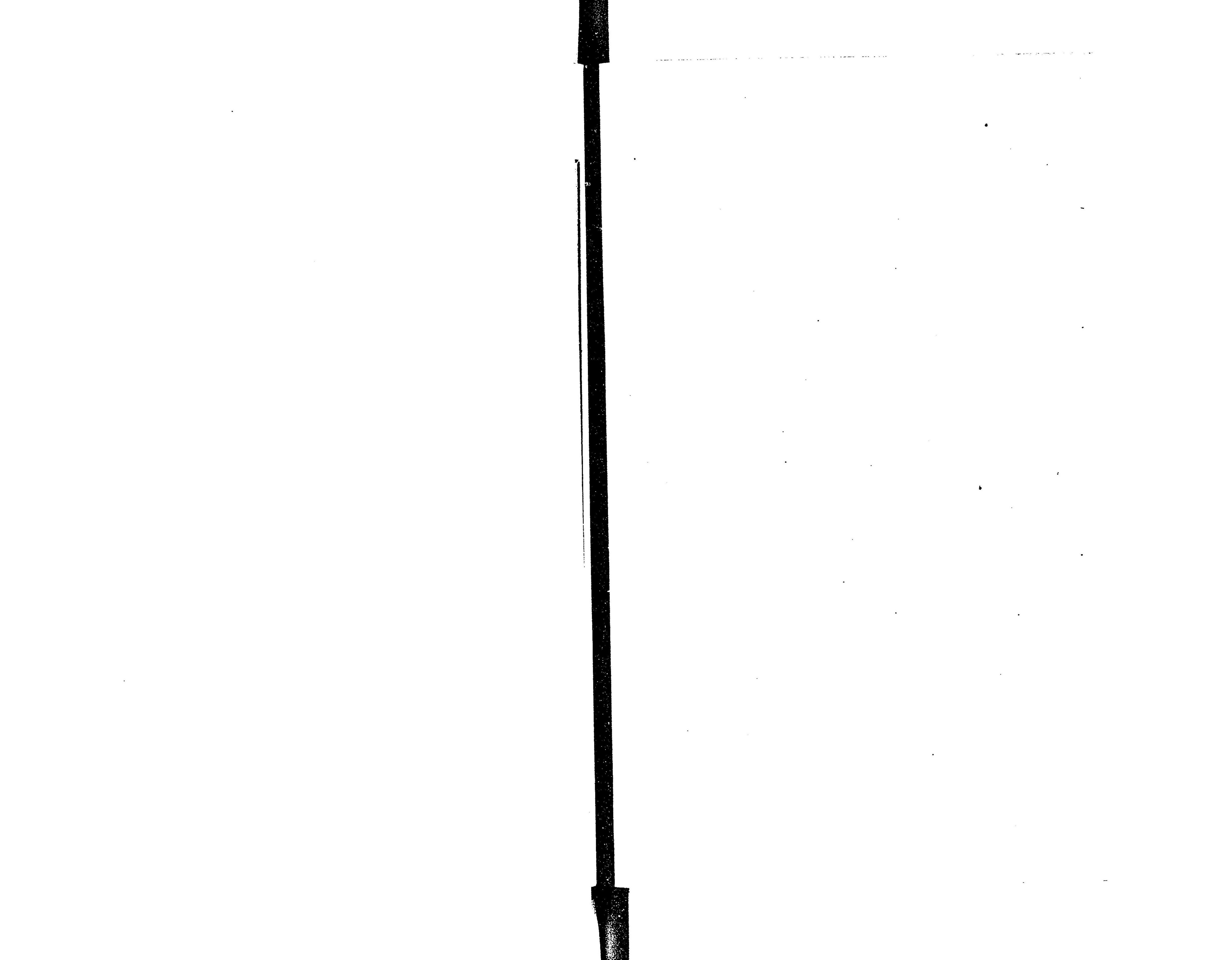
工業補習學校又工業教員養成所附屬工業補習學校ニ就キテモ數言ノ要アラン本校ハ文部省令實業補習學校規程ニ基キテ本年九月規則ヲ改正シ從來稍々普通學校ノ傾向アルヲ廢止シ主トシテ晝間業務ニ服スル年少職工來學ノ便ヲ圖リ教科目モ工業上必要ノモノヲ撰ヒ便宜之ヲ置クコト、爲セシヲ以テ來學者ノ數モ倍々増加シ百七十名ノ多キ就學者ヲ見ルニ至レリ而シテ本校ノ特色トスル所ノ一斑ハ生徒ノ服裝ノ如キモ印半纏ノ輩多ク實ニ彼等カ工場ヨリ歸宅ノ途通學スルモノニシテ

彼等ノ缺課ナシ又彼等受業ノ際其熱心ハ滿面ニ溢ルル等ヲ見レハ新規則實施後日尙淺キモ効果ノ少カサルヲ豫想スルニ難カラサランカ然ルニ目下地方ニ行ハルル工業補習學校中ニハ往往其目的ノ如何ニ關シテ疑ナキ能ハスト雖都會地方ノ工業補習學校ノ如キハ本校ニ倣フハ時宜ニ適スルモノナラン故ニ本校新規則ノ摘要ヲ本一覽中ニ印刷シ參考ニ資セントス蓋シ工業補習學校本來ノ目的ハ徒弟學校等ノ教育ヲ受ケス十二三歳ニ於テ幼工ト爲リタル輩而カモ工人家計ノ便宜上此輩ノ如キハ目下ハ勿論將來トテモ多數ヲ占ムヘキモノナレハ是等ノ輩ニ其業務ニ必要ナル教育ヲ授クルヲ以テ本旨トシテ可ナランカ殊ニ工業ノ發達ヲ必要トスル我國ニ於テ多數適良ノ職工ヲ得ントセハ此ノ如キ夜學校ハ實ニ急務ニ迫レリ世ノ當事者此種ノ教育ニ向テモ厚ク施設スル所アレ歐米國殊ニ獨國ニハ工業補習夜學校ノ制各都會ノ地ニ行ハレ幼年職工ニシテ就學セサルモノハ

僅少ナリト聞ク是レ此種教育ハ彼等ノ技術上進ニ益シ勞銀增收モ其結果ナルノミナラス業主ハ爲メニ良工ヲ得ルニ至リ終ニ現今ノ如ク工業發達ニ與リテ力アルヲ思ヘハ我國モ深ク是ニ鑑ミル所ナクシテ可ナランヤ

附記

本報告ハ本年十月ノ稿ニ係ルヲ以報告中本校教育上ニ關スル希望ハ今回規則改正ノ結果本學年第二學期ヨリ實施スルコトナレリ



19/2/26

本校及附設工業教員養成所卒業生氏名索引

氏名ノ右傍例ヘハニ入應トアルハ明治二十八年本校應用化學科卒業生
ニシテ三ニ養織速トアルハ明治三十二年工業教員養成所機織速成科卒
業生ニシテ其業務等ハ六六頁以下ニ在リ其他之ニ準ス

卒業生氏名索引

い の 部

伊藤宜良 二六 機特
 伊藤傳三郎 三一 機
 伊藤金吾 二八 應
 伊藤 賢 二七 機
 伊東友吉 二九 機
 伊東直 三二 電機
 伊東午次郎 二五 機特
 伊東松作 三三 機
 伊勢堅八郎 二二 機
 伊勢鋒三 三五 織
 伊佐山傳次郎 二五 機
 石川政良 三二 機
 石川昌次 三〇 機
 石川啓助 二一 染速
 石川文藏 二九 染
 石川貞一 二八 機
 石川銀次郎 二二 機
 石川六郎 三三 電機
 石川弘藏 三三 養染
 石坂正衛 二七 染
 石井幸助 二八 應
 石井彌三郎 三三 機
 石原卯八 二二 機
 石原四郎 三五 養木速
 石黒友吉 二五 機特

石丸政太郎 二六 機
 石内紀道 二七 機
 石塚伊平太 三二 養織速
 石塚 豊 三〇 機
 石戸文吉 三一 機
 石浦新吉 三三 養漆速
 石神球一郎 三五 機
 岩下龍太郎 二九 染
 岩船 茂 二一 機速
 岩崎虎夫 二三 機
 岩崎寅造 三〇 養染
 岩本熊雄 二六 機
 岩永秀三郎 二七 機
 岩尾徳太郎 二八 機
 岩根友愛 二八 機
 岩田織吉 三二 電機
 井川 清 三〇 染
 井村乙吉郎 二九 窯
 井村齋六 二七 機
 井上 廉 三一 機
 井上久藏 二一 機速
 井上善次郎 二九 養木
 井上 茂 三三 養圖
 井上斐次郎 三三 養漆速
 井上徳一 三四 機
 井上可吉 三五 機
 井上永太 三五 機

井口第一郎 二八 機
 井深 甫 三四 機
 井深捨吉 三四 養窯
 飯塚彌一郎 三一 染
 飯塚隆次郎 三三 染
 飯河三角 二三 機
 飯島直二 二四 機
 飯田治彦 二六 機
 飯田吉三郎 ばノ部ニアリ
 飯田耕一 三五 機
 飯笹小四郎 二七 機
 飯岡桂太郎 三三 養應
 一色照三 三三 機
 一戸謙吾 三四 色
 一ノ瀬金四郎 三五 機
 市川豊治 二四 窯
 市川竹次郎 二九 機
 市川忠一 三二 機
 市川忠一 三四 養染速
 市井俊孝 二八 養木速
 市村秀治 三三 機
 乾 親 枝 二五 窯
 池田豊男 三二 機
 池田貞治 二八 窯
 池田善四郎 二八 機
 池内要治 二九 應
 池山英二郎 二一 機

池上喜之助 二四 機機
池邊榮太郎 三二 機
生野敏一 二二 機
生地純一 三三 電機
猪川定七 二四 機
猪尾清 三三 電化
猪飼正雄 三五 應
磯爲彦 二七 機
磯谷森之助 二六 機
入江十 三〇 機
入江善太郎 二八 養木速
入枝勝彦 三一 養染速
泉量一 三一 機
板橋甲八 三一 機
板倉甲松 三三 機
板垣元治 三二 養漆速
今井八重助 二八 養陶速
五十子小三郎 三二 養漆速
犬童安一 けノ部ニアリ
稻垣秀定 三四 電機

ろノ部

六角三郎 二八 機

はノ部

林 梁 二一 染
林 一男 二六 機
林 齋爾 三一 養陶速
林 忠夫 二七 機
林 嘉政 三二 機
林 準藏 二五 機
林 精一 二四 染
林 清憲 二九 機

林 清太郎 三一 染
林 金太郎 三三 機
林 常助 三四 應撰
林 冀一 三四 電機
林田忍四郎 二八 機
林田雄真 二九 染
島中牛五郎 二五 染
波藤雅真 二八 染撰
橋本辰二 二五 機
橋本竹之助 三二 養木
橋本卯太郎 二七 機
橋本宇三郎 二九 養應
橋本新一 二六 窯
橋本増次郎 二八 機
橋本駒吉 二八 養木速
橋本修三 三一 機
橋本義夫 三四 機
橋元喜藏 三二 養木
橋爪輔三 三二 電化
橋爪陽三 三五 應
橋田直三 三三 染
早川香苗 三二 機
早川繁雄 二六 應
早崎龜壽 三〇 養染
長谷部小三郎 二二 機
長谷川鏡一郎 二六 應
長谷川茂吉 二三 機
長谷川鋼之九 三四 養陶
原 惠一郎 二八 機
原 清秀 三一 機
原 繁雄 三一 機
原 開四郎 三四 電機
原田又三郎 二七 應

原田正 三三 養木
原村六郎 三五 應
濱訓真 三三 養陶
濱田千代太郎 二七 應
濱田彪 二四 機
濱野繁藏 三五 機
萩原直四郎 二二 機
萩尾善次郎 三五 養金
羽室庸之助 二三 機
春信孝 二八 機
春山敏郎 二五 機
春田宜政 三五 機
間雄次 二七 機
蜂谷齋 二八 機
蜂谷徳三郎 三三 染
服部一平 三二 機
服部可一 三〇 機
服部源太郎 三五 電機
芳賀景介 三一 養應
土生清兵衛 三一 機
飯田吉三郎 三四 養金

にノ部

西山半助 二八 養木速
西山貞 三二 窯
西山峻 三二 養金
西川福馬 二四 機
西川麻五郎 一九 應
西田長海 三一 養染
西田萬藏 三三 機
西橋綱壽雄 二六 機
西原種雄 三〇 機
西村仁治 三二 養金
西岡虎造 三二 電機

西陸暹 三三 機
西尾友言 三三 養金速
西尾助次郎 三四 應
西尾實資 三五 養木
二店壽藏 三二 養金速
二宮輝 三四 機
新名永一 三三 窯
新坂富藏 三四 色
丹羽陽一 三四 機

ほノ部

本田佑武 二一 染
木多哲三 三二 染
木間孫太郎 二九 染
細井亮四郎 二三 染
堀江正三郎 二二 機
堀居佐五郎 二七 機持
堀内四郎 三二 電機
堀田豊治 三二 養染
星野知次 三二 養染
朴正銑 三二 染特
穂保浩一 三三 養染

へノ部

逸見金太郎 二四 機
逸見義平 三一 機
日置慎吉 三二 養織速
平真松助 二六 染撰
別所直正 三五 應撰

とノ部

富田榮太郎 二八 應
富田真治 二〇 染

富田秀三郎 三一 機
富田敬一 三四 機
富岡仁太郎 三一 應
富永章三 三〇 機
富澤信 三三 機
東條二郎 二〇 染
東保三五郎 二一 染
得永文雄 二二 應
徳永長一郎 二七 應
徳田雲三 二六 機
徳久與一 三五 養木速
土居川佐一郎 二八 應
豊丸勝二 二九 應
豊田今吉 三五 養染
鳥谷部末治 二〇 機
鳥田敬雄 二七 機
鳥居準太郎 三一 養應
鳥井榮吉 三一 養漆速
鳥山壽松 三五
戸波季三郎 二五 機
戸谷昌彦 三一 機
十時元 二六 機
遠山竹三郎 二九 機
登坂秀興 のノ部ニアリ
登坂仁太郎 のノ部ニアリ
友野秀俊 三三 機
友成源七郎 三一 養染
土居 昭 三四 機
土井有二 三五 養染速

ちノ部

千葉平次郎 二四 機
千葉了 三四 機

千葉伊平 三五 養織速

ぬノ部

沼野憲三 三二 窯
額田大助 二七 機
布廣岩太郎 三一 養木速

をノ部

岡台治 二七 機
岡三藏 二五 機
岡四郎 二九 機
岡春磨 三五 機
岡本親 二一 應速
岡本猛 二八 機
岡本金一郎 一九 染
岡本彦馬 二七 機
岡本弘馬 三二 機
岡野足吉 二七 染撰
岡野正雄 二三 機
岡部孝 二九 染
岡部秋助 二九 機
岡部達 二〇 機
岡崎政一 二六 機
岡崎善雄 三四 養金
岡山貞吉 三四 機
岡田反吾 三二 電機
岡田音次郎 二七 機
岡田具 三〇 養金
岡田永之進 二九 養織速
岡田信造 三五 電化
岡嶋奈真藏 三〇 機
小幡虎之助 二一 染
小畑繁次郎 二二 應

上松 銈太郎	二二	染
上村 行典	二二	機
粕谷 金太郎	三四	機
鹿 島 英二	三四	養圖
榊 剛	三四	電機
籠 島 孟	三五	機
兼重 讓祐	三五	機
貝 島 定二	三三	機
桂 冬造	三四	機

よノ部

吉本 正雄	三二	應
吉本 丕	二二	染
吉本 勸治	三三	染撰
吉田 敬助	二四	染
吉田 賢吉	三二	養金
吉田 佐次郎	二三	染
吉田 正心	二〇	機
吉田 連	三三	染
吉田 一磨	三四	機
吉井 友志	二八	應
吉村 素彦	二五	應
吉村 真砂丸	三四	應
吉村 梅太郎	三四	機撰
吉澤 源作	二四	機
吉川 房夫	二五	機
吉高 廣	二九	機
吉武 唯一	三二	電速
吉永 幸雄	三一	養織速
吉崎 七次郎	三三	養金
吉原 恭三	三五	機
吉松 孝藏	三五	電機
横山 正順	二一	機速

金森 玄八	三四	應
神澤 翠三郎	二七	染
神尾 金八	二一	機
神田 赫郎	三五	機
葛西 東二郎	二七	染
葛西 德一郎	二一	機
片岡 光馬	二八	養金速
片岡 元彌	二八	染
片岡 金太郎	二五	機
片山 忠三	三五	機
鎌田 次三郎	三一	染
柏村 善八	二七	應
榊 喜雄	二三	染
梶山 山之	三二	應
梶浦 鎌次郎	二二	應
高野 諒治	たノ部ニアリ	
嘉儀 金一郎	二八	應
加瀬 正太郎	一九	機
加藤 豊作	一九	機
加藤 音吉	三一	養應
加藤 貞雄	二七	機
加藤 金作	二四	機
加藤 鉄治	二五	機
加藤 純吾	二八	機撰
加藤 新之丞	三三	機
加藤 鹿之助	三四	機
加來 壽六	三四	電化
帷子 祿郎	二八	應
上月 秀太郎	二八	機
蒲池 信	二九	機
可兒 一雄	二九	機
龜井 伊太郎	三一	養木速
上倉 次郎	三二	養金

かノ部

門田 小三郎	もノ部ニアリ	
河合 忠次郎	二二	染
河井 恭高	三四	機
河原 三郎	三二	應
河村 兎吉	二四	機
河村 久逸	二二	機
河村 牧司	三三	機
河相 直吉	二三	機
河津 七郎	三三	養木
河備 佐久造	三四	機
川邊 中松	三一	染
川島 晋	三〇	應
川島 彦六	三四	機
川田 郁	二九	機
川喜田 生次郎	三〇	機
川合 英太郎	三〇	機
川井 寛次郎	三五	織撰
川副 道夫	三一	養應
川上 爲正	三三	染
笠原 治郎作	二五	染
笠原 健一	二三	染
笠井 壽三郎	三四	機
金子 竹太郎	二六	染
金子 淺之助	三一	機
金子 貞吉	三一	養金
金森 清之助	二四	應
金澤 悦也	二八	機
金木 通之亮	三四	機撰
金井 佐喜太	三〇	機
金井 徳二	三四	色
金谷 幸三郎	三三	養圖

尾藤 剛	ひノ部ニアリ	
尾花 信	三一	機
尾澤 孝光	三五	應
緒形 弘哉	三〇	機
緒方 益太郎	三三	應
沖 尙介	二九	機
圓城寺 清	二七	機

わノ部

渡邊 伊太郎	二八	養陶速
渡邊 準人	三一	養應
渡邊 豊二郎	二七	機
渡邊 勉吉	三二	應
渡邊 勉之助	二二	機
渡邊 彌三郎	三一	養染
渡邊 不二男	二五	應
渡邊 幸次	二五	染撰
渡邊 徹	三二	機
渡邊 明	二九	應
渡邊 季吉	二三	染
渡邊 博	三二	機
渡邊 英二郎	三四	應
渡邊 剛三	三五	機
渡部 謙吉	二三	染
渡利 勉	二七	染
若 泉 鱒	二二	機
若林 貫一	二三	機
若麻 績安治	二九	機
鷺崎 文三	二九	機
和知 時造	三四	養金速
和田 量	三五	機

小川 八助	二四	應
小川 豊吉	二九	養金速
小川 信定	三二	養應
小川 亮吉	三三	電機
小原 省三郎	三一	應
小野 謨	三二	機
小野 眞三	三二	應
小野 大吉	三〇	養染速
小野 喜惣治	二五	機
小野 長	三四	機
小野 寺願平	三四	養織速
小田 善作	三四	機
小田 桐凡彦	三五	電機
小笠 誠之助	二九	養金
小 鹿 鶴彦	こノ部ニアリ	
小竹 聖郷	三三	養木
小山 恭太郎	三四	養應
小山 十一郎	三五	電化
小澤 信次郎	三五	機
大野 部一郎	二六	機
大塚 和吉	二六	機
大塚 武之	二三	機
大塚 久次郎	三〇	染
大場 信吾	三二	應
大山 圭三郎	二九	養金
大山 清一郎	三二	染
大嶋 翼	三〇	機
大島 子之助	三二	染
大原 養浩	二八	染
大原 辰彦	二三	應
大谷 竹吉	一九	機
大谷 資利	二八	機
大石 治家之助	一九	機
大石 鏡吉	二六	機
大角 成允	二〇	染
大角 右門	三〇	應
大友 刀藏	二二	機
大西 陳吾	二四	機
大我好身	二七	機
大宮 熊三郎	二四	機
大川 定治	二五	機特
大橋 熊藏	二六	機特
大橋 浩	三〇	養金
大串 爲太郎	二九	機
大久保 藤吾	二九	機
大久保 彦三郎	三四	機
大里 峻三郎	三二	機
大坂 常治	三三	應
大城 六郎	三三	電機
大澤 猛熊	三四	應
大澤 吉三郎	三四	應
大野 善雄	三四	機
大野 二郎	三五	圖
太田 能壽	一九	應
太田 太	三三	機
太田 兼吉	三四	養圖
太田 金彌	三五	電機
太田 勤治	三五	織
太田 實	三五	應
荻野 覺彦	二三	機撰
奥田 早苗	二五	機
奥村 龜太郎	三二	電化
奥村 次作	三〇	養織速
奥住 檢吾	二七	機撰
尾崎 隆三	二四	機
尾形 作吉	二六	機特

中原正道 三三 養木
 中野長三 三二 機
 中野喜平 三三 養圖
 中尾眞智 三二 電機
 中山周作 三二 機
 中山郁郎 三三 機
 中里新太郎 三三 染
 内藤道太郎 二八 窯
 名和豊 三二 窯
 長其敏郎 三二 窯
 長島七三郎 三〇 機
 長井杏四郎 三一 機
 長岡又三郎 三一 機
 長尾蕭 二九 養木
 橋本英實 二四 應
 橋本眞平 三三 應
 永井米藏 二五 機
 永井政成 二八 機
 永井年郎 三三 養應
 永井信彦 三四 機
 永井源治 三五 養圖
 永井兼藏 三五 染撰
 永松友一 三二 機
 永松傳太郎 二五 機特
 永瀬久七 三四 機
 永岡義道 三四 機
 永松彌太郎 三一 養木速
 永田密三 三二 機
 鳴海初太郎 三一 養金

むノ部
 武藤孫一 二七 機
 武藤朝之助 二五 應

中井喜兵衛 二八 染撰
 中村長 三〇 窯
 中村陽次郎 二二 機
 中村速一 二九 養木
 中村政五郎 二八 應
 中村貢 二〇 機
 中村茂 二六 機
 中村元則 三一 染
 中村佐太郎 三四 機
 中村康之助 三四 養木
 中村昇 三五 窯
 中島半三郎 二八 機
 中島武太郎 三二 染
 中島常三 二九 養木速
 中島正賢 二三 機
 中島誠 三一 養染
 中島重徳 三四 應
 中島市治郎 三五 機
 中川虎太郎 三二 窯
 中川寛一郎 三二 養染速
 中川謙藏 三〇 養金速
 中川常藏 三三 機
 中川秀爾 三五 機
 中川清 三五 電機
 中澤政太 二七 應
 中澤徳之丞 三四 機
 中根由七 一九 機
 中根勸爾 三〇 機
 中坪壽助 二三 窯
 中田龜二 二八 機
 中田徳太郎 三二 養金
 中原綱太 三〇 機
 中原久次郎 二八 機

ダド・シベラム・三四 機特
 シヤリケラム

そノ部
 園川武 三二 機
 曾我榮次郎 三二 機
 曾我正雄 三四 電機
 祖山虎雄 三四 機

つノ部
 津川熊吉 二〇 染
 津森四郎次郎 二四 應
 津隈乙良 二八 機
 津下深 二九 養染
 津田基四郎 二九 養木速
 津々眞麟介 三三 養金
 辻可省 二二 機
 辻彌一郎 二六 機
 辻喜一 二六 窯撰
 角田秀丸 三二 應
 土屋慎治 三二 應
 土屋安彦 三四 養圖
 土田豊作 三二 機
 土田常吉 三二 養金速
 土生清兵衛 ばノ部ニアリ
 鶴崎常雄 二六 機
 堤彦一 三二 機
 坪井安治郎 二九 養木
 塚本長治 三三 電機
 塚原千里 三四 色
 綱島爲三郎 三四 應
 部筑新五郎 三五 應

なノ部

谷口久郎 三〇 染
 谷崎安太郎 二四 機
 谷江長 二八 機
 立野列助 二四 窯
 立石丑五郎 二一 機速
 立花熙 二五 機
 田寺信治 二〇 應
 田中敬信 二一 應
 田中身喜 二四 機
 田中捨之丞 二一 機
 田中昌色 三四 養染
 田中治 三五 機
 田中岩吉 三五 機
 田中龍夫 三五 電機
 田中建彦 三五 應
 田中利三郎 三五 養金
 田上宗次郎 二六 應
 田邊孝藏 二九 應
 田澤謹吾 二二 機
 田所元喜 二八 機
 田内榮 二八 機
 田如政治 三二 機
 田頭均 ぐノ部ニアリ
 田村清七 三五 應
 瀧澤三治 二三 機
 瀧田岩造 三一 養窯
 瀧口廣治 三四 電機
 瀧田利一 三五 機撰
 垂水清 二七 機
 玉島誠造 二八 機
 玉井隆五郎 二九 養木
 平良松助 へノ部ニアリ
 辰巳一男 三四 色

竹原五郎乙 二七 機
 竹田貞吉 三一 機
 竹田要人 三四 機
 竹田環 三五 圖撰
 竹山新吾 二七 機
 武久寅次郎 二六 染
 武市波五郎 二八 機特
 高田直屹 二六 機
 高田和太郎 二三 機
 高田干城 二五 機
 高田吉親 二七 染
 高田申九 三〇 養金
 高木秀太郎 二五 機特
 高木彦三 二九 養機速
 高木清吉 三二 電機
 高木清治郎 三一 養窯
 高木華四郎 三三 養染
 高木茂一 三五 電機
 高橋兵四郎 二七 機
 高橋了 三〇 養金速
 高橋綱吉 三〇 機
 高橋貞吉 二六 機
 高橋次郎 三〇 機
 高橋愛象 三三 機
 高橋茂三郎 三五 養木速
 高野諒治 一九 應
 高松茂之 二七 機
 高北真一 二九 養木
 高井利五郎 二九 養木
 高ノ瀬芳夫 三一 養染
 高柳芳一 三三 機
 高濱圓之一 三三 養金
 高原伍郎 三五 養木速

横山武一 二五 機
 横山茂平 二八 機特
 横山滿 三四 養窯
 横地道三 二二 機
 横塚郁三郎 二三 機
 横澤多利吉 二六 機特
 横井惣太郎 三〇 養窯
 横井寅雄 三四 機
 横田武太郎 三三 養圖
 依田竹二郎 二七 機
 四柳純吉 三五 機
 米原直人 三五 養機速

たノ部
 大角右門 へノ部ニアリ
 大角成允 へノ部ニアリ
 大我好身 へノ部ニアリ
 伊達道太郎 二二 染
 多賀谷伊勢松 二三 染撰
 多田成政 二八 機
 多々真信二 二八 機
 竹下直次郎 二五 染
 竹村得太郎 二八 染
 竹村誠也 三一 機
 竹内大治 二四 應
 竹内卯之吉 三一 養漆速
 竹内次夫 三二 機
 竹内正彦 三二 機
 竹内才摩 二四 機
 竹内祐治郎 三五 染
 竹内勝見 三五 養漆速
 竹中久藏 二九 養木速
 竹尾年助 二七 機

武藤三枝 二七 窯
 武藤直艦 三三 機
 武藤憲三 三五 機
 村井季四郎 二〇 機
 村上兵太郎 二七 機
 村上彌一郎 二五 機
 村上順助 三二 機
 村田芳五郎 二七 機
 村瀬直 二八 機
 村岡益次郎 三三 機
 村山習示 三五 養染速
 迎忠順 三五 機

うノ部

上松銚太郎 かノ部ニアリ
 上野長雄 二三 應
 上野好二郎 二二 窯
 上野金太郎 三四 養木速
 上村行典 かノ部ニアリ
 上田初市 二六 機
 上田貫之助 二六 機
 上月秀太郎 かノ部ニアリ
 上倉次郎 かノ部ニアリ
 梅川徳次郎 二五 染撰
 梅田音五郎 二六 窯
 梅村久磨作 二〇 機
 梅鉢長三郎 三五 養金速
 宇佐美信 二四 應
 宇加非廉造 三三 染
 内山久太郎 二三 機
 内山彌市 二九 養金速
 内村達次郎 二三 機
 内林嘉四郎 二六 機

内海静 二八 機持
 内田仁惣太 三〇 機
 内田乙喜 二九 機
 内田保爾 三五 機
 内坂素夫 三五 電機
 植田助次郎 二三 機
 植田久逸 二二 機
 宇都野初二郎 二四 機
 浦謹爾 二六 機
 湊戸起一 二八 機
 海野幸孝 二九 機
 浦濱惣太郎 三二 電化
 潮田景次 三二 電化
 潮崎源次 三四 機

のノ部

登坂仁太郎 二八 染撰
 登坂秀興 二七 染
 野島信貫 二六 染
 野田忠藏 二八 染
 野田直次郎 三二 養染速
 野田繁 三三 機
 野口大吉 二八 養金速
 野口義比 二五 應
 野口善平 三三 機
 野村果義士 二二 機
 野村真一 二四 機
 野村亭作 二七 機
 野村健 三三 應
 野俣寛治 二四 機
 野崎傳次郎 二七 機
 野澤久吉 三一 養織速
 野間光彦 一九 應

野白金一 三四 應
 則武美夫 三二 機

くノ部

久能省三 二〇 染
 久野金一 三一 應
 久野弘濟 三三 電化
 久末武次郎 二二 染
 久米恒一郎 二七 染
 久米彪郎 二九 機
 久米實 三三 應
 久保田順一 二八 機
 久保田新吉 三〇 養金速
 久保田鎮之 三四 織
 久住久 ひノ部ニアリ
 來住輝雄 三一 機
 黒田隆平 二〇 機
 黒田政憲 二四 窯
 黒田小環次 三一 機
 黒田峰松 二四 機
 黒田精太郎 二三 應撰
 黒田正策 三三 養窯
 黒川主 三二 電機
 國藤廉太 二二 機
 國吉信義 三四 機
 栗田金太郎 二六 機
 栗城信吾 三〇 養陶速
 栗原深造 三三 染
 隈崎佐太郎 二九 機
 熊井泰助 三一 機
 熊澤治郎吉 三〇 養窯
 桑原鎌次郎 三一 機
 桑原貫一 三四 養木

桑原樸 三五 機
 介賀野政三 三二 機
 楠田芳男 三四 機
 楠田孝吉 三四 機
 楠木正明 三四 機
 楠井貫一 三五 電化

やノ部

山口武彦 二四 機
 山口務 一九 染
 山口喜一 三二 染
 山口儀一 三三 機
 山内英太郎 二二 染
 山内榮 三二 機
 山内重馬 二三 機
 山本豊藏 二五 機
 山本祐七 二四 染撰
 山本元明 二一 染速
 山本光男 三四 機
 山田時太 二八 機
 山田恒夫 二〇 應
 山田鎮一郎 一九 機
 山田鑑雄 二七 機
 山田謙次郎 三〇 機
 山田三郎 二八 染
 山田三郎 三三 機
 山田三太郎 三〇 窯
 山田吉十郎 一九 機
 山田信介 一九 機
 山田和三郎 三三 電撰
 山田文慈 三四 機
 山田重雄 三三 機持
 山越八郎 三一 染

山岡順六 二四 應
 山岸平藏 二七 應
 山崎謙 二〇 機
 山崎久太郎 二〇 機
 山縣信義 二八 機
 山下倉太郎 二九 機
 山下茂太郎 三一 機
 山下祥輔 三三 窯
 山根修 三一 養染
 山中又三郎 三四 養染
 安松榮 三三 染
 安武勉太郎 二六 窯
 安田音吉 三一 養窯
 安田恒 二一 機
 安田昌 三三 機
 安田彦治 三五 染
 安田祿造 三五 養陶
 安永省三 三一 機
 安永悟 三四 機
 安岡隆司 三三 機
 安成一雄 三三 養木
 梁瀬眞壽 二九 窯
 柳田英兒 三四 電機
 柳澤典次 二七 應
 矢野丑乙 二八 機
 矢口玉五郎 二九 養金
 矢作銀太郎 三三 機
 彌富源吉 三四 養木速

まノ部

松本馮象 二九 養木
 松本兼一 二九 養陶速
 松本貞太郎 二二 機

松本雄吾 二八 染
 松本愷一郎 二四 機
 松田利勝 三一 機
 松田健彦 三〇 應
 松田萬太郎 二四 窯
 松田銘之助 三〇 染
 松村八次郎 二四 窯
 松井吉造 二一 應速
 松永太郎 三〇 應
 松永永之助 三二 電機
 松江春次 三二 應
 松澤喜和太 二九 養金
 松原益次郎 二五 機
 松政幾太郎 二六 機持
 松岡音吉 三一 機
 松下新三 三三 養木
 松浦孫太 三四 電化
 松隈知一 三五 機
 松尾真助 三五 養木
 木鐸吉 二八 染
 眞野太郎 二二 窯
 眞柳重曆 二五 機
 牧田虎次郎 二八 染
 牧野義雄 二三 機
 牧野啓吾 二九 養木
 牧野賢吉 三三 電機
 牧山正徳 三四 應
 蒔田藏太 三五 染
 前原惣一郎 三〇 染
 前原平一郎 三五 織
 前川源次郎 二二 機
 前田泰次郎 二五 機
 前田雄次郎 二七 機

前田秀光 三五 電化
 前野虎之助 三四 應
 増田熊太郎 二五 機
 増田全吾 三三 電機
 増子勇雄 二九 機
 増山珍吉 二五 機
 増井勝治 三四 色
 益田興三 三五 機
 町野守衛 三四 機
 町田耘平 三二 機
 丸山彦門 三二 電機
 丸田正家 三三 窯
 正木繁次 三三 機

けノ部

犬童安一 二七 機
 支 摺 三二 應特

ふノ部

船坂八郎 二五 染
 船田金太郎 二六 機
 船水武五郎 二七 機
 藤田恒次郎 二七 染
 藤田敏信 三五 機
 藤井龍藏 二四 機
 藤井又四郎 三二 機
 藤江永孝 二二 窯
 藤川勝丸 二六 機
 藤山楨人 二六 機
 藤原林平 二八 機
 藤原寅太郎 三三 窯
 藤野鏡三郎 二八 機
 藤村信也 三三 電機

藤木好雄 三五 養木
 武久寅次郎 六ノ部ニアリ
 更田信綱 二七 染
 更田信四郎 三〇 機
 福家宗太郎 三一 養金
 福富正家 三一 窯
 福田光義 二九 機
 福島信之輔 三二 機
 二見鋼太郎 二三 機
 深澤宮次郎 三三 養圖
 深田藤三郎 三五 圖
 淵江寛 三四 養圖
 古屋季三 三五 應

こノ部

小林一太郎 一九 染
 小林豊造 三二 養金
 小林要次郎 二一 機速
 小林壽秀 三〇 機
 小林 懋 二〇 機
 小林次二 二九 機
 小林貞治 二九 機
 小林銀三 二〇 染
 小林四郎 三三 機
 小林欽一 三四 機
 小林恒藏 三五 電機
 小林誠真 三五 染撰
 小菅久徳 一九 染
 小泉角五郎 二二 窯
 小泉榮次郎 二二 應
 小島代三 二九 機
 小島常太郎 三一 染
 小島正治 三二 應

小島綱一郎 三五 機
 小松幸太郎 二二 機
 小林徳太郎 三五 機
 小杉善吉 二二 機
 小西孝太郎 二四 機
 小池藤太郎 二五 機
 小池熊吉 二四 機
 小鹿鶴彦 二六 機
 小出鋼藏 二六 機
 小出錠雄 二八 機
 小峰芳次郎 三〇 機
 小嶺幸之 二六 機特
 小坂橋和三郎 二八 養染速
 小笠誠之助 六ノ部ニアリ
 小山鶴治 三三 染
 小山恭太郎 六ノ部ニアリ
 小倉正 三四 色
 小室信藏 三三 養圖
 小原惣太郎 三四 養應
 兒島周一 二九 養木速
 近藤寅之輔 二二 染
 近藤一 三五 機
 近藤榮助 三五 養金
 榎田龜壽 三二 應
 榎藤蕭平 三三 機
 古我吉太郎 二三 機
 古賀榮之助 三四 機
 今景彦 二八 機特
 越川銚太郎 九ノ部ニアリ
 後藤嘉宇太郎 三一 養應
 後藤政雄 三三 機
 後藤泰治 三四 應
 康永祐 三二 染特

洪仁杓 三二 特應
 甲田忠之進 三三 養木速
 水場佐吉 三四 機
 駒井四郎 三四 機

えノ部

江藤三生 三二 機
 江藤清角 三四 電機
 江間午三郎 二八 機
 江本泰二 二八 機
 江副爲市 三〇 機
 江柄三七 三一 機
 江頭金一郎 三三 染
 江頭春樹 三五 應
 江口直次郎 三三 電機
 江田鎌次郎 三四 養應
 江野澤龜吉 三二 養木速
 衛藤寅藏 三四 機
 榎本惣太郎 二八 養木速
 榎本勝三 三四 機
 衣斐松雄 一九 機
 衣非安之助 三二 機
 海老名龍四 二三 窯
 海老定徳 二七 機
 遠藤隆太 二九 機
 遠藤榮次郎 二四 機
 遠藤淳 三五 應
 圓城寺清 六ノ部ニアリ
 越川銚太郎 三一 養金
 惠谷一 郎 三五 機

てノ部

出口時之助 二八 養織速

出口直吉 二五 染
 寺本直亮 二五 機
 寺西直 二七 機
 寺内篤三郎 三〇 機
 田頭均 三〇 機
 手塚千代吉 三五 養漆速

あノ部

秋山岩吉 三一 養木
 秋山廣太 二〇 染
 秋山信太郎 三四 養木
 秋保真 三二 電機
 秋保安治 二九 養木
 相川規一 二一 染
 相場勉 一 三二 染
 相澤綱吉 二一 機
 相浦貫一 三二 機
 相田藏六 三一 養織速
 新井要之助 二三 應
 新井宗治 二四 染
 新井鏡太郎 二六 染
 新井教太郎 二九 養應
 新井荒三 二四 機
 新井英次郎 三二 養木
 新谷次郎 三四 養木
 荒井谷吉 三四 色
 有馬廣泰 二四 染
 有岡甲三郎 二一 機速
 青木小一郎 三二 養染
 青木儀助 三一 養漆速
 青木俊造 三一 染
 青木一 三四 電化
 青木達三 三五 機

青山治三郎 二八 養金速
 青柳吾作 三二 養染
 青柳佐彌雄 三五 機
 青江鏡太 三五 機
 足立泰治 二七 機特
 安達若松 三四 養金
 飛鳥井孝太郎 二三 窯
 阿久津節三 三二 應
 阿部圭一 二八 機
 阿部鐵藏 三四 機
 阿部壽 三四 機
 阿部外龜雄 三五 機
 安倍榮四郎 三一 機
 安藤忠四郎 三一 養織速
 安藤厚三郎 二八 機
 安藤仙之助 二二 機
 安藏成一 三〇 機
 安藤鐵作 三五 機
 淺村三郎 一九 機
 淺川權八 三〇 機
 淺野峰治郎 三五 應
 愛甲隆俊 二八 機
 赤司荒一 二九 機
 蘆川真平 三一 機
 天野惣次郎 三二 機
 天野維熊 三二 機
 栗屋富壽 三二 機
 粟生貞一 三四 機
 甘利祐作 三二 養應
 安衛中 三二 染特
 朝原梅太郎 三三 機

さノ部

佐々木高吉 二三 機
 佐々木阿三郎 二一 染速
 佐々木植 三四 色撰
 佐々木清吉 三五 機
 佐竹規方 三二 染
 佐藤馨 三〇 機
 佐藤爲太郎 三一 機
 佐藤信壽 二五 機
 佐藤信雄 三二 機
 佐藤保吉 三〇 應
 佐藤三郎 二七 機
 佐藤徳次 二九 養木速
 佐藤義制 三二 機
 佐藤勇太郎 二五 應
 佐藤政一 三五 機
 佐野多一郎 二二 機
 佐野諍哉 三〇 養金速
 佐野喜太郎 三五 養園
 佐田友雄 三三 染
 佐久間方雄 二八 機
 佐久間石太郎 三三 養窯
 齋藤虎雄 二四 應
 齋藤孝 二五 機
 齋藤甲萬三 三〇 染
 齋藤勇吉 二八 養金速
 齋藤俊吉 二七 染
 齋藤常次郎 三三 機
 齋藤久孝 三三 養木
 齋藤吉廣 三二 養染
 齋藤長二 三五 機
 齋間貞之丞 二二 機

齋木虎吉 二九 機
 澤全雄 二九 應
 作山專吉 二〇 機
 笹村萬藏 二五 機
 笹部龍四郎 二六 機
 坂内孫六 二五 機
 坂本熊藏 二九 養木
 坂本菊吉 二八 養織速
 坂本盛一 三三 窯
 坂井勝 三四 織
 里内常太郎 二七 機
 酒井熊夫 三〇 機
 崎田弘 三二 機
 皿田精一 三二 電機
 三條榮三郎 三一 養木速
 三枝基太郎 二六 機
 崔奎翼 三二 染特
 財津令藏 三三 機
 定平建太郎 三四 電機

きノ部

北村篤一郎 二三 窯
 北村剛 三二 機
 北村正雄 三三 機
 北村辰助 三五 機
 北山一太郎 二五 機
 北澤岩治 三一 養木速
 吉真孫三郎 二二 應
 岸五郎 二五 應
 岸久重 二四 應
 岸本主馬 三一 機
 岸木節男 三〇 機
 岸山憲二 三一 機

木下研三 三二 應
 木下勇茂 二七 機
 木戸傳 二四 機
 木戸三郎 三四 電機
 木川行藏 二九 機
 喜多正藏 三三 機
 喜多野逸次 三〇 機
 喜多島二虎 三二 機
 喜多島貫二 三五 機
 菊原貞一 三二 機
 菊池節也 三三 電機
 菊地午之助 二八 機特
 貴島勇介 三三 機
 金鼎禹 三三 機特

ゆノ部

山布高 二七 機
 弓氣田弘 三二 機

めノ部

目賀田壽 三二 機

みノ部

水田五 二二 染
 水野忠真 二六 機
 水野環 三二 機
 水野清瀨 三二 機
 水野太郎作 三三 應
 水内六太 三三 電機
 水谷誠之助 三五 織
 水崎鐵次郎 三五 應
 都澤正章 二六 染
 三宅叔藏 二〇 機

三木正夫 二一 機速
 三木鹿三郎 三三 電機
 三井四一郎 二五 機
 三枝基太郎 さノ部ニアリ
 三浦梅之助 二八 機
 三好唯吉 二八 機
 三好三也 三四 應
 三村保 二九 機
 三上虎太郎 三二 養應
 三上壽松 三四 織
 三浦清海 三四 機
 三浦大造 三五 應
 宮川一 三〇 機
 宮川萬手彦 三二 電化
 宮川正夫 三五 染
 宮石十四郎 二九 機
 宮部直哉 三〇 機
 宮崎方信 三一 機
 宮崎喜佐次 二九 養木速
 宮崎嘉明 三五 電化
 宮地貞恒 三三 機
 宮澤鶴次郎 三一 機
 宮之原通徹 三三 窯
 宮本常夫 三五 染
 峰田善助 二九 養金速
 藥袋順雄 二九 機
 美馬延吉 三三 應
 御手洗道一 三三 應

しノ部

柴田才一郎 一九 染
 柴田鶴次 三一 機
 柴田租一 三三 應

柴野興五郎 二九 養木速
 柴友吉 三〇 養金
 柴山興四郎 三三 養金
 下山又次郎 二三 染
 下斗米半治 二九 應
 志田彦十郎 二三 染撰
 志賀幹次郎 三〇 機
 志倉光繼 三二 機
 志村龍 三三 電機
 鹽原鈞 二七 染
 鹽見義夫 三二 機
 鹽谷朝一 三三 機
 鹽田亥之助 三三 機
 篠彌太郎 三五 機
 篠崎友三 二五 窯
 清水忠平 三二 應
 清水千穂彦 三三 應
 庄野龜次郎 二九 機
 庄司兼治 三一 機
 東山多三郎 二八 養木速
 白戸半平 二八 養染速
 白井真一 三三 機
 重成壽太郎 二九 養金
 重信國吉 三〇 養木速
 島邦生 三〇 養木
 島田房太郎 三三 電撰
 島田綱市 三四 養窯
 島田慎二 三五 應
 島本真助 三四 電機
 進士知郎 三三 應
 進藤省吾 三五 機
 進藤俊介 三五 電化撰
 澁谷廣次 三五 養染

ひノ部

平田專太郎 一九 染
 平尾鉄三郎 一九 染
 平尾英臣 三四 養應
 平良松助 へノ部ニアリ
 平野耕輔 二四 窯
 平野將 二五 機
 平松藤太郎 三二 機
 平松武 二六 應
 平松甚吉 三四 機
 平松彦平 三五 織
 平澤平吉 二五 機
 平岡三郎右衛門 三三 機
 廣井鋼之助 二一 染速
 廣井義男 三〇 應
 廣木八郎 二六 機
 廣田本一郎 二八 機
 久末武次郎 くノ部ニアリ
 久松源次郎 二七 應
 久野金一 くノ部ニアリ
 久住久 三四 窯
 樋渡重右衛門 二四 機
 樋口清 三四 電機
 尾藤剛 二五 機
 疋田支龜 三一 機
 日向野儀四郎 三一 機
 日置備吉 へノ部ニアリ
 日根野太作 三四 機

もノ部

茂呂信義 一九 染
 茂又確 二 三〇 機

毛呂圓策 二九 養應
 門田小三郎 二一 染
 森田儀一郎 二八 應
 森田修 二五 應
 森田晨次 三三 機
 森田太三右衛門 三五 應
 森田茂樹 三五 圖
 森俊之助 三二 染
 森勇三郎 三〇 養窯
 森照 三四 養染
 森澤菊吾 二五 機特
 森戸政治 二七 機
 森川龍喜代 二八 機
 森本常治 三一 養木速
 森本十七八 三三 養圖
 森山弘助 三四 織
 本尾安次郎 三〇 機
 本山環平 三〇 機
 百武欽二郎 三〇 機
 毛利教明 二九 應
 望月正一 三三 電機

せノ部

關口寛一郎 一九 窯
 關口隼吉 一九 染
 關口八重吉 二九 機
 關本幸次郎 三〇 染
 關根嘉助 二四 機
 關岡豊治 三五 機
 勢家弘藏 二二 染
 清家慶治 三五 應
 瀬谷準造 二九 應
 瀬古太一郎 三四 應

芹澤景邦 三二 應
 千田凡男 三〇 機
 仙石正真 二九 養金速
 妹尾山藏 三三 養應

すノ部

菅谷元治 二一 染
 菅原富治 三〇 養木速
 杉田稔 二七 機特
 杉田清吉 二二 染
 杉山真俊 二五 染
 杉井文平 三二 染
 杉本源吾 二一 機
 杉原平太郎 二五 機
 杉谷四郎 二七 機
 杉浦倉次郎 二七 機特
 杉目宗助 三五 圖
 鈴木育太郎 三〇 機
 鈴木兼吉 三一 機
 鈴木廉之助 二三 染
 鈴木金藏 二七 應撰
 鈴木實 二六 機
 鈴木重義 三二 機
 鈴木廣太郎 三二 機
 鈴木仙次郎 二九 機
 鈴木鈴馬 二六 機
 鈴木捨藏 三四 機
 鈴木定一 三四 養金
 鈴木惣十郎 三四 養金速
 鈴木得助 三五 機
 角田秀丸 つノ部ニアリ
 住田方次郎 二五 機
 住友兼吉 二九 養應

澄川久吉 三四 機

明治三十五年十二月十日印刷

明治三十五年十二月十二日發行

東京高等工業學校

東京市淺草區藏前片町

印刷者

佐久間 衡治

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

印刷所

株式會社 秀英 舍

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

115L-85

